

## 西岩野2

—新潟県柏崎市 西岩野遺跡（第5次）発掘調査報告書—

2019  
(平成31年)

柏崎市教育委員会

# 西 岩 野 2

— 新潟県柏崎市 西岩野遺跡（第5次）発掘調査報告書 —

2019  
(平成31年)

柏崎市教育委員会



# 序

柏崎市には、弥生時代中期に水稻栽培を行った人々が営んだ集落である下谷地遺跡があります。発見当時は新潟県内でも最も古い時期の農耕集落であるということ、また、当時の住居や墓といった集落を構成する遺構が良好に残っていたといった重要性から、昭和54年（1979年）に国史跡に指定されました。柏崎の土地が肥沃で生産性が高かったことと、この地域が地域間交流において重要な位置を占めていたことから、新潟県の中でも早い段階に水稻栽培が伝わってきたと考えられます。

その下谷地遺跡が廃絶し、しばらくたってから西岩野遺跡は成立したようです。下谷地遺跡は水田に囲まれた平地にありました。これに対し、西岩野遺跡は岩野台地と呼ばれる丘陵の上にあり、ここからは広く柏崎平野を見渡すことができます。この西岩野遺跡の発掘調査で、新潟県内では初めてとなる弥生時代の大型掘立柱建物が出土しました。神殿のような大きな建物が丘の上に建てられ、その周りにはいくつもの墓が作られていました。墓の中にはヒスイ製の勾玉やガラス玉などからなる装飾品が納められていました。その他にも、弥生時代の環濠や古墳時代の墓も見つかり、多大な成果を得ることができました。これらの調査成果は大きな注目を集め、調査中に行なった現地説明会には約400名という大勢の方に見学していただきました。

本書はこのような成果を記した調査報告書です。今後、地域の歴史を知るための一助として用いていただければ幸いです。

最後に、事業主体者である新潟県、調査に格別なる御協力と御配慮をいただいた地域の皆様、御指導くださった新潟県教育委員会、並びに種々のご教示を賜った諸先生方、ご協力をいただいた諸機関、発掘調査に携わった皆様や関係者各位に対し、深く感謝申し上げます。

平成31（2019）年3月

柏崎市教育委員会

教育長 本間敏博

# 例　　言

1. 本報告書は、新潟県柏崎市大字山本、土合、長崎地内に所在する西岩野遺跡の発掘調査の記録である。
2. 本発掘調査は、新潟県（柏崎地域振興局 地域整備部 道路課）を事業主体とする一般県道黒部柏崎線道路改良工事（山本拡幅）に伴い、新潟県から柏崎市が受託したものである。
3. 本発掘調査は、柏崎市教育委員会が調査主体となって実施した。
4. 発掘調査における現場作業は平成 29 年(2017 年)7 月 10 日に着手し、基礎整理作業を含め平成 30 年(2018 年)3 月 15 日まで実施した。整理作業及び報告書作成については、平成 30 年(2018 年)6 月 12 日から平成 31 年(2019 年)3 月 15 日まで実施し本報告書を刊行した。
5. 本事業の発掘調査・基礎整理作業・整理作業・報告書作成は、柏崎市が藤村ヒューム管株式会社 本社営業部 柏崎営業所（以下、藤村ヒューム管）に業務委託して実施した。ガラス小玉の分析・撮影は独立行政法人奈良文化財研究所都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）考古第 1 研究室研究员の田村朋美氏の協力を得た。また、炭化物の放射性炭素年代測定については、藤村ヒューム管から再委託を受けた株式会社加速器分析研究所により実施した。
6. 本事業の現場作業における写真撮影および土層の分層、注記は安達尊伸、高橋広太（藤村ヒューム管）が行い、平面図と断面図は安達、高橋の指示のもと補助員が実施した。
7. 本報告書で使用した土層断面の注記内の土色の表記および遺物観察表中の土器等の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局ならびに財團法人日本色彩研究所監修の「新版 標準土色帖」に準拠した。
8. 本報告書で使用した方位は座標北、座標値は世界測地系（測地成果 2011）である。
9. 出土遺物には遺跡名の略号として「ニシイワ II」と注記し、遺構名・グリッド・層序を併記した。
10. 本報告書の執筆は、第 I 章 1 ~ 4 を中島義人（柏崎市教育委員会）、第 IV 章を丹 俊詞・春日雅美（藤村ヒューム管）、第 VI 章 1 を株式会社加速器分析研究所、第 VI 章 2 を田村朋美（独立行政法人奈良文化財研究所）、その他は丹が行った。編集は中島の監修のもと丹が行った。
11. 本遺跡の調査成果は、現地説明会等で公表しているが、本報告書の記述をもって正式な報告とする。
12. 本報告書では遺構の種別ごとに記号を用いて一連番号を付した。  
ピット・柱穴 = P、土坑・土壤墓・陷穴 = S K、掘立柱建物 = S B、  
円形周溝状遺構・周溝墓 = S Z、溝状遺構 = S D、欄列 = S A
13. 本事業で出土した遺物ならびに調査や整理業務の過程で作成した図面・記録類は、すべて一括して柏崎市教育委員会が保管・管理している。
14. 発掘調査の準備段階から本報告書作成に至るまで、多くの方々や機関から御助力と御理解、ならびに御教示を賜った。ここに記して、厚く御礼を申し上げる。

（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業团 独立行政法人奈良文化財研究所

新潟県教育委員会 山本町内会 山本農家組合

石川智紀 石川日出志 大賀克彦 加藤学 木島勉 久住猛雄 笹沢正史 沢田敦 白井雅明

閑雅之 滝沢規朗 田中耕作 田村朋美 福宜田佳男 箱崎和久 橋本博文 浜崎悟司

広瀬和雄 山岸洋一 渡邊朋和（五十音順、敬称略）

# 目 次

第Ⅰ章 調査の経過と組織 .....	1
1 遺跡の発見とこれまでの調査 .....	1
2 試掘調査に至る経緯 .....	1
3 試掘・確認調査 .....	2
4 本発掘調査に至る経緯 .....	3
5 発掘調査の経過 .....	4
6 調査体制 .....	5
第Ⅱ章 遺跡をとりまく環境 .....	6
1 遺跡の位置と地理的環境 .....	6
2 遺跡周辺の歴史的環境 .....	8
第Ⅲ章 調査概要 .....	12
1 調査区とグリッドの設定 .....	12
2 基本層序 .....	13
3 調査の方法 .....	13
4 整理作業の方法 .....	15
第Ⅳ章 遺構 .....	17
1 遺構の概要と記述方法 .....	17
2 弥生時代後期から古墳時代前期の遺構 .....	18
3 その他の時代の遺構 .....	31
第Ⅴ章 遺物 .....	32
1 遺物の概要 .....	32
2 弥生時代後期から古墳時代前期の遺物 .....	33
3 繩文時代の遺物 .....	37
4 古代の遺物 .....	37
5 時期不明の遺物 .....	38
第Ⅵ章 自然科学分析 .....	39
1 西岩野遺跡における放射性炭素年代(AMS測定) .....	39
2 西岩野遺跡出土ガラス小玉の分析 .....	42
第Ⅶ章 まとめ .....	44
1 はじめに .....	44
2 遺構・遺物について .....	44
3 まとめ .....	52
<要 約> .....	55
<引用・参考文献> .....	56
<附 表> .....	59
<報告書抄録> .....	卷末

## 図版目次

### 図面図版

- 図版1 西岩野遺跡位置図  
図版2 全体図  
図版3 グリッド設定図  
図版4 分割図1  
図版5 分割図2  
図版6 分割図3  
図版7 遺構個別図1  
図版8 遺構個別図2  
図版9 遺構個別図3  
図版10 遺構個別図4  
図版11 遺構個別図5  
図版12 遺構個別図6  
図版13 遺構個別図7  
図版14 遺構個別図8  
図版15 遺構個別図9  
図版16 遺構個別図10  
図版17 遺構個別図11  
図版18 遺構個別図12  
図版19 遺構個別図13  
図版20 遺構個別図14  
図版21 遺構個別図15  
図版22 遺構個別図16  
図版23 遺構個別図17  
図版24 遺構個別図18  
図版25 遺構個別図19  
図版26 遺構個別図20  
図版27 遺構個別図21  
図版28 出土遺物1  
図版29 出土遺物2  
図版30 出土遺物3  
図版31 出土遺物4  
図版32 出土遺物5

### 写真図版

- 図版33 調査区1  
図版34 調査区2  
図版35 調査区3  
図版36 掘立柱建物 (SB1) 1  
図版37 掘立柱建物 (SB1) 2  
図版38 掘立柱建物 (SB1) 3  
図版39 方形周溝墓 (SZ3) 1  
図版40 方形周溝墓 (SZ3) 2  
図版41 円形周溝状遺構 (SZ1) 1  
図版42 円形周溝状遺構 (SZ1) 2  
図版43 遺構1  
図版44 遺構2  
図版45 遺構3  
図版46 遺構4  
図版47 遺構5  
図版48 遺構6  
図版49 遺構7  
図版50 遺構8  
図版51 遺構9  
図版52 遺構10

- 図版53 遺構11  
図版54 出土遺物1  
図版55 出土遺物2  
図版56 出土遺物3  
図版57 出土遺物4  
図版58 出土遺物5

## 挿図目次

- 第1図 西岩野遺跡第3次・第4次調査  
トレント位置図 ..... 3  
第2図 西岩野遺跡の位置と柏崎の地形 ..... 7  
第3図 西岩野遺跡と周辺の遺跡分布図 ..... 9  
第4図 柏崎日報2017年11月1日 ..... 11  
第5図 西岩野遺跡グリッド配置図 ..... 12  
第6図 土層柱状図 ..... 14  
第7図 基本層序 ..... 14  
第8図 遺構の形態分類図 ..... 17  
第9図 SB1計測値 ..... 19  
第10図 SZ3平面図 ..... 21  
第11図 SZ4平面図 ..... 22  
第12図 SZ5平面図 ..... 23  
第13図 SZ6平面図 ..... 23  
第14図 SZ1平面図 ..... 25  
第15図 土器分類図 ..... 32  
第16図 管玉10穿孔状況 ..... 33  
第17図 暦年較正年代グラフ(参考) ..... 41  
第18図 化学組成によるカリガラスの細分 ..... 43  
第19図 新潟県内の高地性集落・環濠集落の  
遺跡分布図 ..... 45  
第20図 開運橋遺跡(1)と下大隈式土器(2) ..... 46  
第21図 周溝墓の形態分類図 ..... 48  
第22図 新潟県内における弥生時代中期から  
終末期の周溝墓一覧と分布 ..... 49  
第23図 新潟県内における弥生時代のガラス  
小玉出土遺跡の分布 ..... 49  
第24図 新潟県内における古墳時代前期から  
中期の墳墓の分布 ..... 49  
第25図 第2次調査の大溝と第5次調査の環濠 ..... 51  
第26図 弥生時代中・後期の主要遺跡と吉井行  
塚古墳群(正保二年越後絵図) ..... 52  
第27図 弥生時代中・後期の主要遺跡と吉井行  
塚古墳群(明治44年柏崎市地図) ..... 53

## 挿表目次

- 第1表 西岩野遺跡発掘調査の履歴 ..... 2  
第2表 西岩野遺跡発掘調査工程表 ..... 4  
第3表 西岩野遺跡調査指導 ..... 5  
第4表 西岩野遺跡周辺の遺跡 ..... 10  
第5表 放射性炭素年代測定結果( $\delta^{13}\text{C}$ 補正值) ..... 41  
第6表 放射性炭素年代測定結果 ..... 41  
( $\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用14C年代、較正年代)  
第7表 ガラス小玉の蛍光X線分析結果 ..... 43  
第8表 新潟県内の弥生時代の主要遺跡における  
掘立柱建物 ..... 44

# I 調査の経過と組織

## 1 遺跡の発見とこれまでの調査

柏崎市は、新潟県中越地方の南西部に位置し、42kmに及ぶ海岸線で日本海に面する。市域の北東部は鰐石川の支流である別山川沿いに沖積地が形成され、その西側を荒浜砂丘とこれに連なる西山丘陵が国上山、弥彦山へと続いている。

この荒浜砂丘から東へ舌状に突き出た標高30m前後の低位丘陵は岩野台地と呼ばれ、台地頂部の平坦面は、幅100mから150m程度、長さ800m以上に広がっている。岩野台地の中央をJR越後線が南北に通り台地を東西に二分しており、西側でも県道黒部柏崎線が台地を大きく開削して南北に通されている。この台地の先端部側となる東側の台地上で岩野遺跡が西岩野遺跡よりも先に発見されていた。荒浜砂丘砂層Ⅱの堆積がそれほど深くなかったため、明治時代初期には耕作等に伴って土器が出土することが知られていたとされる。ただし、周知化されたのは新潟県教育委員会（以下、「県教委」）が遺跡分布調査を行った昭和47年度（1972年度）のことであった。昭和49年度（1974年度）には、宅地造成工事に伴う発掘調査を柏崎市教育委員会（以下、「市教委」）が行った。この調査は全面調査ではなかったが、堅穴住居4基や地下式壙1基を検出し、出土遺物は平箱で100箱に及んだと報告されている。遺物の大半を占めるのは、縄文時代中期中葉から後葉を主体とした土器や石器で、土偶も2点出土した。また、遺構は未確認であるが、弥生時代以降の遺物も出土している。弥生時代のものでは、中期の山草荷式や後期後半の土器があり、古墳時代前期の土師器、古代以降では須恵器と珠洲も出土している。なお、この発掘調査報告書では岩野台地の西部までを岩野遺跡として括っているが、遺跡範囲について詳細な記述はされていなかった。

西岩野遺跡は、新潟県教育委員会が昭和58年度（1983年度）に行った詳細分布調査によって周知化された。しかし、岩野遺跡より荒浜砂丘に近いこの範囲では荒浜砂丘砂層Ⅱが厚く堆積しているため、地表下の様相は判然とせず、遺跡の時期や範囲は明確にはできなかったようである。この時には一般県道荒浜安田線（現荒浜中田線）の改良工事が始まっており、西岩野遺跡の範囲内でも大規模な掘削工事が予定されていた。このため、市教委と新潟県柏崎土木事務所（当時）は西岩野遺跡の取扱いについて協議を行い、昭和60年度に試掘調査を、昭和61年度（1986年度）には約800m<sup>2</sup>を対象に記録保存のための本発掘調査を行った。この本発掘調査では幅4.5m、深さ1.5mの大溝をはじめ、住居や土坑等が見つかった。出土した土器は弥生時代後期後半のものが大半を占めた。調査範囲が狭いために、大溝の性格は明らかにできなかつたが、西岩野遺跡が台地上の環濠集落である可能性は指摘されていた（柏崎市教育委員会1987）。

## 2 試掘調査に至る経緯

今回の発掘調査は、新潟県が事業主体で柏崎地域振興局地域整備部（以下、「地域整備部」）が担当する一般県道黒部柏崎線道路改良工事に伴うものである。県教委が平成21年（2009年）に行なった土木工事状況調査で地域整備部より事業計画が提示され、平成22年（2010年）1月に埋蔵文化財の取扱いについて地域整備部と市教委が協議を行った。この時点で西岩野遺跡の周知範囲は道路法線まで及んでいなかつたが、遺

跡に隣接するため事前に試掘調査を実施することで合意した。

平成22年(2010年)10月の協議で、用地買収を平成23年度(2011年度)から開始し、早ければ平成24年度(2012年度)から埋蔵文化財に影響のない部分から工事に着手するとの説明を受けた。市教委は用地買収の進捗に合わせて試掘調査を行うこととした。

平成26年(2014年)4月の協議で、工事の進捗状況や用地買収の状況について説明を受けた。西岩野遺跡の付近での工事予定が近づいてきたこと、用地買収がほぼ完了したことから、市教委は試掘調査を同年5月から実施することとした。

### 3 試掘・確認調査

平成29年度(2017年度)の調査まで西岩野遺跡では試掘調査を合わせて5回の発掘調査が行われており、今後も調査を継続することから、調査名を第1表のとおり整理した。本報告に関わる本発掘調査は第5次調査となり、これに先立つ試掘・確認調査は第3次調査と第4次調査である。

#### 第3次調査（試掘調査）

事業予定範囲に西岩野遺跡の範囲が及んでいるかを確認するための試掘調査である。平成26年(2014年)5月に実施することを計画した。山林のため調査対象地に重機を乗り入れることが困難なため人力でトレーニチを掘削することとした。しかし、荒浜砂丘砂層Ⅱが2m以上堆積しており、崩れやすく、遺物包含層まで掘り下げる非常に困難であった。そのため、3ヵ所のトレーニチを調査したところで一度調査を中断した。砂層を約2m近く掘り下げたため、トレーニチの底部で検出できた範囲は50cm四方程度と狭小となってしまったが、遺物が含まれていることと、床面に遺構とみられる落ち込みがあることを確認した。同年10月、調査計画を見直し、小型のバックホウを導入して試掘調査を再開した。任意に設定した12ヵ所のトレーニチで調査を行った結果、調査対象地の全域に遺構や遺物が分布していることを確認した。しかし、トレーニチが狭小なため、遺構密度や遺物量を推定することはできなかった。

この試掘調査の結果により、西岩野遺跡の範囲を変更する旨の通知を県教委へ行った。また、地域整備部と遺跡の取扱いについて協議を行った。

#### 第4次調査（確認調査）

第3次調査の結果を基に地域整備部と西岩野遺跡の取扱いについて協議を行い、事前に記録保存のための本発掘調査を実施することになった。しかし、第3次調査の調査成果では本発掘調査に必要な作業量を

調査種別	調査期間	調査原因	備考
詳細分布調査	S58	県教委詳細分布調査	遺跡の発見
第1次 試掘確認調査	S60.9.26～10.3	一般県道荒浜安田(現荒浜中田)	本発掘調査必要範囲を確認
第2次 本発掘調査	S61.6.3～7.23	一般県道荒浜安田(現荒浜中田)	弥生時代の大溝・住居等[市教委1987]
第3次 試掘調査	H26.5.20～10.21	一般県道黒部柏崎線道路改良工事	遺跡範囲拡大[市教委2016]
第4次 確認調査	H28.9.7～9.8	一般県道黒部柏崎線道路改良工事	遺跡内容を確認[市教委2017]
第5次 本発掘調査	H29.7.10～12.21	一般県道黒部柏崎線道路改良工事	弥生時代の大型建物を県内初確認

第1表 西岩野遺跡発掘調査の履歴

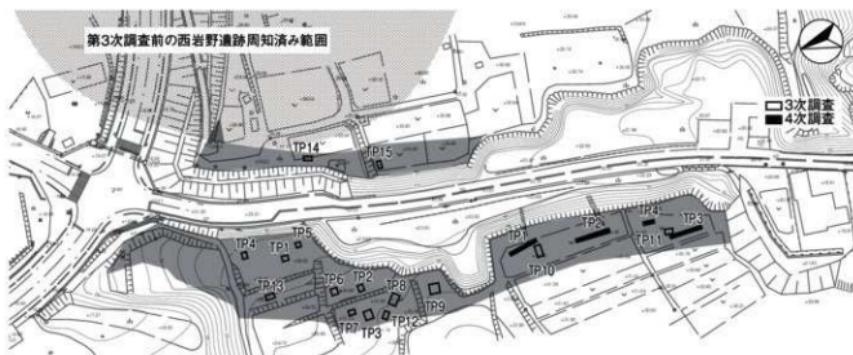
積算するには資料不足であった。そのため、市教委は本発掘調査の実施に必要な情報を収集することを目的に確認調査を行うこととした。調査対象範囲は平成30年度(2018年度)に工事を予定された約880m<sup>2</sup>である。平成28年(2016年)9月7日～8日に4か所のトレンチを設定して約19.9m<sup>2</sup>で調査を行った。この調査で遺構検出面が2層に分かれることを確認した。上層の遺構として幅1.5m、深さ0.5mで東西方向に続く溝を確認でき、下層の遺構では、幅2mで深さ0.8mの溝をはじめ、ピットや土坑等を検出した。遺物は土器が出土したが、小破片で器形をうかがい知れるものはなく、出土量も少ないため、各遺構面の時期を判断することは難しかった。しかし、第2次調査では中世の溝が複数見つかっており、上層の溝はこれに対応するものと考えた。また、下層の大型の溝は、第2次調査で見つかった大溝に関係するものとこの段階では想定した。

この確認調査の結果をもとに市教委は発掘調査の計画を策定し、地域整備部と本発掘調査の実施について協議を開始した。

#### 4 本発掘調査に至る経緯

これまでの試掘・確認調査の結果と協議の経過を受けて、平成29年度(2017年度)に道路法線の南半分で記録保存のための本発掘調査を行うことになった。新潟県柏崎地域振興局長は、平成28年(2016年)12月14日付け柏振地第381号で文化財保護法第94条第1項の規定による通知を新潟県教育委員会教育長へ提出した。これに対して県教育長は、平成28年(2016年)12月28日付け教文第1099号の2で発掘調査を実施する旨を柏崎地域振興局長へ通知した。

地域整備部と市教委で調査計画の詳細について協議を続け、柏崎地域振興局長と柏崎市長は平成29年(2017年)3月30日付けで「埋蔵文化財(西岩野遺跡)発掘調査およびその整理業務に係る覚書」を締結した。平成29年(2017年)6月9日付けで新潟県知事と柏崎市長が「平成29年度西岩野遺跡発掘調査委託契約」を締結し、市教委は発掘調査業務に着手した。文化財保護法第99条第1項の規定による報告は、平成29年(2017年)7月3日付け博第556号で行った。



第1図 西岩野遺跡第3次・第4次調査トレンチ位置図 (1/1500)

## 5 発掘調査の経過

平成29年(2017年)6月28日に柏崎市と藤村ヒューム管株式会社 本社営業部 柏崎営業所が西岩野遺跡発掘調査業務委託契約を締結し、翌29日に工程等の打ち合わせを柏崎市埋蔵文化財事務所において行った。その後に現地にて転落防止柵の設置や機材の搬入等の詳細な打ち合わせ協議を行った。7月3日に現場の地元である山本地区の町内会長を訪問し、挨拶と調査の説明を行った。4~19日にかけて、調査を実施するにあたっての事前準備を行った。その際に、搬入路の脇に馬頭観音や祠、石碑があることを確認した。5日に調査区の現況写真を撮影し、11日には調査区の設定を行った。調査区周辺は現地表面が砂丘であり崩落の危険が非常に高いため、境界から約2mの距離をとり調査区を設定し、進入禁止と転落防止のためのフェンスを設置した。

11日の午後から13日までバックホウにより調査区の南から表土剥ぎを実施した。調査区南端部分には基本層序等の確認のため、トレッチを設定し掘削を行った。前述したように調査区西側には畝が隣接し、現地表面は砂であり調査区西側壁が崩落する可能性が高いため、矢板を打ち込むことにし、14~19日にかけて矢板の打ち込みを行った。20日からバックホウによる表土剥ぎを再開し、28日に終了した。26日から作業員による包含層掘削や遺構検出のための精査などの調査を開始した。9月26日に1回目の空中写真撮影を行い、29日から第2面の調査を開始した。11月1日の午前中に市長記者会見で発掘調査の成果を発表し、午後から報道関係者に対して現地公開を行った。3日に現地説明会を実施し、約375名の方に見学していただいた。17日に2回目の空中写真撮影を行い、28日にすべての遺構の調査を完了した。その後、現場事務所で方形周溝墓の覆土のウォーターセパレーションをするとともに、遺構や記録類の基礎整理作業を行った。12月15日から調査区の埋め戻しを開始した。遺構面を仮保存するため、埋め戻しには砂を用い、ブルーシートをかけて養生した。同様の理由で、矢板の撤去は行わず残置した。21日に調査区の埋め戻しを完了した。残土の搬出を平成30年(2018年)1月25日まで行い、26日に現場仮設物を撤去し、すべての現場作業が終了した。

現場作業は7月26日から12月22日までの期間において実施した。調査は約900m<sup>2</sup>を対象に2面で行ったため、総面積は1,800m<sup>2</sup>である。

なお、発掘調査中からその後の整理作業・報告書刊行に至るまで、多くの方々から指導を賜った。

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
準備・撤収	→						→	
表土剥ぎ	→							
遺構確認		→ 第1面		→ 第2面				
遺構発掘		→ 第1面		→ 第2面				
遺構測量		→ 第1面		→ 第2面				

第2表 西岩野遺跡発掘調査 工程表

日付	指導者(所属等は当時のもの)
平成29年(2017年) 9月 29日	瀧沢 規朗(新潟県教育庁文化行政課 副参事)
10月 5日	渡邊 朋和(新潟市文化財センター 副所長)、相澤裕子(新潟市文化財センター 主査)
10月 16日	橋本 博文(新潟大学人文学部 教授)、石川 知智(新潟県教育庁文化行政課 専門調査員)
10月 18日	石川 日出志(明治大学文学部 教授)
11月 13日	閔 雅之、田中 拓作(新発田市)
11月 14日	橋本 博文(新潟大学人文学部 教授)
12月 5日	幽宜田 佳男(文化庁記念物課 主任文化財調査官)
平成30年(2018年) 10月 19日	箱崎 和久(独立行政法人奈良文化財研究所 都域発掘調査部 遺構研究室 室長)
10月 25日	広瀬 和雄(国立歴史民俗博物館名誉教授・総合研究大学院大学名誉教授)

第3表 西岩野遺跡 調査指導

## 6 調査体制

平成29年度(2017年度)の現場作業から基礎整理作業を経て、平成30年度(2018年度)の整理作業・報告書刊行に至るまでの調査体制は次の通りである。

平成29年度(2017年度) 現場作業・基礎整理作業	
調査主体	柏崎市教育委員会 教育長 本間 敏博
所管	柏崎市教育委員会 博物館(担当:埋蔵文化財係)
総括	猪俣 哲夫(教育部長)
	田村 光一(博物館長)
監理	小池 久明(館長代理兼埋蔵文化財係長)
庶務	重住 夏実(非常勤職員 ~平成29年(2017年)12月) 高野 智佳(非常勤職員 平成30年(2018年)1月~)
監督員・調査担当	中島 義人(主任・学芸員)
調査組織	藤村ヒューム管株式会社 本社営業部 柏崎営業所(担当:埋蔵文化財調査部)
調査担当	安達 尊伸(調査員)
調査員	高橋 広太(調査員) 丹 俊詞(調査員 平成29年(2017年)6~9月)
土木一般世話役	丸山 薫
土木作業管理者	
補助員	春日 雅美、佐藤 稔斗、横田 喜代美、森原 圭子
発掘作業員	牧修・長谷川 孝志・片山 勝也・中村 新平・今井 稔・猪爪 駿男・須田 力也・中村 豊・宮川 道英・田村 栄一・石黒 功・藤巻 章
平成30年度(2018年度) 整理作業・報告書作成	
調査主体	柏崎市教育委員会 教育長 本間 敏博
所管	柏崎市教育委員会 博物館(担当:埋蔵文化財係)
総括	近藤 拓郎(教育部長)
	高橋 達也(博物館長)
監理	小池 久明(館長代理兼埋蔵文化財係長)
庶務	高野 智佳(非常勤職員)
監督員	中島 義人(主任・学芸員)
調査組織	藤村ヒューム管株式会社 本社営業部 柏崎営業所(担当:埋蔵文化財調査部)
管理技術者	松原 和清(課長)
調査担当	丹 俊詞(主任調査員)
調査員	羅 実(主任調査員) 春日 雅美・梅村 将盛・長谷川 知美・板谷 隆弘(調査員)
補助員	佐藤 稔斗・森原 圭子・横田 喜代美・南波 章子

## II 遺跡をとりまく環境

### 1 遺跡の位置と地理的環境

#### 1) 柏崎平野概観

柏崎市は、新潟県のはば中央に位置する人口約8万5千人（平成30年(2018年)11月現在）の地方都市で、中越地方に属す。中越地方と呼ばれる地域は、魚沼郡域となる信濃川上流域や魚野川流域一帯を占める南部と、長岡市などが所在する信濃川中流域から柏崎平野にかけての北部に大別することが可能である。柏崎平野は、中越地方の北部でも西半部に位置することになる。柏崎平野には、旧西山町と旧高柳町を合併した柏崎市と刈羽郡刈羽村があり、大部分を柏崎市が占めている。

柏崎平野は、鯖石川と鵜川の二大主要河川により形成された臨海沖積平野であり、各河川は個々に独立した水系を持っている。全国でも有数の大河である信濃川水系により形成された広大な新潟平野や関川水系の頭城平野とは丘陵や山塊による分水嶺によって隔てられており、一つの独立した平野を形成している。また、平野北部を縦断し鯖石川に合流する別山川は、約15kmの間で独自の水系をもつとらえることができる。

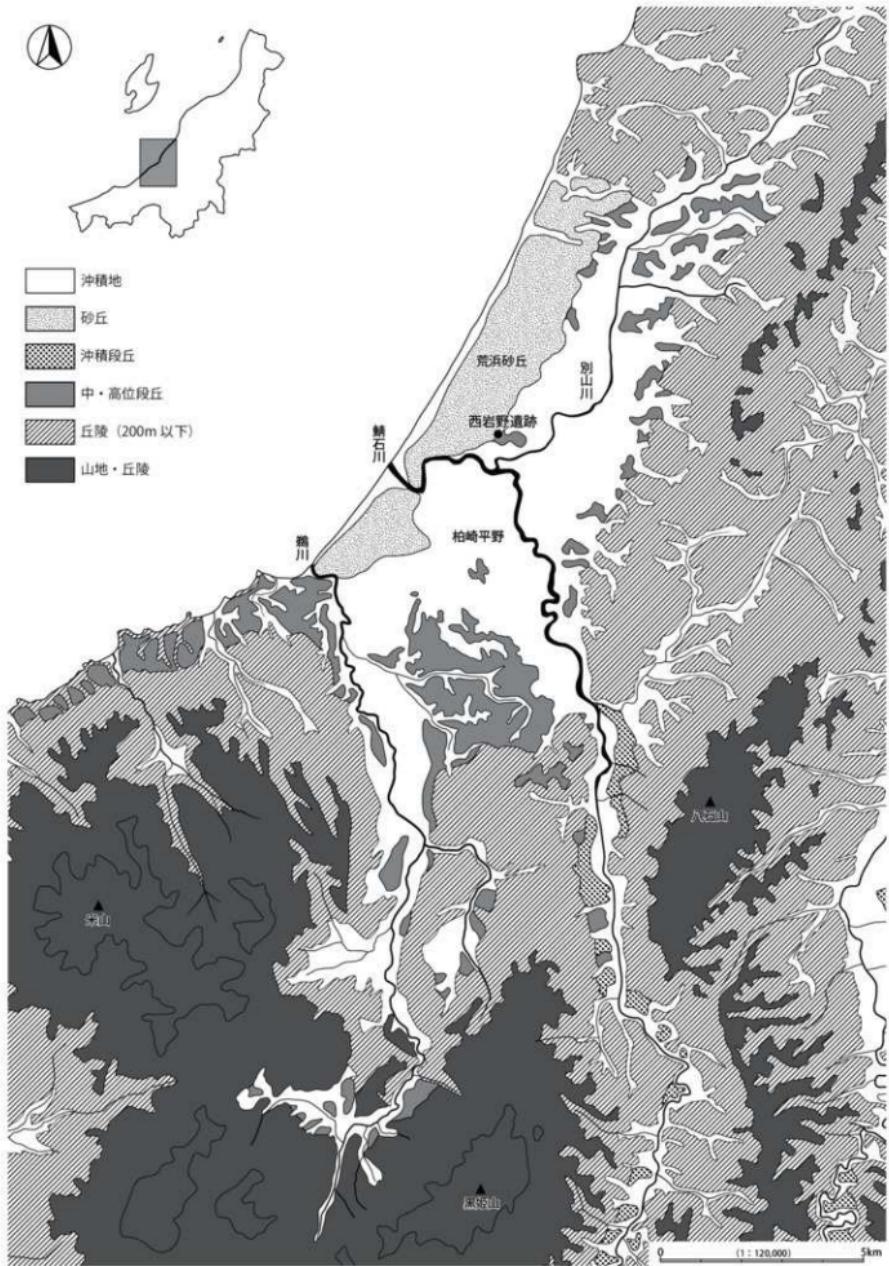
柏崎平野を取り巻く丘陵・山塊は、東頭城丘陵の一部である。その丘陵地形は、北流する鵜川・鯖石川によって西部・中央部・東部に3分され、それぞれ米山・黒姫山・八石山の刈羽三山を頂点とする。東部の丘陵は北東方向の背斜軸に沿って西山丘陵・曾地丘陵・八石山丘陵が北から規則的に並び、向斜軸に沿って別山川・長島川といった鯖石川の支流が南西に流れ出る。中央部は黒姫山を頂点に北へ緩やかに高度を下げ、沖積地に接する一帯に広い中位段丘を形成するとともに、その北側には湿地性の強い沖積地が広がっている。西部は米山を頂点とした傾斜の強い山塊で、現在も隆起を続けているとされ、これら山塊・丘陵地形の広がりは海岸まで達し、米山海岸と称される国定公園の景勝地を形成する。米山海岸の沿岸部は、低位・中位・高位の各段丘による断崖が顕著で沖積地は少なく、海辺は漂石海岸で砂浜もほとんど見られないことが特徴となっている。

また、柏崎の中央部に広がる沖積平野は、その北西正面部を日本海に洗われ、海岸に沿って荒浜・柏崎砂丘が横たわっており、現在では柏崎の市街地がこれを覆っている。平野部をなす沖積地は、砂丘後背地として湿地性が強く、鵜川・鯖石川の蛇行により各所に幾筋もの自然堤防が形成されている。

#### 2 鯖石川流域と遺跡周辺の地形

新潟県の河川は上流に地すべり地帯が多いことから、浸食と運搬作用が盛んであり、さらに、下流に灌漑用の取水施設が多いため、河川の流れが緩やかになり、結果として天井川が形成されやすくなっている。鯖石川もこの例にもれず、平野と遺跡の形成に大きな影響を及ぼしている。

鯖石川は、鵜川・別山川と共に繩文時代後期以降に堆積した地層（最上部柏崎層）によって形成された沖積面（柏崎面）を日本海に向かって流下する。柏崎面のほとんどは後背湿地で占められており自然堤防の発達はあまり顕著ではない〔大野・徳間ほか1990〕。この柏崎面を現在の鯖石川や鵜川が浸食して作り出した氾濫原は、鯖石川面と呼ばれる。鯖石川面の分布は限定的で、鯖石川流域では上～中流域と河口部に細長く分布するにすぎないが、古代以降にはこの鯖石川面の自然堤防上に遺跡が立地するようになる。



第2図 西岩野遺跡の位置と柏崎の地形

鯖石川と別山川の合流地点と海岸の間には、荒浜砂丘が形成される。この砂丘は腐植層を挟んで上下2層に分かれ、下層の荒浜砂丘砂層Ⅰは古砂丘、上層の荒浜砂丘砂層Ⅱは新砂丘とされている。荒浜砂丘砂層Ⅰは腐植層直下の遺物から縄文時代後期中葉には形成されていたこと、荒浜砂丘砂層Ⅱは腐植層中の遺物から平安時代以降の堆積であることが判明している。荒浜砂丘砂層Ⅱは鯖石川河口部を走る形で大規模な砂丘を作り出しており、河川の合流部で水が集中することにより河道が不安定であったため、近辺の遺跡は河川に大きく影響を受けていた可能性がある。

西岩野遺跡は、柏崎平野の北西部で鯖石川と別山川の合流地点から北へ約600mに位置し、荒浜砂丘から派生し、東側の沖積地へ向かって細長く舌状に突き出た中位段丘上に立地している。この付近の荒浜砂丘は、鯖石川に接すると急激に高度を下げて沖積地に没する。荒浜砂丘砂層Ⅱの堆積は深いところで30~40mにも達するが、堆積以前の比較的平坦な地形が砂丘西側の砂取現場等で観察できている。これらのことから、少なくとも松波、荒浜、正明寺といった地区的砂丘下には、標高30m程の段丘状地形が埋没していることが推定され、遺跡も多く分布している可能性が高い。また、西岩野遺跡が立地する細長い台地は最大で約2mの荒浜砂丘砂層Ⅱが堆積していることが確認されており、国道8号線が横切るあたりで台地は沖積地に没するが、微高地状の地形はさらに東に延び、別山川に接する付近で周辺の沖積地と同化する。鯖石川と別山川の合流地点付近を中心とした一帯は、標高6m前後と高低差が少ない沖積地が広がっている。ここで両河川は大きく蛇行し、柏崎平野でも最も顕著に自然堤防を形成している。これらの自然堤防上に営まれた遺跡の大半は中世以降のものであり、自然堤防の形成は比較的新しいものと考えられる。このため、西岩野遺跡の主体的な時期である弥生時代後期には、鯖石川や別山川といった河川は常に氾濫するといった不安定な状況にあったと推察する。

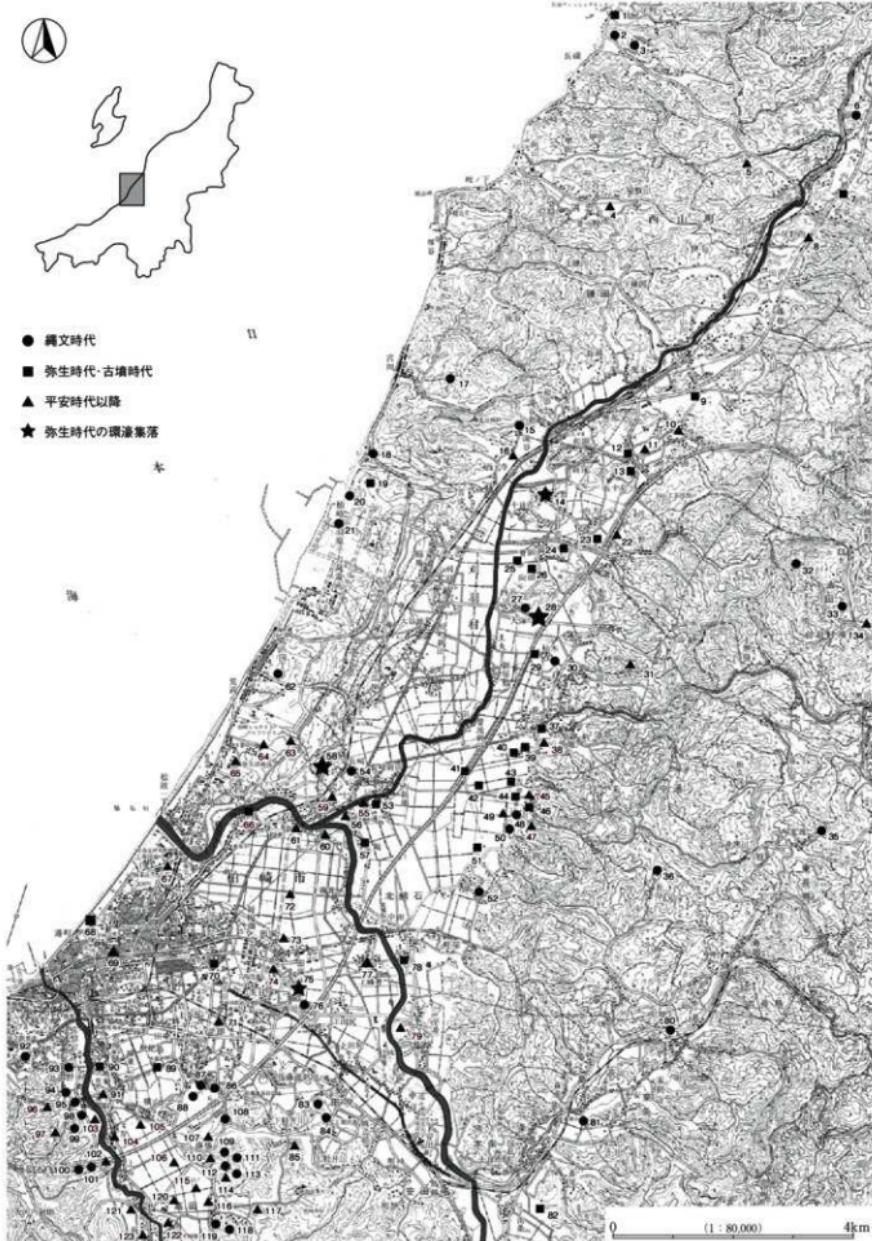
## 2 遺跡周辺の歴史的環境

柏崎平野やその周辺に分布する遺跡は、鶴川、鯖石川、別山川などの流域に形成された河岸段丘や自然堤防、または海浜部の砂丘内や丘陵内に立地する。時期的には縄文時代から中世、近世に至るまでの遺跡があるが、旧石器時代から縄文時代草創期、早期の遺跡は明確ではない。

今回の発掘調査では、主に弥生時代後期後半から古墳時代前期の遺構と遺物が確認された。また、昭和61年(1986年)の発掘調査では縄文時代後期初頭の三十稻場式土器が出土し、中世や近世の遺構や遺物も検出されている。ここでは西岩野遺跡にかかる時期を主体に遺跡周辺の歴史的環境の概略を述べることとする。

### 1) 縄文時代

荒浜砂丘上には数件の縄文遺跡の存在が知られている。西岩野遺跡に近い荒浜砂丘の南端部では、荒浜庚申塚遺跡があり、前期後半の土器片が採取されている〔岡本1979〕。集落が確認されたのは砂丘内陸部の最南端で東側へ舌状に張り出した台地上に営まれた岩野遺跡である。発掘調査で、楕円形状の竪穴住居が4棟検出され、出土土器から中期中葉から後葉に比定される〔柏崎市教育委員会1980〕。さらに、西岩野遺跡では昭和61年(1986年)の発掘調査で後期初頭の土器が出土した。周辺の遺跡の分布状況から、岩野遺跡や西岩野遺跡は中期から後期の中核的な集落であったと考えられる。このほか、開運橋遺跡から晩期と考えられる浅鉢形土器が出土しており、この頃になると遺跡の立地は、台地上から沖積地へと変化していったと想定される〔柏崎市史1987〕。



第3図 西岩野遺跡と周辺の遺跡分布図

No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名
1	高塙B遺跡	26	山ノ脇遺跡	51	江ノ下遺跡	76	小児石遺跡
2	高塙A遺跡	27	刈羽貝塚	52	与三遺跡	77	藤井城跡
3	高塙C遺跡	28	西谷遺跡	53	下境井遺跡	78	閑野遺跡
4	井ノ町遺跡	29	桔木A遺跡	54	岩野遺跡	79	中田下川原遺跡
5	宝蓋寺遺跡群	30	桔木B遺跡	55	下境井西遺跡	80	引地A遺跡
6	多岐ノ脇遺跡	31	赤田城遺跡	56	角田遺跡	81	国光の塚群遺跡
7	内越遺跡	32	金山遺跡	57	劍下川原遺跡	82	亀の倉遺跡
8	尾野内遺跡	33	片田遺跡	58	西岩野遺跡	83	十三本塚北遺跡
9	二田冲遺跡	34	木削田製鉄跡	59	宮ノ浦遺跡	84	十三本塚遺跡
10	町口遺跡	35	夏渡の百塚遺跡	60	上原遺跡	85	軽井川南遺跡群
11	坂田仲沢遺跡	36	五分一遺跡	61	東原町遺跡	86	雨池遺跡
12	マイグリ遺跡	37	北田遺跡	62	荒浜庚申貝塚跡	87	大沢遺跡
13	坪之内遺跡	38	杉ノ木田B遺跡	63	荒浜小学校B遺跡	88	大宮遺跡
14	野崎遺跡	39	吉井円岡古墳群	64	荒浜小学校A遺跡	89	箕輪遺跡
15	城ノ越遺跡	40	行塚遺跡	65	沙鉢山遺跡	90	琵琶島城遺跡
16	春日山遺跡	41	下谷地遺跡	66	開運塚遺跡	91	下沖北遺跡
17	榎山A遺跡	42	壹場遺跡	67	桜木町遺跡	92	剣野E遺跡
18	大湊遺跡	43	礼坊遺跡	68	裏浜遺跡	93	剣野A遺跡
19	大平A遺跡	44	戸口遺跡	69	柏崎町遺跡	94	剣野沢遺跡
20	刈羽大平遺跡	45	吉井水上I遺跡	70	雀森遺跡	95	剣野B遺跡
21	小丸山遺跡	46	吉井水上II遺跡	71	小峯遺跡	96	香積寺遺跡
22	宮ノ前遺跡	47	西草薙遺跡	72	宝田遺跡	97	剣野水上遺跡
23	畠田遺跡	48	西ヶ峰繩文遺跡群	73	山崎遺跡	98	剣野D遺跡
24	上仲遺跡	49	樺町田遺跡	74	丘江遺跡	99	剣野C遺跡
25	私川遺跡	50	小谷地遺跡	75	田塚山遺跡	100	西田遺跡

第4表 西岩野遺跡周辺の遺跡

## 2) 弥生時代から古墳時代

弥生時代中期までの遺跡としては、小丸山遺跡、下谷地遺跡、壹場遺跡などが上げられ、その立地は小丸山遺跡が砂丘内に営まれていたほかは、沖積地に占地していた。しかし、砂丘内といつても小丸山遺跡の場合は、池状地形を中心とした湿地性の遺跡であることから、中期頃までの遺跡は概して低地性の遺跡である。新潟県内の後期後半に相当する遺跡は、内越遺跡、野崎遺跡、刈羽大平遺跡、西谷遺跡、閑野遺跡、岩野遺跡等がある。岩野遺跡から出土した遺物には、今回調査した西岩野遺跡から出土した土器とはほぼ同時期のものがある。現在では越後線により東西に分断されているが、岩野遺跡は西岩野遺跡の東端となって、一体の遺跡であると考えられる。

新潟県内の弥生時代後期後葉から終末にかけての遺跡は、段丘上や尾根等の高台に立地するものが多く、高地性の集落と考えられている。柏崎平野においても同様の傾向が指摘でき、西岩野遺跡も当てはまる。沖積地では、閑野遺跡や戸口遺跡が見つかっている。

古墳時代前期は弥生時代後期の状況を引き継いだ地域的展開がなされていたと考えられる。前期の遺跡は、柏崎平野北部の海岸地域における高塙B遺跡と刈羽大平遺跡、鯖石川中流域の亀の倉遺跡、別山川流域における長嶺前田遺跡、北田遺跡、行塚遺跡、鶴川下流域の琵琶島城遺跡がある。古墳は、前方後円墳1基、円墳1基で構成される吉井行塚古墳群があり、位置的には玉作集落である行塚遺跡に隣接する。弥生時代後期以降継続している領域の中心部が、刈羽村の西谷遺跡周辺から2kmほど南の吉井遺跡群に移った可能性がある。吉井遺跡群は縄文時代から中世にかけての遺跡群で、個々の遺跡の存続は短期間のものが多い反面、時期が少しづづれているという特徴がある。一つの集団が一定の地域内を移動しながらムラを繼

統的に営んだことも考えられている。弥生時代には集落立地は沖積微高地に移り、周辺湿地を利用して稻作を営んでいたと考えられる。しかし、標高6m前後では周辺部との比高差も大きいとは考えられず、再三にわたる水害の後、弥生中期末には壊滅的打撃を受け、弥生時代後期から古墳時代前期にかけて湖沼帯となつたと思われる。それが原因かはわからないが、弥生時代中期後半以降3期にわたる断絶期が存在するとの指摘がある。第1期は弥生時代後期、第2期は古墳時代末から奈良時代、第3期は平安時代後半である。

これらのことから、この第1期の断絶期に吉井遺跡群の集団が西岩野遺跡に移ったのか、または別の集団により集落が形成されたのかと考えると興味深い。

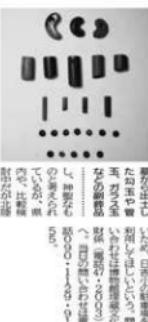
## 県内初 大型の掘立柱建物跡



### 西岩野遺跡から出土 市内山本 祭祀に関わる神殿か

県内初  
大型の掘立柱建物跡  
市内山本 祭祀に関わる神殿か

現地説明会  
3日に2回



第4図 柏崎日報 2017年（平成29年）11月1日

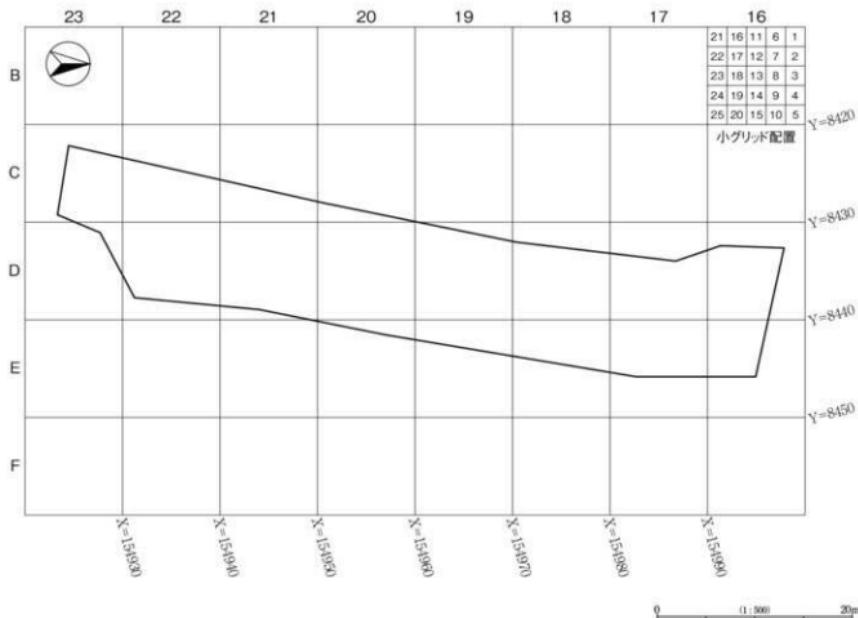
### III 調査概要

#### 1 調査区とグリッドの設定

西岩野遺跡の遺跡範囲は東西330m、南北最大200m、面積49,000m<sup>2</sup>が周知されている。平成29年度(2017年度)の発掘調査は、一般県道黒部柏崎線道路改良工事の影響を受ける部分の一部を対象に南北方向に長さ約80m、幅約10m、面積約900m<sup>2</sup>を調査区とした。確認調査の結果から調査面は2面とし、調査面積は合計で約1,800m<sup>2</sup>となった。

県道改良工事に伴う発掘調査が来年度以降も計画されており、今後の調査対象範囲を網羅するグリッドを設定するため、道路改良工事の北西端側を原点としたグリッドを設定した(図版3、第5図)。グリッドは大小2種類を用いた。大グリッドは北西隅を基準とする10m方眼を1グリッドとし、南北方向に算用数字、東西方向にはアルファベットをあて、両者を組み合わせて「21D」などと表した。小グリッドは大グリッドを2m方眼で25等分し、1~25の算用数字をあてた。北西隅を1、南東隅を25とし、大グリッドの後に小グリッドをつけて「21D15」などと表示し呼称した。

なお、座標値は世界測地系(測地成果2011)を使用し、測量に必要な基準杭を2カ所に設置した。



第5図 西岩野遺跡 グリッド配置図

## 2 基本層序

基本土層は調査区の北、南、東側が崖になっており、確認することができないため、調査区の西側の壁の2カ所と確認調査の際の南北トレンチの合計4カ所を観察して作成した。その基本層序をもとに柱状図を作成した（第6図）。

堆積土は基盤層（V層）を含め5層で構成される。I層は荒浜砂丘砂層Ⅱである。細分すると2層に分けることができ、I a層は荒浜砂丘砂層Ⅱが現代の耕作により影響を受けたもの、I b層は荒浜砂丘砂層Ⅱそのものである。II層は古代（平安時代以前）の包含層で、SD120とSK431の2基の遺構を確認した。III層は弥生時代から古墳時代にかけての包含層、遺構覆土であり、粘性がやや強くしまりがやや弱い。細分すると3層に分けることができ、上層ほど明るい色調となる。IV層は縄文時代の包含層相当であり、V層は古砂丘の風化帯で、地山である。部分的に、IV層とV層の間に漸移層が認められる。南北ベルトや調査区壁の土層観察から、III b層から掘り込まれている遺構を確認できたこと、包含層掘削の際に、III b層から遺構が不鮮明ながら確認できたことから、III a層が包含層であり、III b層が弥生時代から古墳時代における活動面ではないかと推察する。

試掘や確認調査の結果を踏まえてIV層上面まで掘り下げを行い、調査を行った。IV層上面で遺構検出を行えば、弥生時代から古墳時代にかけての遺構が検出できるはずであると考えられるが、調査区の東側の約半分は地震により隆起していることや、後世の様々な攪拌により遺構検出が非常に困難であった。そのため、IV層上面で調査を行った後、最終的にV層上面まで掘り下げて全ての遺構の調査を行った。

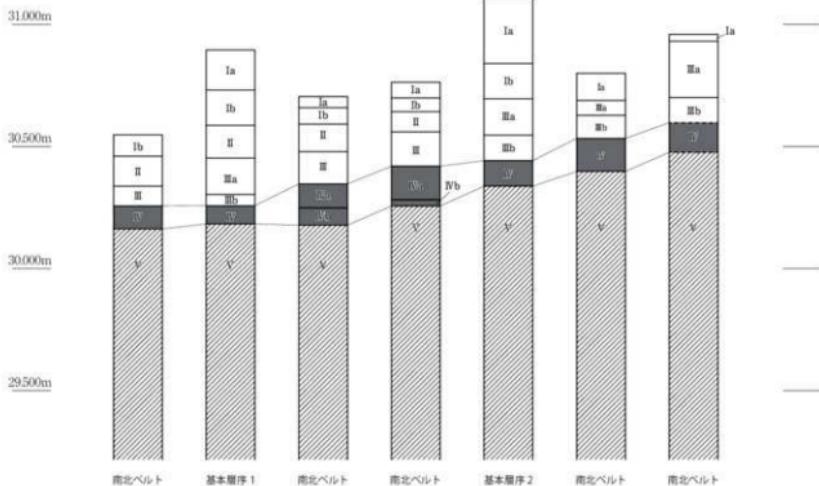
基本土層をまとめると以下のとおりである。

- I層：黒褐色シルト（10YR2/3） 耕作土及び荒浜砂丘砂層Ⅱ
- II層：黒色シルト（10YR2/1） 古代（平安時代以前）の包含層、遺構覆土。
- III層：黒褐色シルト（10YR2/3） 弥生時代・古墳時代包含層、遺構覆土。
- IV層：暗褐色シルト（7.5YR3/4） 縄文時代包含層
- V層：褐色シルト（7.5YR4/6） 地山

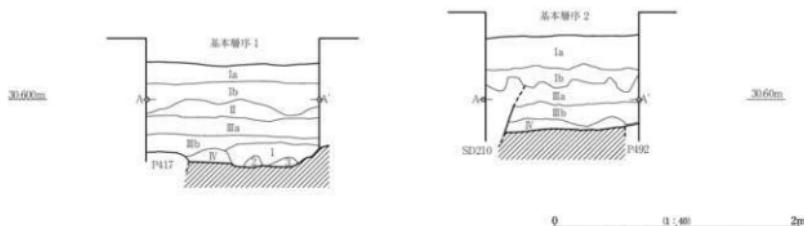
## 3 調査の方法

### 1) 表土掘削と遺構検出

表土掘削から遺構検出に至る作業は、以下の工程を行った。調査区には約0.8~1mの厚みで現代の耕作土や荒浜砂丘砂層Ⅱ、約0.2~0.3mで古代の包含層であり、遺物が確認されておらず自然堆積土である。0.2~0.3mで弥生・古墳時代の包含層が堆積しているが、包含層には遺物がほとんど確認できていないことから、作業の効率化を図るためにバックホウにより掘削を行った。バケット容量0.45m<sup>3</sup>のバックホウを2台用いて、1台は掘削、もう1台は掘削土移動用、さらに6トン積キャタピラー式運搬車で調査区北側に設定した排土置き場に搬出した。排土置き場が狭いため、耕作土や荒浜砂丘砂層Ⅱについては、ダンプトラックにより搬出して処理した。バックホウによる包含層の掘削は調査員の指示の下に行い、遺物が出土した場合は出土位置を小グリッドで記録し適時取り上げた。表土掘削に使用した機械類はバックホウ1台を残



第6図 土層柱状図



- Ia 黒褐色シルト (10YR2-3) 粘性やや強い。しまりやや強い。
- Ib 暗褐色シルト (7.5YR2-3) 粘性やや強い。しまりやや強い。
- II 黒色シルト (10YR2-1) 粘性やや強い。しまりやや強い。
- IIIa 暗褐色シルト (7.5YR2-3) 粘性普通。φ0.5~10mmV層ブロックが多く含む。焼土粒子を微量含む。
- IIIb 黒褐色シルト (7.5YR2-2) 粘性やや強い。しまりやや強い。炭化物粒子を少し含む。
- IVa 黒褐色シルト (10YR2-3) 粘性やや強い。しまりやや強い。炭化物粒子を微量含む。
- IVb 黒褐色シルト (10YR2-3) 粘性普通。しまり普通。φ1~5mmV層ブロック多く含む。焼土粒子を微量含む。
- V 暗褐色シルト (7.5YR3-4) 粘性やや強い。しまりやや強い。

- I 層 耕作土及び荒浜砂丘砂層 II
- II 層 古代（平安時代以前）包含層・遺構覆土
- III 層 弥生時代・古墳時代包含層・遺構覆土
- IV 層 弥生時代遺構覆土・縄文時代包含層
- V 層 地山

第7図 基本層序

して作業終了に伴い搬出し、残した1台は排土置き場に常駐させ、調査時に発生する排土の整形に用いた。

遺構検出については、当初は排土を一輪車で運んでいたが、排土置き場が調査区の北端であり遠いこと、土量が多くなったことなどから、キャリアダンプ(0.6トン)を2台導入した。調査区の南端から北に向かって作業を開始し、作業は鍬鏟等を用い、作業で発生した排土は手みにいれ、キャリアダンプに載せて排土置き場まで運搬した。検出した遺構はラッカーワークで白線を引き、ブルーシートで覆い、検出面の乾燥と風雨等による確認面の汚れにより遺構の検出状況が分からなくなることを防いだ。また、遺構検出作業が終了した部分から、検出した遺構の略測分布図や検出状況の写真撮影などを行った。1面の調査は基本土層のIV層上面で行い、すべての遺構の掘削と記録が終了したあと、V層上面まで掘り下げて1面と同様の作業で2面の遺構確認を実施した。方形周溝墓と大型掘立柱建物の柱穴の周囲の約0.5mは掘り下げず残して2面の調査を実施し、すべての遺構の掘削と記録が終了したのちに、周囲の掘り下げを行った。

## 2) 遺構発掘

掘立柱建物、方形周溝墓、円形周溝状遺構、土壙墓、横列、ピット、土坑、溝、陥し穴など約650基の遺構を検出した。遺構は半裁して覆土の状況を観察し、覆土が单層以外の遺構に関しては、土層断面の写真撮影を行い、図化して土層等を記入した。すべての記録が終了したのちに完掘し、写真撮影を行った。

半裁方向は基本的に遺構の長軸方向としたが、柱痕や遺物を伴う場合は、埋設状況を最も有効に記録できる方向とした。また、重複関係等により遺構の識別が困難なときや、遺構の底面や立ち上がりを確認するために、トレントを随時設定してから遺構の確認または掘削を行った。断面図や遺物の出土状況等の微細図は、調査員の指示のもと補助員が手実測で記録し、平面図の作成や断面図の計測ボイントなどの測量はトータルステーション(TOPCON LN-100)と地形図作成システムTraceMaster MultiX(株式会社ビーエス・トラスト)を用いて調査員の指示のもと補助員が行った。

## 3) 写真撮影

現場業務においての写真撮影は、調査員による一眼レフカメラによる撮影とラジコンヘリコプターによる空中写真撮影を行った。遺構の断面や完掘状況、遺物の出土状況など通常の記録写真については前者の方法で撮影し、遺構完掘時の全景写真のみ後者の方法を併用して撮影を行った。2面の調査のため、空中写真撮影による全景写真の撮影は2回実施している。調査員による撮影は、カラーリバーサル35mmフィルム(フジカラー PROVIA 100F)、白黒フィルム(フジカラー NEOPAN ACROS100)に加え、デジタル一眼レフカメラ(NIKON D610 2,426万画素)を用いた。また、ラジコンヘリコプターによる空中写真撮影では、カラーリバーサル6×6cm判フィルム(フジカラー PROVIA 400X)、白黒6×6cm判フィルム(KODAK 400TX)、デジタル一眼レフカメラ(CANON EOS Kiss X3 1,510万画素)などを用いた。

なお、空中写真撮影は受託業者の藤村ヒューム管株式会社がJ・T空撮に再委託して実施した。

## 4 整理作業の方法

### 1) 基礎整理

具体的な作業としては、出土遺物の洗浄、接合・補強復元、図面や遺構カードの整理と校正、写真整理、遺構観察表と各種台帳類の作成などを実施した。作業は現場業務中から開始し、荒天時など外作業ができない時に作業を進めた。遺物の注記にあたっては遺跡名を「ニシイワⅡ」と表記し、遺構やグリッド、層位といった位置情報を続けて記入した。接合にはセメダインCを使用し、必要な部位には石膏やバイサム

で補強・復元した。図面や写真は番号・撮影タイトルなどを付けてケースやアルバムに収納し、あわせて台帳を作成した。デジタルデータやデジタル写真はハードディスクに保存した。

## 2) 遺物実測・撮影

遺物の実測については、形態や特徴をよく表しているものを選別し、小片でも極力図化に努めた。実測遺物には1番から番号を付して行った。拓本が必要な遺物については適宜行った。撮影はデジタル一眼レフカメラ（NIKON D610 2,426万画素）を使用し個別に撮影した。写真の編集はAdobe Photoshop CCを使用した。

## 3) 自然科学分析

掘立柱建物（SB1）から出土した炭化物1点の放射性炭素年代測定（AMS法）の分析を、受託業者の藤村ヒューム管株式会社が株式会社加速器分析研究所に再委託して行い、遺構の時期を考察する上での援用資料とした。試料は建物を構成する柱穴（P53）の覆土から出土した炭化物である。

また、方形周溝墓（SZ3）の墓壙（SK96）から出土したガラス小玉13点の分析は独立行政法人奈良文化財研究所 田村朋美氏の協力を得て分析を行った。

なお、それぞれの分析結果は第VI章に掲載した。

## 4) 報告書作成

報告書の作成は、平成30年度(2018年度)に西岩野遺跡発掘調査報告書作成業務委託として藤村ヒューム管株式会社 本社営業部 柏崎営業所が受託し、同社の埋蔵文化財調査部の整理室で平成30年（2018年）6月12日から平成31年（2019年）3月10日まで作業を行った。作業内容は遺物実測、遺物デジタルトレース、遺構断面図デジタルトレース、遺物写真撮影、遺構・遺物の図面図版作成と写真図版作成、遺構・遺物の観察表作成、原稿執筆、挿図表作成、報告書編集・校正などである。

なお、デジタルトレース、図版、挿図の作成についてはAdobe Illustrator CC、写真の編集にはAdobe Photoshop CCを使用した。原稿執筆はMicrosoft Wordを使用し、挿表はMicrosoft Excelで作成したものをAdobe Illustrator CCで編集し作成した。

## IV 遺構

### 1 遺構の概要と記述方法

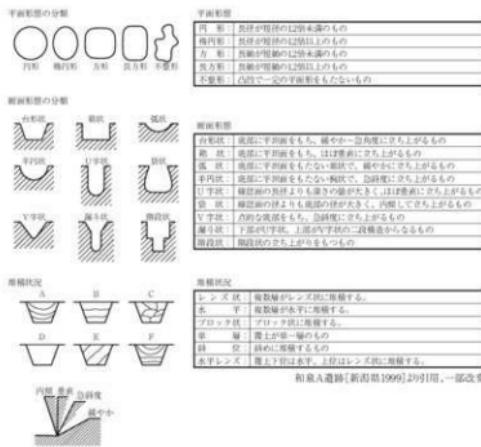
西岩野遺跡で検出した遺構の総数は約650基で、内訳は掘立柱建物2棟、方形周溝墓5基、円形周溝墓1基、円形周溝状遺構1基、土壙墓9基、溝19条、土坑64基、ピット497基、陥し穴2基、不明遺構2基である。建物とピットなど重複して数えているものがあるため、遺構の合計と整合しない。主な遺構の年代は、出土遺物や遺構に堆積した覆土の特徴から弥生時代後期後半から古墳時代前期と考えられる。その他の時代の遺構として、古代と縄文時代のものを数基ではあるが確認することができた。

弥生時代後期から古墳時代前期の活動面はⅢb層の黒褐色土と考えられる。しかし、遺構覆土と検出面が黒系の土であり、遺構の識別が非常に困難であるためIV層上面で遺構を確認した。また、多くの遺構は2面目であるV層上面で検出した。そのため、遺構の実際の深さは確認できたものよりも約0.2~0.5mは深かったと考えられる。

遺構は本文・観察表・図面図版・写真図版を用い、主要なものを説明した。本文で記載したものは、図面図版においてすべて個別図を掲載した。遺構種別は略称を用い、掘立柱建物「SB」、周溝墓・円形周溝状遺構「SZ」、土坑・陥し穴「SK」、溝「SD」、ピット「P」、柵列「SA」とした。遺構番号はすべて通し番号とし、現場で付した番号をそのまま使用して遺構種別の後ろに付した。なお、欠番については欠番のままとした。掘立柱建物は、これとは別に「1番」から番号を付し遺構種別と併せて「SB1~SB2」とし、方形周溝墓と円形周溝墓、円形周溝状遺構は「1番」から番号を付し遺構種別と併せて「SZ1~SZ7」とした。SZを構成する主体部である墓壙はSKとし、周溝はSDとして現場で付した番号を用いた。土壙墓に関しては、出土遺物がなく遺構形態から判断したため土坑と同じくSKとした。柵列は「1番」から番号を付し遺構種別と併せてSA1~SA2とした。

掘立柱建物は、柱間の多い方向を桁行（長軸）、少ない方向を梁行（短軸）とする。方位は、桁行（長軸）を中心として、北を基点に東西に傾く方向で表した。面積は柱痕の重みにより硬化した痕跡から算出した。また、掘立柱建物を構成するものを柱穴とし、柱痕の有無にかかわらず、掘立柱建物を構成しないものをピットとした。

墓壙の軸方向については、詳細は後述するがSK96の頭の位置が南側を向くと考えられることから、南を基点に



和泉八道跡〔新潟県1999〕より引用、一部変更

第8図 遺構の形態分類図

東西に傾く方向で表した。

遺構の平面及び断面形状の表記は、和泉A遺跡〔新潟県1999〕の分類基準（第8図）に準拠した。平面形の規模は、長軸（最大長・最大径）を計り、直交する方向の最長部を短軸として計測した。深度は遺構検出面からの最深部を計測した。

## 2 弥生時代後期から古墳時代前期の遺構

弥生時代後期半から古墳時代前期と考えられる遺構をIV層上面とV層上面で数多く確認することができた。遺構から出土している遺物が少なく、特にピットや土坑については時期が不明なものも多い。しかし、遺跡全体として弥生時代後期から古墳時代前期ものが多いため、ピットや土坑についても確実に時期が判明している遺構以外は弥生時代後期半から古墳時代前期として報告することとした。

以下、弥生時代後期半から古墳時代前期の遺構について述べることとする。

### 1) 挖立柱建物

掘立柱建物を2棟（SB1、SB2）確認できた。調査時はSB1については独立棟持柱を持つ大型掘立柱建物と考えた。また、新潟県内において最大級であり、当該期の大型掘立柱建物としては日本列島において最も最北とされていた。しかし、「独立棟持柱」とするか様々な意見があり議論の余地が残るため、本報告では大型掘立柱建物として報告する。

掘立柱建物としてもSB1は大型で、構成する柱穴の規模や柱痕の規模も非常に大きく、全国的に見ても稀有である。上屋構造についても大型で高さもあり、存在感のある建物が存在していたものと考えられる。

SB2は出土遺物がなく時期不明であるがここで報告する。しかし、比較的新しいと考えられる。また、柱穴が並んでいるが、規模も小さく複数の建物が重複していると考えられる。

以下にSB1とSB2について、それぞれを構成する柱穴の詳細とともに述べる。

#### ① SB1（図版7~8）

20C~20D、21C~21Dグリッドに位置する。梁行1間（約4.6m）、桁行3間（約9m）、床面積は約41.2m<sup>2</sup>の大型の掘立柱建物である。トレンチを設定し、北西に柱穴が続かないことを確認している。桁行方位はN 42°W、梁行方向はN 46°Eである。梁行方向の南を見渡せば、中越地方と上越地方の境に位置し、きれいな四角錐（ピラミッド型）の頂上部をもつ山容でよく目立ち、古くから交通の目印ともされ、山頂に祀られる米山薬師は雨乞いの靈験があるとして信仰を集める靈山でもある米山が存在している。

大型掘立柱建物（SB1）を構成する柱穴（P 45、52、53、54、57、77、210）の規模は、長軸約1~1.5m、短軸約1m、深さ約0.7~0.9mを計り、平面形態は隅丸長方形である。すべての柱穴で柱を据えるための斜路や柱の抜き取り痕等は確認できていない。断面観察により側柱の直径は約0.3~0.4mと推測される。柱痕が確認できた柱穴の底には、柱の重みにより硬化した痕跡を確認でき、そこから柱間は約3m間隔であることがわかる。各計測値は第9図を参照されたい。

また、SB1の南東の棟筋に浅い柱穴（P392）を確認したことから、直接屋根を両側から支えていた「独立棟持柱」の可能性が考えられたため、SB1の北西の棟筋にトレンチを設定して調査した。その結果、北西の棟筋にも浅い柱穴（P320）を確認した。そのため、「独立棟持柱を持つ大型掘立柱建物」の可能性が指摘された。さらに、北西と南東に存在する棟持ち柱の柱穴を直線で結ぶと、その線上に位置し、SB1の

中心に屋内棟持柱もしくは心柱の可能性が考えられる柱穴P639が確認できた。

しかし、SB1を構成する柱穴の規模が大きく深く、柱が直線的に据えられており、計画的に造られている。そのため、上屋構造まで計画的に一体で造られていたと推測できる。それに対し、棟持ちの柱穴としたP320とP392は、規模も小さく浅い造りであること、これらの柱穴の主軸が他のものと揃わないことから、棟持柱とは考えにくいとの指摘を受けた。そのため、大型掘立柱建物(SB1)として報告することとした。

以下にSB1を構成する柱穴の詳細を述べることとする。

#### P45

21D7・12グリッドに位置し、IV層上面で検出した。長軸約1.14m、短軸約0.89m、深さ約0.82mで、主軸方位はN 48°-Wである。平面形は隅丸方形であり、断面形は台形状である。半截し断面観察により、直径約0.34mの柱痕を確認した。覆土はIV層にV層の地山ブロックの混ざった暗褐色～極暗褐色シルトの水平堆積である。底面に柱の重みにより硬化した痕跡を確認した。有段口縁甕の弥生土器片が1点出土した。

#### P52

21D3・4グリッドに位置し、IV層上面で検出した。長軸約1.27m、短軸約0.98m、深さ約0.77mで、主軸方位はN 43°-Wである。平面形は隅丸方形で、断面形は箱状である。半截し断面観察により、直径約0.32mの柱痕を確認した。覆土はIV層にV層の地山ブロックが混ざった褐色～黒褐色シルトの水平堆積である。底面では柱の重みにより硬化した痕跡を確認した。

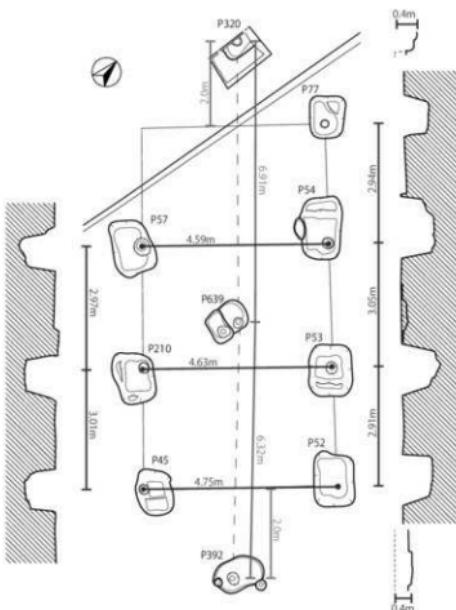
出土遺物は、弥生土器の破片が8点出土した。出土した土器のうち1点は、信州系の土器である箱清水式土器と考えられる。

#### P53

20D22・23グリッドに位置し、IV層上面で検出した。長軸約1.24m、短軸約1.06m、深さ約0.96mで、主軸方位はN 43°-Wである。平面形は隅九長方形であり、断面形は台形状である。半截し断面観察により、直径約0.34mの柱痕を確認した。覆土はIV層にV層の地山ブロックが混ざった褐色～黒褐色シルトの水平堆積である。底面に柱の重みにより硬化した痕跡を確認した。遺物は出土していない。

#### P54

20D11・16・17グリッドに位置し、IV層上面で検出した。長軸約1.53m、短軸約1.06m、深さ約0.86mで、



第9図 SB1計測値 (S=1/120)

主軸方位はN-39°-Wである。平面形は隅丸長方形であり、断面形は階段状である。半截し断面観察により、直径約0.4mの柱痕を確認した。覆土はIV層にV層の地山ブロックが混ざった褐色や黒褐色シルトの水平堆積である。底面では柱の重みによる硬化した痕跡を確認した。遺物は出土していない。

#### P57

20C24・25、21C4・5グリッドに位置し、IV層上面で検出した。長軸約1.39m、短軸約1.04m、深さ約0.91mで、主軸方位はN-57°-Wである。平面形は隅丸長方形であり、断面形は台形状である。覆土はIV層にV層の地山ブロックの混ざった褐色～黒褐色シルトの水平堆積である。断面観察では柱痕を確認できなかったが、底面では柱の重みにより硬化した痕跡を確認し、直径が約0.38mである。遺物は出土していない。

#### P77

20C10・15、20D11グリッドに位置し、IV層上面で検出した。長軸約1.02m、短軸約0.86m、深さ約0.64mで、主軸方位はN-40°-Wである。平面形は隅丸長方形であり、断面形は箱状である。半截し断面観察により、幅約0.2mの柱痕を確認した。覆土はIV層にV層の地山ブロックの混ざった褐色～黒褐色シルトの水平堆積である。底面では柱の重みにより硬化した痕跡を確認した。遺物は出土していない。

#### P210

21C5・10、21D1・6グリッドに位置し、IV層上面で検出した。長軸約1.24m、短軸約1.02m、深さ約0.83mで、主軸方位はN-47°-Wである。平面形は隅丸長方形であり、断面形は箱状である。覆土はIV層にV層の地山ブロックの混ざった暗褐色～黒褐色シルトの水平堆積である。断面観察では柱痕を確認できなかったが、底面では柱の重みにより硬化した痕跡を確認し、直径が約0.28mである。遺物は出土していない。

#### P320

当初は棟持ち柱の柱穴であると考えたため、ここで報告する。20C14グリッドに位置し、V層上面で検出した。トレチを追加して調査し、一部を確認した。確認できた規模は、長軸約0.69m、短軸約0.4m、深さ約0.35mで、主軸方位はN-12°-Eである。平面形は隅丸長方形であり、断面形は台形状である。覆土はIV層にV層の地山ブロックの混ざった極暗褐色～黒褐色シルトの水平堆積である。断面観察では柱痕を確認できなかったが、底面では柱の重みにより硬化した痕跡を確認し、直径が約0.26mである。遺物は出土していない。

#### P392

P320同様に棟持ち柱の柱穴と考えていたため、ここで報告する。21D8・9・13・14グリッドに位置し、V層上面で検出した。長軸約1.31m、短軸約0.8m、深さ約0.16mで、主軸方位はN-27°-Eである。平面形は梢円形であり、断面形は箱状である。半截し断面観察により、直径約0.2mの柱痕を確認した。覆土はIV層にV層の地山ブロックが混ざった黒褐色シルトの水平堆積である。底面では柱の重みにより硬化した痕跡を確認した。遺物は出土していない。

#### P639

屋内柱や心柱の柱穴の可能性があると考えたため、ここで報告する。20D21グリッドに位置し、V層上面で検出した。長軸約0.75m、短軸約0.55m、深さ約0.15mで、主軸方位はN-74°-Wである。平面形は梢円形であり、断面形は台形状である。覆土はIV層にV層の地山ブロックの混ざった黒褐色シルトの水平堆積である。断面観察では柱痕が一部しか確認できなかったが、底面では柱の重みにより硬化した痕跡を確認でき、直径は約0.26mである。遺物は出土していない。

## ②SB2 (図版9)

17~18 D・Eグリッドに位置する。当初は、5間(約9.3m)×4間(約7.5m)の掘立柱建物と考えていた。しかし、建物の規模に対して柱穴が小さく浅いものがあるため、複数の建物が重複しているとも考えられる。弥生時代から古墳時代の遺構として報告しているが、遺構から出土した遺物がなく、時期については不明である。古代以降の比較的に新しい時期のものの可能性がある。構成する柱穴はIV層上面で検出した。

## 2) 方形周溝墓

方形周溝墓をIV層上面とV層上面で5基確認した。当時の活動面はIIIb層と考えられることから、確認できた遺構はすべて比較的に浅く、床面に近い位置で検出している。周溝が一周するものではなく、途切れでL字状もしくはコ字状に確認できた。副葬品などの遺物が出土した遺構は、SZ3の墓壙であるSK96だけである。また、方形周溝墓はすべて大型掘立柱建物(SB1)の北側で確認できた。

以下、方形周溝墓について述べる。

## ①SZ3 (図版10)

19Dグリッドに位置し、墓壙SK96と溝SD88の組み合わせの方形周溝墓である。IV層上面でSK96とSD88を検出した。SD88はSK96の南側と東側の一部のL字状に検出した。北側と西側の溝が不明で、確認できたSK96とSD88だけで外径は約4mである。

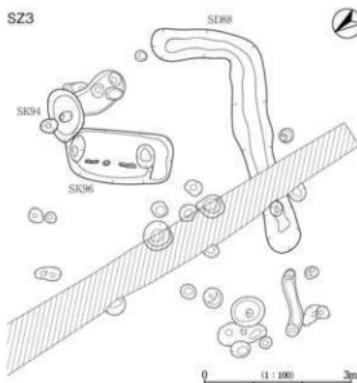
以下にSZ3を構成するSK96とSD88の詳細を述べることとする。

### SK96

IV層上面で検出した。平面形は隅丸長方形であり、長軸約2.22m、短軸約1.15m、深さ約0.2m、長軸方位はS-40°Wである。長軸方向の南側に、大型掘立柱建物(SB1)や米山が存在する。断面形は台形状で、覆土は水平堆積である。床面は整地し平らにされていると考えられる層を確認した。墓壙の南端と北端には棺の小口板を支えるピットを確認した。南側のピットは長軸約0.46m、短軸約0.35mの楕円形で、床面からの深さは約0.4mで、北側のピットは長軸約0.55m、短軸約0.3mの楕円形で、床面からの深さは約0.4mである。堆積状況から、小口板が先に内側に倒れた後に上板が落ち、側板は外側へ傾いたと推測する。墓壙の西側に浅く細長い窪みを確認した。東側では確認できなかつたが、側板痕跡と考えられる。

これらのことから、棺は長さ約1.4m、幅0.5mと推測する。弥生時代の成人の身長は男子1.6m前後、女子1.5m前後とされており、確認できた棺の規模から被葬者は、幼小児もしくは成人であっても膝、腰を折り曲げた屈葬と考えられる。

出土遺物のうち管玉5点とガラス小玉2点は出土位置を確認できた。床面を整地し平らにされていると考えられる層のやや上、中央から南寄りで出土した。出土位置が墓壙の南に寄っており、これらの玉類を装飾具として首にかけていたとすれば、頭の位置は南側を向いていたと考えられる。掘削時の覆土をすべて持ち帰りウォーターセパレーションを実施し、勾玉3点、管玉5点、ガラス小玉11点を確認した。合計で勾玉3点、管玉10点、ガラス小玉13点である。



第10図 SZ3 平面図

## SD88

IV層上面で検出した。平面形はL字状で、全長約6m、幅約0.6~0.78m、深さ約0.34mである。断面形は台形状で、覆土はレンズ状堆積である。SK96と同じように西から東に約4m延び、北へ直角に折れ曲り約2m延びて、西と同じく明瞭な立ち上がりが見られ完結している。西側の立ち上がりの先に細い溝が確認できた。この溝がSD88の続きなのかは不明である。急に細くなり、深さも約0.1mと浅くなること、続きとなると墓壙であるSK96が中心から離れて東に寄りすぎること、SK96の西側に別の墓壙を確認できなかったことから別の遺構と考える。

遺構検出が困難なIV層上面で検出を行ったため、周溝の北側、西側と東側の一部が検出できず、一周していた溝が検出できなかつた可能性もある。

出土遺物は、検出面の近くで10世紀後半頃の土師器の椀が出土している。後世の遺構が重複しており、遺物が混入したものと考える。その他の遺物は出土していない。

## ②SZ4（図版11）

2Dグリッドに位置し、墓壙SK454と溝SD87の組み合わせの方形周溝墓である。IV層上面でSK454とSD87を検出した。SD87はSK454の北側と南側、そして西側のコの字状に検出した。確認できたSK454とSD87だけで外径は約6.5mである。隣接してSK51、453、458を検出し、平面形態などから墓壙であると考えられる。方形周溝墓は墓壙が複数存在するものもあり、SZ4の墓壙とも考えられる。しかし、周辺に土壙墓が確認できていることやSK454とは軸方向が異なること、SK458はSK454の周溝であるSD87を壊す形で造られていること、出土遺物も出土していないため土壙墓とした。

以下にSZ4を構成するSK454とSD87の詳細を述べることとする。

### SK454

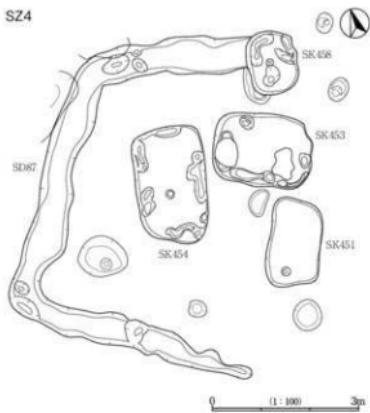
IV層上面で検出した。平面形は隅丸長方形であり、長軸約2.44m、短軸約1.46m、深さ約0.1m、長軸方位はS-13°-Wである。断面形は台形状で、覆土は水平堆積である。墓壙の南端の壁際には、小口板を支えるための幅が細く深さのある窪みを確認した。壁際の東端と西端の一部には側板を支えるための幅が狭く浅い窪みを確認した。

これらの痕跡から、棺は長さ約2m、幅約1mに復元することができると考える。SK96と同じような床面を整地している層の痕跡を確認することはできなかつた。

1層から付加状口縁甕の破片が出土した。

### SD87

IV層上面で検出した。平面形はコの字状で覆土はレンズ状堆積である。東から西に約5m、北へ直角に折れ曲がり約5m、東へほぼ直角に折れ曲がり約3.5mでSK458にぶつかる。東の立ち上がりも明瞭に見られ完結している。全長約13m、幅約0.25~0.84m、深さ約0.25mである。IV層上面で検出を行ったため、東側の溝が検出できず、一周していた溝が検出できなかつた可能性もある。遺物は出土していない。



第11図 SZ4 平面図

### ③SZ5（図版12）

19Dグリッドに位置し、墓壙SK651と溝SD607の組み合わせの方形周溝墓である。IV層上面でSK651とSD607を検出した。SD607はSK651の南側と東側にL字状に検出した。北側と西側の溝が不明であるが、確認したSK651とSD607だけで外径は約2.2mである。

以下にSZ5を構成するSK651とSD607の詳細を述べる。

#### SK651

V層上面で検出した。平面形は隅丸長方形であり、長軸約0.78m、短軸約0.46m、深さ約0.1m、長軸方位はS-39°-Wである。断面形は台形状、覆土は水平堆積である。棺の小口板や側板を支えるためのピットや窪みは確認できなかった。遺物は出土していない。

#### SD607

V層上面で検出し、西側は調査区外に統き不明なため、平面形はL字状となる。断面形は弧状で覆土はレンズ状堆積である。北から南に約2m延び、西へ直角に折れ曲がり、約1.8mで調査区外へ続く。北の立ち上がりは明瞭に見られ完結している。全長約3.8m、幅約0.4~0.6m、深さ約0.1mである。V層上面で検出を行ったため、北側の溝を検出できず、一周していた溝を検出できなかった可能性もある。遺物は出土していない。

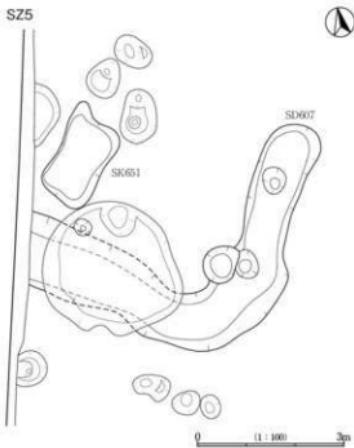
### ④SZ6（図版13）

16D・17Dグリッドに位置し、墓壙SK579と溝SD576の組み合わせの方形周溝墓である。IV層上面でSK579とSD576を検出した。SD576はSK651の南側と東側のL字状に検出した。隣接してSK578があり、平面形態などから墓壙であると考えられるが、SK579とは軸方向が異なる。周溝であるSD576の延長線上に造られていること、周溝を伴わないこと、出土遺物がないことから土壙墓として後述する。北側と西側の溝が不明で、確認できたSK579とSD576だけで外径は約6.5mである。

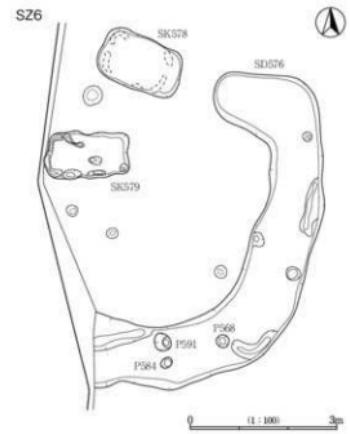
以下にSZ6を構成するSK579とSD576の詳細を述べることとする。

#### SK579

V層上面で検出した。平面形は隅丸長方形で、長軸約1.73m、短軸約0.96m、深さ約0.15m、長軸方



第12図 SZ5 平面図



第13図 SZ6 平面図

位は東西方向を指す。

断面形は台形状、覆土は単層である。遺構の底の南の壁際に浅い窪みが確認できたが、浅いため断面を観察することができなかった。そのため、棺の小口板を支えるための窪みの可能性があるが、定かではない。遺物は出土していない。

#### SD576

V層上面で検出した。西側は調査区外のため不明であるが、平面形はコの字状である。断面形は弧状で覆土は単層である。西から東に約1.5m、北へ鈍角に折れ曲がり約6m、西へほぼ直角に折れ曲がり約1.6mで立ち上がりも明瞭に見られ完結している。全長約9.5m、幅約1~1.3m、深さ約0.22mである。V層上面で検出したため、北側の溝が検出できず、一周していた溝が検出できなかつた可能性もある。遺物は出土していない。

#### ⑤ SZ 7 (図版14)

16・17Eグリッドに位置し、周溝のSD166のみを確認した。IV層上面で検出したもので、L字状になることから方形周溝墓と考える。

断面形は弧状で覆土は単層である。北から南に約4m延び、東へ直角に折れ曲がり約4m、南へ直角に折れ曲がり約1mで、立ち上がりも明瞭に見られ完結している。全長約9m、幅約0.5~1.5m、深さ約0.25mである。IV層上面で確認したが不明瞭であったため、V層上面で調査を行った。そのため、北側の溝が検出できず、一周していた溝が検出できなかつた可能性がある。遺物は出土していない。墓壙が存在していたと考えられる位置にはSK562、SK563、P575、P577が存在しているが、墓壙と確認することはできなかつた。

### 3) 円形周溝墓

円形周溝墓をIV層上面で1基確認した。調査時は円形周溝状遺構としてとらえていたが、後述する円形周溝状遺構とは規模や形態が明らかに異なり、規模的に方形周溝墓と同じであることなどから、円形周溝墓とした。

以下、円形周溝墓について述べることとする。

#### ① SZ 2 (図版15)

21C・Dグリッドに位置し、円形に廻る溝のSD33である。墳丘の盛土や主体部となる墓壙を確認できなかつた。IV層上面で検出し、SB1の南に位置する。SB1を構成する柱穴のP210より新しいことを検出時に確認している。一部試掘トレーナにより破壊されているが、平面形は環状、外径は約5.7m、内径が約4.9mである。断面形は半円状で覆土はレンズ状堆積である。円周は約16m、溝の幅は約0.4~0.6mで、深さは約0.15~0.35mである。遺物は出土していない。

### 4) 円形周溝状遺構

円形周溝状遺構をIV層上面で1基確認した。環状に溝が廻り、その中心付近に主体部と考えられる墓壙を確認できず、盛土の痕跡も確認できなかつたことから円形周溝状遺構とした。

以下、円形周溝状遺構について述べることとする。

#### ① SZ 1 (図版16~17)

22C・D、23C・Dグリッドに位置し、IV層上面で検出したSD215とSD229からなる。弧を描くSD215の延長線上のSD229が対応するように弧を描くことから、環状に溝が廻っていると判断した。外径は約17m、内径が約12mである。環状の溝の内部に主体部と考えられる墓壙は確認できず、盛土の痕跡も確

認できなかったことから、円形周溝状遺構（SZ1）とした。この円形周溝状遺構の内側に盛土が伴う円墳である可能性が高いと考えられる。

SD239はSD229に隣接し、底面の標高がSD215の深い部分と同じになること、SD215と比較してSD229の底面の幅が狭く浅いこと、SD215の底面は段差があり、確認できているSD239が一部のため深い部分のみの可能性もあることから、SD239がSD215の続きであり、円形周溝状遺構に対応する溝の可能性もある。しかし、調査区の南側と東側は崩落して崖になっており、西は調査区外のため、今回の調査範囲内では確認できなかった。

SD229とSD215は同じように弧を描いていること、底面の標高が同じであること、SD239はやや直線的であることから、SD229がSD215に対応する溝と考え、円形周溝状遺構とした。以下にSZ1を構成するSD215とSD229の詳細を述べることとする。SD239も前述したように可能性があるため、ここで報告することとする。

#### SD215

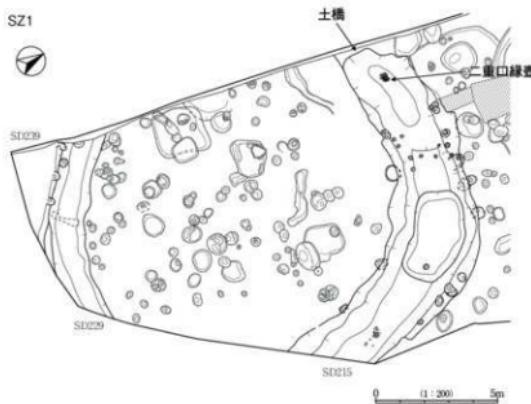
22C・Dグリッドに位置し、西の調査区外から弧を描くように南東の調査区外に延びる。幅約2.5m、深さ約1mで、底の幅は約1.3mである。断面形は台形状で、覆土は水平堆積である。SD215の北東部分にSK228が確認でき、当初は別の土坑ではないかと考えられた。そのため、ベルトを設定し土層観察を行ったが、SD215の覆土との違いが見られず、別の掘り込みも確認できないことから、SD215の一部とした。

北西部分の調査区境界付近では、溝の底が検出面付近まで立ち上がりつており、溝が完結している。前述したように円墳と考えられていることから、この立ち上がり部分は土橋と判断した。その土橋の東側の溝の底から、土橋から落ちて潰れたような状態で二重口縁壺（30）の1個体が出土した。そこからやや東のb-b'として設定した土層ベルトの底付近の2b層からは石錘（41）、3b～4層から、付加状口縁壺（35）の口縁部、器台の脚柱部（40）と器受部（39）、有段口縁壺（37）の口縁部、壺（38）の口縁部、壺（33）の口縁部が出土した。その他にはSD215の東の端の底付近の3b～4層から有段口縁壺（31、32）、有段口縁壺（36）、壺の底部（34）が

出土した。検出面付近の1層からは古代の遺物（84～87）が出土した。

#### SD229

23Cグリッドに位置し、西の調査区外から弧を描くように南東の調査区外に延びる。検出したIV層から上層は削平されているため全容は不明であるが、確認できた溝の幅約15m、深さ約0.6m、底の幅は約0.75mである。断面形は台形状であり、覆土はレンズ状堆積である。壺の底部（43）、複合口縁壺の口縁部（42）が出土した。



第14図 SZ1 平面図

### **SD229**

SD229の南に接する溝である。23Cグリッドに位置し、西の調査区外からやや直線的に南東の調査区外に延びる。検出したIV層から上は削平されており全容は不明である。確認できた溝の幅約1.8m、深さ約0.4mで、断面形は箱状と考えられる。一部分しか確認できていないため、覆土は分層できず1層である。

#### **5) 土壙墓**

土壙墓を10基確認した。出土遺物はなく隅丸長方形であり、方形周溝墓の墓壙と形態が類似していることから墓壙と捉らえ、周溝を確認できないものを土壙墓とした。しかし、今回の調査で確認した方形周溝墓の溝は浅く、IV層やV層まで遺構がおよんでいないために、溝を確認できなかった可能性もある。

以下に土壙墓の詳細を述べる。

#### **SK451 (図版11)**

20Eグリッドに位置し、IV層上面で検出した。平面形は隅丸長方形で長軸約1.8m、短軸約1.09m、深さ約0.15m、長軸方位はS-25°Wである。断面形は台形状であり、覆土は単層である。遺物は出土していない。

#### **SK453 (図版11)**

20Eグリッドに位置し、IV層上面で検出した。平面形は隅丸長方形で長軸約2.03m、短軸約1.49m、深さ約0.27m、長軸方位はS-67°Eである。断面形は台形状であり、覆土は水平堆積である。遺物は出土していない。

#### **SK458 (図版11)**

20Eグリッドに位置し、IV層上面で検出した。平面形は隅丸長方形で長軸約1.3m、短軸約1.06m、深さ約0.31m、長軸方位はS-14°Wである。断面形は台形状であり、覆土は水平堆積である。遺物は出土していない。

#### **SK578 (図版13)**

16Dグリッドに位置し、IV層上面で検出した。平面形は隅丸長方形で長軸約1.72m、短軸約1.09m、深さ約0.12m、長軸方位はS-69°Eである。断面形は箱状であり、覆土は水平堆積である。遺物は出土していない。

#### **SK329 (図版18)**

18Eグリッドに位置し、IV層上面で検出した。平面形は隅丸長方形で長軸約2.16m、短軸約0.68m、深さ約0.29m、長軸方位はS-86°Eである。断面形は箱状であり、覆土は水平ブロック状堆積である。遺物は出土していない。

#### **SK520 (図版18)**

18Eグリッドに位置し、IV層上面で検出した。平面形は隅丸長方形で長軸約2.39m、短軸約0.89m、深さ約0.41m、長軸方位はS-62°Wである。断面形は半円形状であり、覆土は水平ブロック状堆積である。遺物は出土していない。

#### **SK744 (図版18)**

19Dグリッドに位置し、IV層上面で検出した。平面形は梢円形で、長軸約3.21m、短軸約2.22m、深さ約0.24m、断面形は台形状である。覆土は水平堆積である。遺物は出土していない。平面形は梢円形としたが隅丸長方形ととらえることもでき、他の土壙墓よりも規模が大きいが、形態等から土壙墓と考える。

## 6) 土坑

土坑を64基確認した。長径が60cmを超え、柱痕を確認できないものを土坑とした。遺物を伴うものは少なく、時期については不明なものが多い。

### SK22 (図版19)

23Cグリッドに位置し、IV層上面で検出した。平面形は円形で、長軸約0.84m、短軸約0.81m、深さ約0.34mである。断面形は片側階段状で、覆土は水平堆積である。遺物は出土していない。

### SK27 (図版19)

22Dグリッドに位置し、IV層上面で検出した。平面形は円形で、長軸約1.24m、短軸約0.87m、深さ約0.29mである。断面形は片側階段状で、覆土は水平堆積である。遺物は出土していない。

### SK51 (図版19)

21Dグリッドに位置し、IV層上面で検出した。平面形は梢円形で、長軸約1m、短軸約0.72m、深さ約0.25mである。断面形は階段状で、覆土は斜位堆積である。遺物は出土していない。

### SK85 (図版19)

20Dグリッドに位置し、V層上面で検出した。平面形は梢円形で、長軸約1.08m、短軸約0.82m、深さ約0.32mである。断面形はU字状で、覆土は単層である。遺物は出土していない。遺構の中心からやや南と北端に掘り込みを確認できた。半截の段階で確認できたため断面観察を行ったが、南側の掘り込みは別の掘り込みではなく、柱痕跡も確認できず、床面から掘り込まれていることを確認できたが、北側の掘り込みは新しいピットであることを確認した。そのため、南側の掘り込みはSK85に付属するピットと考える。

### SK94 (図版19)

19Eグリッドに位置し、IV層上面で検出した。平面形は梢円形で、長軸約1.08m、短軸約0.71m、深さ約0.6mである。断面形は箱状で、覆土は水平堆積である。遺物は出土していない。半截の段階で遺構の床面の中心付近でピットが確認した。断面観察により、床面から掘り込まれていることを確認した。そのため、SK94に付属するピットとした。

### SK100 (図版19)

19Cグリッドに位置し、IV層上面で検出した。平面形は梢円形で、長軸約1.14m、短軸約0.92m、深さ約0.23mである。断面形は台形状で、覆土は水平堆積である。遺物は出土していない。

### SK214 (図版19)

22Cグリッドに位置し、IV層上面で検出した。平面形は隅丸方形で、長軸約2.03m、短軸約1.84m、深さ約0.26mである。断面形は箱状で、覆土は水平ブロック状堆積である。覆土から翡翠の剥片等が出土した。土層観察によりSD288の方が古いことが確認でき、検出段階でSK213が新しいことを確認した。

### SK220 (図版20)

22Cグリッドに位置し、IV層上面で検出した。平面形は不整長方形で、長軸約1.62m、短軸約1.45m、深さ約0.19mである。断面形は台形状で、覆土はレンズ状堆積である。遺物は出土していない。

### SK240 (図版20)

21Dグリッドに位置し、IV層上面で検出した。平面形は不整長方形で、長軸約1.32m、短軸約0.74m、深さ約0.26mである。断面形は台形状で、覆土はレンズ状堆積である。遺物は出土していない。

### SK250 (図版15)

21Cグリッドに位置し、IV層上面で検出した。平面形は方形で、長軸約1.3m、短軸約1.24m、深さ約

0.27mである。断面形は箱状で、覆土はブロック状堆積である。遺物は出土していない。土層観察によりSK248より新しい掘り込みであることを確認した。

**SK290** (図版16~17)

21Cグリッドに位置し、V層上面で検出した。平面形は長方形で、長軸約1.51m、短軸約1.38m、深さ約0.31mである。断面形は台形状で、覆土は水平堆積である。検出面で焼土と炭化物、土器片がまとまって出土した。掘り込み面はIV層であり、円形周溝状遺構が造られる前のものと考えられる。円形周溝状遺構の中心付近に存在し、焼土や土器片を確認できることから、円形周溝状遺構を造る前に祭祀等を行っていた遺構である可能性がある。

**SK368** (図版20)

21Dグリッドに位置し、V層上面で検出した。平面形は梢円形で、長軸約0.85m、短軸約0.74m、深さ約0.4mである。断面形は台形状で、覆土はレンズ状堆積である。遺物は出土していない。

**SK380** (図版20)

21Cグリッドに位置し、V層上面で検出した。平面形は梢円形で、長軸約1.2m、短軸約0.99m、深さ約0.36mである。断面形は階段状で、覆土は単層である。遺物は出土していない。遺構検出時には確認できなかつたが、床面からピットを2基確認した。完掘した後に検出したため、SK380に付属するものなのか、重複関係がある別のピットかは判断できなかった。

**SK382** (図版20)

21Dグリッドに位置し、V層上面で検出した。平面形は梢円形で、長軸約1.02m、短軸約0.66m、深さ約0.15mである。断面形は弧状で、覆土は単層である。遺物は出土していない。

**SK383** (図版20)

21Dグリッドに位置し、V層上面で検出した。平面形は梢円形で、長軸約1.05m、短軸約0.83m、深さ約0.26mである。断面形は台形状で、覆土は単層である。遺物は出土していない。

**SK389** (図版20)

21Dグリッドに位置し、V層上面で検出した。平面形は隅丸長方形で、長軸約1.62m、短軸約1.26m、深さ約0.27mである。断面形は台形状で、覆土は水平堆積である。遺物は出土していない。円形周溝墓と重複関係があり、遺構検出と土層断面観察でも円形周溝墓が新しく、SK389が古いことを確認した。また、形態が他の土壤墓と類似していることから、土壤墓の可能性も考えられる。

**SK403** (図版20)

21Dグリッドに位置し、V層上面で検出した。平面形は隅丸長方形で、長軸約0.61m、短軸約0.23m、深さ約0.27mである。断面形は台形状で、覆土は水平堆積である。遺物は出土していない。

**SK404** (図版20)

21Dグリッドに位置し、V層上面で検出した。平面形は不整形で、長軸約1.44m、短軸約0.75m、深さ約0.27mである。断面形は弧状で、覆土は単層である。遺物は出土していない。

**SK413** (図版21)

21Dグリッドに位置し、V層上面で検出した。平面形は隅丸長方形で、長軸約0.74m、短軸約0.66m、深さ約0.11mである。断面形は台形状で、覆土は単層である。遺物は出土していない。

**SK420** (図版21)

20Dグリッドに位置し、V層上面で検出した。平面形は隅丸長方形で、長軸約1.14m、短軸約0.75m、

深さ約0.09mである。断面形は半円状で、覆土は水平堆積である。遺物は出土していない。

**SK424** (図版21)

21Dグリッドに位置し、V層上面で検出した。平面形は隅丸長方形で、長軸約1.11m、短軸約0.44m、深さ約0.28mである。断面形は片側階段状で、覆土はブロック状堆積である。遺物は出土していない。

**SK455** (図版21)

20Dグリッドに位置し、IV層上面で検出した。平面形は円形で、長軸約0.97m、短軸約0.85m、深さ約0.21mである。断面形は階段状で、覆土は水平堆積である。遺物は出土していない。底面でピットを確認した。

**SK509** (図版21)

19Eグリッドに位置し、IV層上面で検出した。平面形は梢円形で、長軸約1.63m、短軸約1.1m、深さ約0.58mである。断面形は半円状で、覆土はレンズ状堆積である。遺物は出土していない。

**SK562** (図版14)

16Eグリッドに位置し、V層上面で検出した。平面形は梢円形で、長軸約0.8m、短軸約0.65m、深さ約0.1mである。断面形は台形状で、覆土は水平ブロック状堆積である。遺物は出土していない。

**SK563** (図版14)

16Eグリッドに位置し、V層上面で検出した。平面形は梢円形で、P575とP577が新しく、SK563を壊している。残存している長軸は約0.93m、短軸約0.85m、深さ約0.2mである。断面形は弧状で、覆土は水平ブロック堆積である。遺物は出土していない。位置的にSZ7としている方形周溝墓の中心付近に存在することから、墓壙の可能性を考えられる。

**SK599** (図版21)

18Eグリッドに位置し、IV層中で検出した。平面形は梢円形で、長軸約1.46m、短軸約1.16m、深さ約0.35mである。断面形は弧状で、覆土は水平ブロック状堆積である。遺物は出土していない。

**SK654** (図版21)

20Dグリッドに位置し、V層上面で検出した。平面形は梢円形で、長軸約0.93m、短軸約0.51m、深さ約0.08mである。断面形は弧状で、覆土は水平堆積である。遺物は出土していない。

**SK655** (図版21)

20Dグリッドに位置し、V層上面で検出した。平面形は梢円形で、SK654が新しくSK655を壊している。残存する長軸は約0.56m、短軸約0.45m、深さ約0.05mである。断面形は弧状で、覆土は水平堆積である。遺物は出土していない。

**SK759** (図版22)

19Dグリッドに位置し、V層上面で検出した。平面形は梢円形で、SK94が新しくSK759を壊している。残存する長軸は約1.06m、短軸約0.63m、深さ約0.32mである。断面形は半円状で、覆土は水平堆積である。遺物は出土していない。

**SK760** (図版22)

19Dグリッドに位置し、V層上面で検出した。平面形は梢円形で、SK94とSK759が新しくSK760を壊している。残存する長軸は約0.44m、短軸約0.22m、深さ約0.32mである。断面形はU字状で、覆土は水平ブロック堆積である。遺物は出土していない。

**SK769** (図版22)

16Dグリッドに位置し、V層上面で検出した。平面形は梢円形で、SD753とP770が新しくSK760を壊

している。残存する長軸は約0.95m、短軸約0.63m、深さ約0.21mである。断面形は半円状で、覆土はブロック堆積である。遺物は出土していない。

#### 7) ピット（図版22～25）

ピットを497基確認した。深さは比較的浅いものが多いが、本来の活動面はⅢb層上面と考えられるところから、確認できた深さより約0.2～0.5mは深かったと推測される。出土遺物は少なく、時期は不明なものが多い。柱痕が確認できるものもあるが、建物等を復元できないピットが多い。覆土は黒褐色～暗褐色シルトでV層のブロックや粒子を含むものもある。複数の土層が堆積し柱痕が確認できているものについては、人為的な埋め戻しや柱の根固めといったものが想定できるものであり、中央もしくは片側に寄った位置に柱痕を観察できるものが多い。ピットの規模は直径約0.4m前後ものが多いが、大きいものは約0.8～1m前後のものもある。規模が大きいものは土坑と考えられるものもあるが、柱痕や掘方が明確であるものはピットとした。

これらのうち、柱痕が確認できるもの、出土遺物を図示したものを中心に遺構別図を掲載した。各ピットの詳細や属性については遺構観察表（附表1）を参照されたい。

#### 8) 溝

##### SD48（図版26）

21D・22Dグリッドに位置する。IV層上面で緩く弧を描いて南北に延びる溝を検出した。全長約10m、幅約2.9m、深さ約1.3mである。断面形は台形状で、西側の立ち上がりが東側よりもやや急傾斜である。断面観察によりⅢa層がレンズ状に堆積しているため、本来の活動面はⅢb層上面と考えられ、深さは1.5m前後はあったと推測する。V層ブロック等が流れ込んでいる様子は見られなかった。平面形は緩く弧を描いていることから当初は円形周溝状遺構と考えたが、方形周溝墓や円形周溝墓の周溝よりも深く規模が大きいこと、円形周溝状遺構の周溝よりも深く壁の傾斜が急であることから、別の性格の溝であると考えた。調査区の南東端で県道により削平され、調査区の東側は崖になっているため、全容を確認することはできなかつたが、規模や断面形などから環濠と判断した。

出土遺物は最上層の1層から古代の土師器碗が出土した。この1層はⅡ層に由来すると考えられ、完全に埋没していない段階で、流れ込んだものと考える。3層から有段口縁広口長頸壺の口縁部（47）、広口長頸壺（49）、小型壺（50）、受口状口縁薄堀（51）、甕の底部（52）、磨製石斧（53）が出土した。滝沢編年の遅くとも3期には埋没しつつあったことがうかがえる。

この溝が環濠とすると、調査区は溝で区画を行った後に、墓域として使用された神聖な空間といえるのではないだろうか。また、溝の壁の立ち上がりが西側の傾斜よりも東側の方が緩やかであることから、環濠を防御施設として考えると西側が環濠の内側ではないかと推測するが、様々な見解があり、ここでは調査時の見解と事実記載を述べるにとどめる。

#### 9) 構列

##### SA1・SA2

18Dグリッドに位置し、V層上面で検出した。コの字に並ぶピットを確認したため、SA1とSA2とした。ピットの規模は小さく、浅い。平面形は円形で、直径は約0.15～0.25m、深さ約0.1～0.28mである。断面形はU字状で、覆土は単層である。遺物は出土していない。

## 10) 性格不明遺構

### SX248

21C・22Cグリッドに位置し、IV層上面で検出した。出土遺物もなく、大型で形態が董なため性格不明遺構とした。平面形は不整長方形であり、床面は全体的に凹凸がある。遺構検出時にV層が見えている部分も存在し、同心円状であることからSK250も含めて倒木痕の可能性がある。

### SX663

21Cグリッドに位置し、V層上面で検出した。平面形は梢円形で、残存する長軸は約1.62m、短軸約0.96m、深さ約0.19mである。断面形は弧状で、覆土は水平堆積である。遺物は出土していない。規模が大きく、調査区外に延びるため、詳細を掘むことができず不明遺構とした。

## 3 その他の時代の遺構

### 1) 繩文時代

#### 陥し穴（図版27）

縄文時代の陥し穴と考えられる遺構を2基確認した。SK431とSK600は他の土坑やビットと比べて規模が大きく深い。断面形は台形状もしくは袋状であり、底面中央に逆茂木の痕跡と考えられるビットを確認したことから、陥し穴と判断した。SK431は20Dグリッドに位置し、V層上面で検出した。平面形は長軸約1.57m、短軸約1.32m、深さ約1.43mの円形で、覆土は水平堆積である。底面で検出したビットの平面形は長軸約0.24m、短軸約0.18m、深さ約0.4mの梢円形で、覆土は単層である。SK600は18Eグリッドに位置しIV層中で検出した。平面形は長軸約1.68m、短軸約1.55m、深さ約1.37mの梢円形で、覆土は斜位堆積である。底面で検出したビットの平面形は、長軸約0.36m、短軸約0.25m、深さ約0.1mの不整形である。ビットが2基つながったような形であるが新旧関係は確認できなかった。覆土は単層である。

### 2) 古代

#### 溝

古代の溝と考えられる遺構を1基確認した。SD120は調査区を横断する形でN-77°W方向に直線的に延びている。全長約13m、幅約1.52m、深さ約0.5mで、断面形は台形状である。

調査区の壁の断面観察により、Ⅲa層上面から掘り込まれていることを確認した。須恵器の楕の底部(80)が出土した。このことから古代以降の溝と考える。

#### ビット

SK251は基本土層を確認するために先行して掘削したトレンチで検出した。SD120を壊す形で検出できていることから、SD120より新しく古代以降の遺構と考えられる。平面形は梢円形で、長軸約0.86m、短軸約0.55m、深さ約0.24mである。断面形は台形状で、覆土は斜位堆積である。床面にはビット状に掘り込まれている部分がある。遺物は出土していない。

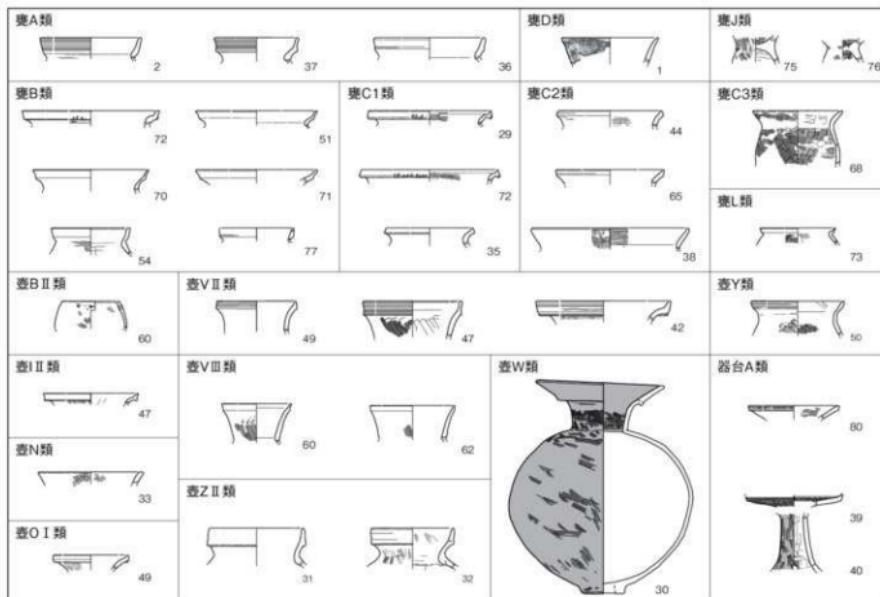
# V 遺物

## 1 遺物の概要

出土遺物の総量は、遺物収納用コンテナ8箱分、破片数で約4000点、総重量約35kgである。内訳は弥生時代後期後半から古墳時代前期の土器、石製品、玉類、古代（平安時代）の土師器、石製品などである。遺物の大半は、上層の遺物包含層であるⅢ層とⅣ層から出土している。遺跡の性質からか、遺構に伴って出土した遺物は少ない。また、完形に復元できた土器は1点だけで、その他は部分的な破片である。本報告では器種や器形をある程度特定できる104点を図化した。時期については後述するが、弥生時代後期後半、古墳時代前期、平安時代の3時期と推測される。

各遺構の変遷を検討するため、出土した弥生時代後期後半から古墳時代前期の遺物の概要を遺構ごとに述べる。その後、包含層等から出土した遺物について述べ、最後にその他の時代の遺物について述べることとした。

また、弥生時代後期後半から古墳時代前期の土器の分類については出土した遺物が少ないため、滝沢規朗氏の2005年『新潟県における高地性集落の解体と古墳の出現』『土器の分類と変遷』の分類を使用し分類図を作成した。



第15図 土器分類図 (1/8)

## 2 弥生時代後期から古墳時代前期の遺物

### 1) 挖立柱建物

#### P52・P45 (図版28)

SB1を構成する柱穴では、P52とP45から出土した弥生時代の土器を2点図化した。

P52からは壺の口縁部（1）が出土した。外面調整はナデが施され、内面調整はナデの後ミガキが施されている。口縁部がやや外反し、外面に7条一単位の波状文が施されており、壺D類の箱清水式土器である。P45からは有段口縁壺の口縁部（2）が出土した。内面調整はヘラナデが施されている。外面調整はナデが施され、口縁部には擬凹線文をめぐらせる壺A類である。

### 2) 方形周溝墓

#### SK96 (図版28)

SZ3を構成する墓壙のSK96からは、勾玉3点、管玉10点、ガラス小玉13点が出土し、図化した。非常に小さい遺物のため、前述したようにウォーター・セバレーションで確認できたものが多い。このSZ3については第VII章で遺構、遺物を踏まえて述べる。

勾玉の石材は翡翠2点（4,5）、軟玉1点（3）である。翡翠の2点は長さ約1.5cm、幅約1.0cm、厚さ約0.5cm、重量約1.6gと類似している。軟玉の勾玉は長さ約2.0cm、幅約1.1cm、厚さ0.7cm、重量2.3gであり、翡翠のものより数値以上に一回り大きく見受けられる。

管玉は13点で、石材はすべて緑色凝灰岩である。このうち1点（11）のみが完形品であり、その他の12点は破損していると考えられていたが、破断面を観察すると研磨した痕跡があるため、破損後に磨いて再利用しているとみられる。このことから、出土した管玉は一部欠損しているものもあるが、完形品といえる。管玉の穿孔はすべて両側から行われている（第16図）。直径が大きいものと小さいものの2種類に分類でき、大きいもの（6~10）は直径約0.9cm、長さ約1.6cmである。7と8は別々で出土したが、接合可能であり1つの製品と考えていたが、破断面を確認すると磨いている痕跡が見られる。また、接合すると約3.5cmとなり他より2倍の大きさになることから、意図的に折ったもしくは破損後に磨いて、2個の製品として使用したと考えられる。10はやや長さが短いが、磨いた痕跡を両端で確認した。直径が小さいものは直径約0.3~0.4cm、長さ約1.2~1.7cmと長さにややバラつきがあるが、12、13、15は折損しているために短いと考えられる。本来は長さ約1.7cmで同様のものであったであろう。

これらのことから管玉は長さがほぼ同じであるが、直径の大小2種類が存在し、これらを組み合わせて装飾具として使用されていたと考えられる。

ガラス小玉は紺色透明が10点、淡青色透明が3点の2種類が出土した。直径約0.2cm~0.3cm、重量約0.05gであり、割合的に紺色透明のガラス玉が多い。材質はすべてカリガラスで、孔の両端は研磨により平坦面が作られている。

出土した玉類については、独立行政法人奈良文化財研究所の田村朋美氏に分析をしていただいた。また、奈良女子大学の大賀克彦氏にご教示を賜った。詳細は第VI章を参照していただきたい。



第16図 管玉10穿孔状況 (2/1)

#### SK454（図版28）

SZ4を構成する墓壙のSK454から出土した付加状口縁壺の口縁部（29）1点を図化した。外面調整はナデが施され、口縁部下端に押圧によるキザミが見られる。内面調整はナデとハケメが見られる。外面の一部にススが付着する。いわゆる「コ字壺」の付加状口縁の壺C1類である。方形周溝墓と考えられる遺構から出土した唯一の土器であり、方形周溝墓の時期をとらえる上で重要な遺物である。

#### 3) 円形周溝状遺構

##### SD215（図版29）

SZ1の周溝であるSD215の覆土の3b～4層から出土し、完形に復元できた二重口縁壺（30）、有段口縁部の口頭部（31、32）、壺の底部（34）と口縁部（33）、付加状口縁壺の口縁部（35）、有段口縁壺の口縁部（36、37）、壺の口縁部（38）、器台の器受部（39）と脚柱部（40）11点の土器片と石錐（41）の1点を図化した。30～32、34、36は遺構の床面近くから出土し、SZ1の時期を考える上で重要な遺物である。

二重口縁壺の30は、ほぼ完形に復元できる個体である。口径20.2cm、底径6.4cm、器高35.1cmで、外側全面と内面の頭部までが赤彩されている。頭部から外傾して立ち上がり上部で段を有し、口縁部は広口となる壺W類である。外面調整はナデとハケメが施され、胴部はヘラミガキが施されている。内面調整はナデ、ヘラナデ、ヘラミガキが施されている。胴部下位は被熱により器面が剥離している。有段口縁壺の31と32は形態が類似するが、口唇部や器面の状態が相違しており、別個体である。頭部から大きく外傾し、口縁部が上方に立ち上がる壺ZⅡ類である。31は器面が摩耗しており調整等は不明である。32は内外面ともに調整はナデ、ハケメのあとヘラミガキが施されている。壺の口縁部の33は内外面ともに調整はナデのあとヘラミガキが施されている。小片のためやや不明な部分もあるが、口縁部がやや外反し、口縁端部は面取りされていることから、二重口縁壺のN類と考える。壺の底部から胴部下位が残る34は平底で体部外面にナデとハケメが施されており、底面は無調整である。内面調整はヘラナデが施されている。付加状口縁壺の35は、内外面ともに被熱により器面が剥離しており、調整は不明瞭だがナデが施されている。外面にはススが付着している。いわゆる「く字壺」の付加状口縁の壺C1類である。有段口縁壺の36は、内外面ともに器面の剥離が著しいため調整は不明である。37は口縁部に擬凹線文が施された壺A類である。外面は風化により一部剥離しているが、調整はナデのあとヘラミガキが施される。38は内外面ともにハケメが施され、いわゆる「く字壺」で口縁端部が明瞭に面取りされた壺C2類である。

器台の脚柱部の40は、外面にナデのあとヘラミガキが施され、内面にはナデとヘラナデが施され、指頭押圧が見られる。外面に赤彩が施されている。器受部の39は内外面ともナデのあとヘラミガキが施され、赤彩される。調整方法が同様であり、出土位置もほぼ同じであることから39と40は同一個体と考えられる。脚部と裾部が比較的明瞭で、受部に口縁部が付加していないことから器台A類である。

その他に安山岩の礫石錐が出土した。風化が著しいが、長さ約6.55cm、幅約5.25cmで穿孔はない。

##### SD229（図版29）

SZ1の周溝であるSD229から出土した複合口縁壺の口縁部（42）、壺の底部（43）の2点を図化した。

複合口縁壺の42は、内外面ともに調整はナデのあとヘラミガキが施されている。口縁部の外面には3条の沈線が見られる。頭部が外反して短い口縁部に至り、口縁部が有段となる広口長頭壺の壺VⅡ類である。壺の底部の43は、平底で中心が少し浮く。調整は外面がヘラナデのあとヘラミガキを施し、内面はヘラナデとハケメを施す。やや外反しながら胴部に立ち上がる。

#### SD239 (図版29)

SZ1の周溝の可能性があるSD239から出土した壺の口縁部(44)の1点を図化した。内外面ともにナデが施される。頭部から外反しながら立ち上がり、口縁端部を面取りする壺C2類である。

#### 4) 土壙墓

##### SK329 (図版30)

壺の口縁部(45)と胴部下半から底部(46)の2点を図化した。壺の口縁部の45は、外面調整はナデが施され、内面調整はナデと胴部にハケメが施されている。外面にススが付着する。いわゆる「く字壺」であり、口縁端部を面取りする壺C2類である。壺の胴部下半から底部の46は、全体的に風化により器面が剥離しているが、外面にハケメ、内面にヘラナデと指頭圧痕を見ることができる。外面にススが付着する。

#### 5) 溝

##### SD48 (図版30)

環濠の可能性のあるSD48の4層から出土した、有段口縁広口長頸壺(47)、2層から複合口縁壺の口縁部(48)、広口長頸壺の口頸部(49)、二重口縁壺の口頸部(50)、受口状口縁壺の口縁部(51)、壺の底部(52)の6点の土器片と1層から出土した磨製石斧(53)の1点を図化した。

47は有段口縁広口長頸壺の口頸部である。外面にナデとハケメが施され、内面にはナデとヘラナデが施される。広口長頸壺で口縁部が有段のものである壺V II類である。48は複合口縁壺の口縁部である。外面にはナデが施され、頸部にはナデのあとヘラミガキを施す。内面は被熱により器面が硬化する。調整はナデとヘラミガキが施されている。外面の一部にススが付着する。口縁部が比較的長く、外反して立ち上がる壺I II類である。49は広口長頸壺の口頸部である。内外面ともに摩耗が著しく調整は不明であるが、口縁部に2条の凹線を確認できる。口縁端部を上方に摘み上げる壺V III類である。50は二重口縁壺の口頸部である。風化により器面が摩耗しているため調整は不明瞭であるが、頸部外面はナデのあとヘラミガキを施す。頸部が外反して短い口縁部に至る東海系の壺O I類である。51は受口状口縁壺の口縁部で、器壁が薄く、外面にススが付着している。調整は内外面ともにナデを施す受口状であるが、有段部が未発達な壺B類である。52は壺の底部で、調整は内外面ともにナデとハケメを施す。

#### 6) ピット

##### P37 (図版30)

覆土から出土した有段口縁壺の口縁部(54)の1点を図化した。調整は外内面ともに口縁部にはナデが施され、胴部にはハケメが施されている。外面はススが付着する。有段部が未発達な受口状の壺B類である。

##### P232 (図版30)

覆土の1層から出土した石鎌(55)の1点を図化した。石材は緑色凝灰岩である。

##### P691 (図版30)

覆土から出土した壺の胴部下半から底部(56)の1点を図化した。調整は外面の胴部中位にハケメ、下位にナデが施され、内面はハケメが施されている。

##### P703 (図版30)

覆土の1層から出土した石錐(57)の1点を図化した。その他にも剥片が出土した。

#### 7) 包含層出土の遺物

包含層としたIII～IV層から出土したもので、破片であるが器種や器形をある程度特定できる32点の土器と石製品を図化した。

### 壺（図版30）

包含層のⅢ、Ⅳ層から出土した7点（58～64）を図化した。58の外面調整は不明であるが、櫛描波状文が見られる。内面調整はハケメが施されている。胴部の破片で、櫛描波状文がみられ壺Z1類である。

59の外面調整は口縁部にナデ、胴部にハケメが施され、内面調整は口縁部にナデ、ヘラナデ、胴部にはハケメが施されている。外面の口縁部にススが付着する。東北系の壺Y類である。

60の外面調整はナデ、ハケメが施され、頸部に上方から刺突されたキザミが見られる。内面調整はナデが施されている。口縁上端部をつまみ上げる壺V III類である。

61は風化により器面が摩耗しているが、外面調整はハケメを確認できる。60と同じく口縁上端部がつまみ上げられたもの、もしくは單口縁の広口長頸壺であり、壺V III類もしくは壺V IV類と考えられる。

62は外面調整がナデ、ハケメが施され、内面調整はナデが施されている。口縁部と胴部の境に直径約3.5mmの焼成前穿孔が2カ所見られる。内弯して立ち上がる無頸壺の壺B II類である。

63と64は底部のみのため器種は不明であるが、小型壺か鉢の底部と考えられる。

### 甕（図版30・31）

包含層のⅢ、Ⅳ層から出土した12点（65～79）を図化した。調整はナデ、ハケメ、ヘラナデを確認できる。65は外面の胴部上位に押圧によるキザミが施される。66と67の口縁端部は面取りされている。66の外面にはわずかにススが付着する。68は外面の口縁部と胴部中位にコゲが見られ、口縁端部には意図的な押圧による窪みが見られる。66は口縁部のみであるが、いわゆる「く字甕」の付加状口縁の甕C1類である。67～69は「く字甕」で、67、69は口縁端部が面取りされた甕C2類、68は口縁端部の面取りが不明瞭な甕C3類である。

70と71はIV層、72はI層から出土したもので、有段口縁の甕B類の口縁部である。70と71は風化により内外面ともに調整は不明である。72は外面にナデとハケメが施され、ススが付着する。口縁端部は面取りされ下端に押圧によるキザミが見られる。70と71は有段部が未発達な受口状となる。72は受口状の端部に面を有するものである。

73はIV層から出土した。口縁端部に面を持たないS字状口縁甕の甕L類である。内外面ともに調整は、口縁部にナデ、胴部にハケメが施されている。外面にはハケメのあとに櫛描文が見られる。

74はⅢ層から出土した。付加状口縁で、外面にナデが施され、口縁部下端には押圧によるキザミが見られる。内面にはナデとハケメが施される。いわゆる「コ字甕」の付加状口縁の甕C1類である。

75と76はⅢ、Ⅳ層から出土したもので、台付の甕J類の脚部である。内外面ともに調整はハケメが施され、75の内面の脚部にはヘラナデが施される。76は底部充填技法が見られ、内面底部にコゲが付着している。

77はIV層から出土した有段口縁甕の口縁部である。外面にススが付着しているため甕とした。調整は内外面ともにナデが施されている。有段部が未発達な受口状の甕B類である。

78はⅢ層から出土した。甕の頸部から胴部上半である。調整は外面にナデ、ハケメが施され、内面にはナデが施されている。

79はIV層から出土した甕の底部である。調整は内外面ともにヘラナデが施される。

### 器台（図版31）

包含層のIV層から出土した2点（80、81）を図化した。80は器台の器受部である。包含層のIV層から出土した。口縁端部は面取りされ、外面に沈線が1条みられる。内面調整はナデ、ハケメが施されたのち、

不鮮明であるがミガキが施されている。受部が無段である器台A類である。

81は器台の裾部である。内外面ともに調整はヘラミガキが施され、外面は赤彩が見られる。

### 3 繩文時代の遺物

#### SK454 (図版31)

縄文時代の土器が出土した。鉢(82)の底部の破片で、被熱により器面が硬化していると考えられる。外面調整はナデが施され、胴部最下位に縦位沈線が見られる。内面調整はナデが施される。

### 4 古代の遺物

#### SD120 (図版31)

古代の須恵器の無台杯の底部(83)が覆土の2層から出土した。内外面ともに調整はロクロナデが施され、底部外面は回転ヘラ切りの痕を丁寧なナデ消しが施されている。底部はやや歪みがある。大部分が酸化しており、外面の一部が還元している部分がみられる。

#### SD215 (図版31)

SD215の検出面に近い1層から出土した。SD215が埋没した後に残った窪みに流れ込んだと考えられる。土師小甕(84~86)、椀(87)の4点を図化した。

84の口縁部は外傾し、口縁端部はやや丸みを帯びる。外面にはロクロナデが施され、底面は回転糸切り痕がみられる。85と86は、胎土に石英をやや多く含み、微砂粒を少量含むことや器壁の薄さ等の特徴が一致することから同一個体と考えられる。85は内外面ともに調整はロクロナデが施されている。口縁部は外傾し口縁端部はやや丸みを帯びる。87の底面は回転糸切り痕がみられるが、内面調整は摩耗しており不明である。

#### SD48 (図版31)

検出面付近の1層から、古代の土師器の椀の体部から底部の破片(88)が出土した。埋没後にやや窪んでいる部分に流れ込んだと考えられる。外面にロクロナデが施され、底面には回転糸切り痕がみられる。内面はロクロナデが施され、見込部にはロクロナデのあとヨコナデが施されている。

#### SD88 (図版31)

検出面付近の1層から、古代の土師器の椀の底部(89)が出土した。埋没後にやや窪んでいる部分に流れ込んだと考えられる。調整は内外面ともにロクロナデである。底面には回転糸切り痕がみられる。

#### 包含層 (図版31)

包含層のⅢ、Ⅳ層から古代の土師器が4点出土した。椀(90~93)である。椀の4点はすべてロクロ成形であり、92、93の底面には回転糸切り痕がみられる。包含層から出土した古代の遺物は10世紀前半段階と考えられる。

## 5 時期不明の遺物

### P296 (図版32)

砥石 (94) が直立し突き刺さったような状態で出土した。長さ約30.7cm、幅約6.4cm、厚さ約6.4cm、重量266kgである。石材は砂岩で、砥面は全体的に使用されているが擦痕は見られない。P296は23Cグリッドに位置し、円形周溝状遺構の内側のV層上面で検出した。平面形は長軸約0.23m、短軸約0.22m、深さ約0.33mの円形で、断面形はU字状で覆土は単層である。石川県の八日市地方遺跡でも最大長が30cmを超える大型砥石が埋積浅谷から出土している。そのため、弥生時代の遺物の可能性がある。

### 包含層 (図版32)

包含層であるⅢ層から石錘2点 (95、96)、有孔円盤状石器1点 (97)、翡翠の剥片 (98~102)、緑色凝灰岩の剥片 (103、104) が出土している。石錘は2点とも石材は安山岩であり、95は分銅形である。

97の有孔円盤状石器は、一部剥離しているが上下面とともに傾斜をつけて研磨成形した算盤玉形である。直径約11cm、厚さ2.75cm、重量116.7gで、中央に穿孔され孔径約0.45~0.4cmである。穿孔はややズレが見られることから、両側穿孔である。側縁幅約0.5cmの面取りが見られる。時期不明として報告しているが、石川県の八日市地方遺跡でも出土しており、弥生時代の遺物と考えられる。

98~102の石材は、すべて翡翠である。時期不明の遺物として報告しているが、弥生時代中期頃の勾玉を製作する過程の原石と考えられる。98→99→100→101→102の工程となる。101は微細剥離が見られ、102は勾玉の未成品である。103、104は緑色凝灰岩の剥片であり、104は施溝・打撃分割が見られる。これらは玉作関係の石材であり、100・101はSK214の覆土、その他はSK214周辺のまとまった範囲で出土した。このことからSK214は玉作りに関係する遺構の可能性がある。周辺に弥生時代中期以降において玉作りを行っていた場所が存在したと考えられる。

# VI 自然科学分析

## 1 西岩野遺跡における放射性炭素年代 (AMS 測定)

(株) 加速器分析研究所

### 1) 測定対象試料

西岩野遺跡（新潟県柏崎市）の測定対象試料は、大型掘立柱建物跡の柱穴から出土した炭化物1点である（第5表）。この建物跡は、長さ約9m、独立棟持柱を持つ構造で、柱穴からは弥生時代後期の土器がわずかに出土している。また、弥生時代後期から古墳時代初頭と考えられる円形周溝状遺構SD33に壊された柱穴がある。

### 2) 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸 (AAA : Acid Alkali Acid) 処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常  $1\text{mol/l}$  (1M) の塩酸 (HCl) を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム (NaOH) 水溶液を用い、 $0.001\text{M}$  から  $1\text{M}$  まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が  $1\text{M}$  に達した時には「AAA」、 $1\text{M}$  未満の場合は「AaA」と表1に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素 ( $\text{CO}_2$ ) を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト (C) を生成させる。
- (6) グラファイトを内径  $1\text{mm}$  のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

### 3) 測定方法

加速器をベースとした $^{14}\text{C}$ -AMS 専用装置 (NEC社製) を使用し、 $^{14}\text{C}$ の計数、 $^{14}\text{C}$ 濃度 ( $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ )、 $^{14}\text{C}$ 濃度 ( $^{14}\text{C}/^{13}\text{C}$ ) の測定を行う。測定では、米国国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (HOx II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

### 4) 算出方法

- (1)  $\delta^{13}\text{C}$  は、試料炭素の $^{13}\text{C}$ 濃度 ( $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ ) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (‰) で表した値である（表1）。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2)  $^{14}\text{C}$ 年代 (Libby Age : yrBP) は、過去の大気中 $^{14}\text{C}$ 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年 (0yrBP) として測る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期 (5568年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。 $^{14}\text{C}$ 年代は  $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を第5表に、補正していない値を参考値として第6表に示した。 $^{14}\text{C}$ 年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、 $^{14}\text{C}$ 年代の誤差 ( $\pm 1\sigma$ ) は、試料の $^{14}\text{C}$ 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2% であることを意味する。
- (3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の $^{14}\text{C}$ 濃度の割合である。

pMCが小さい ( $^{13}\text{C}$  が少ない) ほど古い年代を示し、pMCが100以上 ( $^{13}\text{C}$  の量が標準現代炭素と同等以上) の場合 Modern とする。この値も  $\delta^{13}\text{C}$  によって補正する必要があるため、補正した値を第5表に、補正していない値を参考値として第6表に示した。

- (4) 暗年較正年代とは、年代が既知の試料の  $^{13}\text{C}$  濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の  $^{13}\text{C}$  濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暗年較正年代は、 $^{13}\text{C}$  年代に対応する較正曲線上の曆年代範囲であり、1標準偏差 ( $1\sigma = 68.2\%$ ) あるいは2標準偏差 ( $2\sigma = 95.4\%$ ) で表示される。グラフの縦軸が  $^{13}\text{C}$  年代、横軸が曆年較正年代を表す。曆年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$  補正を行い、下1桁を丸めない  $^{13}\text{C}$  年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、曆年較正年代の計算に、IntCal13データベース (Reimer et al. 2013) を用い、OxCalv4.3較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。曆年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として第6表に示した。曆年較正年代は、 $^{13}\text{C}$  年代に基づいて較正(calibrate)された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」または「cal BP」という単位で表される。

## 5) 測定結果

測定結果を第5、6表に示す。

試料No.1の  $^{13}\text{C}$  年代は  $1830 \pm 20\text{yrBP}$ 、曆年較正年代 ( $1\sigma$ ) は  $139\sim216\text{cal AD}$  の範囲で示され、弥生時代後期頃に相当する (小林200、佐原2005)。この試料は柱穴の掘方から出土しているため、建物の年代を直接示すとは限らない点に注意を要するが、出土土器や他の遺構との重複関係に矛盾しない結果となっている。

なお、試料No.1が含まれる1~3世紀頃の曆年較正に関しては、北半球で広く用いられる較正曲線 IntCal に対して日本産樹木年輪試料の測定値が系統的に異なるとの指摘がある (尾崎2009、坂本2010など)。その日本産樹木のデータを用いてこの試料の測定結果を曆年較正した場合、ここで報告する較正年代値よりも新しくなる可能性がある。

試料の炭素含有率は66 %の十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

測定番号	資料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
					(AMS)	Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-171527	No.1	地区：20D22 道：P53 振方	炭化物	AAA	-28.63 $\pm$ 0.30	1,830 $\pm$ 20	79.61 $\pm$ 0.22

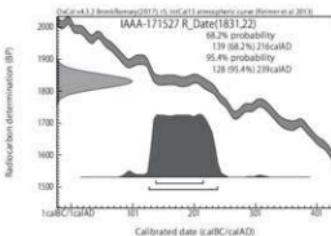
[IAA 登録番号 : #8782]

第5表 放射性炭素年代測定結果 ( $\delta^{13}\text{C}$  補正值)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		曆年較正用 (yrBP)	$1\sigma$ 曆年年代範囲	$2\sigma$ 曆年年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-171527	1,890 $\pm$ 20	79.02 $\pm$ 0.21	1,831 $\pm$ 22	139calAD-216calAD (68.2%)	128calAD-239calAD (95.4%)

[参考用]

第6表 放射性炭素年代測定結果 ( $\delta^{13}\text{C}$  未補正值、曆年較正用  $^{14}\text{C}$  年代、較正年代)



第17図 曆年較正年代グラフ (参考)

### 〔参考文献〕

- Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates. *Radiocarbon* 51 (1), 337-360
- 小林謙一 2009 近畿地方以東の地域への拡散, 西本豊弘編, 新弥生時代のはじまり 第4巻 弥生農耕のはじまりとその年代, 雄山閣, 55-82
- 尾崎大真 2009 日本産樹木年輪試料の炭素14年代からみた弥生時代の実年代, 設楽博己, 藤尾慎一郎, 松木武彦編弥生時代の考古学1 弥生文化の輪郭, 同成社, 225-235
- Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP. *Radiocarbon* 55 (4), 1869-1887
- 坂本稔 2010 較正曲線と日本産樹木－弥生から古墳へ－, 第5回年代測定と日本文化研究シンポジウム予稿集, (株) 加速器分析研究所, 85-90
- 佐原眞 2005 日本考古学・日本歴史学の時代区分, ウェルナー・シュタインハウス監修, 奈良文化財研究所編集, 日本の考古学 上 ドイツ展記念概説, 学生社, 14-19
- Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of  $^{14}\text{C}$  data, *Radiocarbon* 19 (3), 355-363

## 2 西岩野遺跡出土ガラス小玉の分析

田村朋美

(奈良文化財研究所)

### 1) はじめに

西岩野遺跡では方形周溝墓から13点のガラス小玉が出土している。本調査では、西岩野遺跡から出土したガラス小玉の基礎ガラスの種類および着色剤の特徴を把握することを目的として、化学組成の非破壊分析を実施した。以下、その結果について報告する。

### 2) 資料と方法

調査対象とした資料は、西岩野遺跡の方形周溝墓から出土したガラス小玉13点である。色調は、紺色透明を呈するものが10点（No.16～23, 26, 27）、淡青色透明が3点（No.24, 25, 28）である。

調査は、実体顕微鏡観察および蛍光X線分析による非破壊材質調査によった。蛍光X線分析の測定結果は、ガラス標準試料を用いて、FP法によって規格化し、酸化物重量百分率で表示した。測定に用いた装置は、エネルギー分散型蛍光X線分析装置（EDAX社製EAGLE III）、励起用X線源はRh管球である。管電圧は、標準資料で補正したFP法での定量分析では20 kVに設定し、20 keV以上のスペクトルを検出する場合には45 kVに設定した。管電流は200 μA、X線照射径は50 μm、計数時間は300秒とした。測定は真空中で実施した。

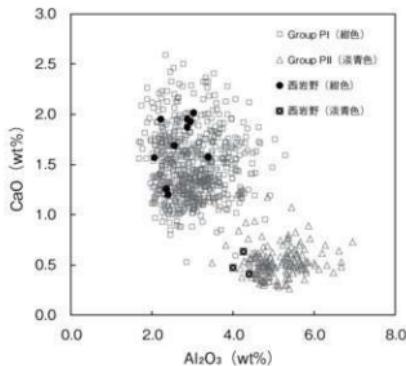
### 3) 結果と考察

西岩野遺跡出土のガラス小玉は、いずれも孔内面が平滑で、孔と平行方向に並ぶ気泡が確認されることから、軟化したガラスを引き伸ばしてガラス管を作り、それを分割して小玉を得る「引き伸ばし法」によって製作されたと推定される。端面がわずかに研磨されている。

蛍光X線分析の結果、西岩野遺跡出土のガラス小玉は、いずれもK<sub>2</sub>Oを13.4-17.6%含有するカリガラスであった（第7表）。紺色透明を呈する10点は、CoOを0.06-0.09%含有しており、コバルトイオンが主要な着色成分である。コバルト原料の特徴として、不純物と考えられるMnOを1.47-2.16%含有し、CuOおよびPbOの含有量がきわめて少ない（0.1%未満）。淡青色透明を呈する点は、CuOの含有量が多く（14.7-27.8%）、銅イオンが主要な着色要因である。いずれも微量のPbOとSnO<sub>2</sub>を含んでおり、着色剤として利用された銅原料が青銅の可能性を示している。

既往研究において、日本列島で出土するカリガラスは、CaOとAl<sub>2</sub>O<sub>3</sub>の含有量から二種類（Group I、Group II）に大別され、さらにGroup Iはコバルト着色の紺色カリガラスに、Group IIは銅着色の淡青色カリガラスに対応することが明らかとなっている（Oga and Tamura 2013）。本調査の結果、西岩野遺跡出土品についても基礎ガラスの種類と着色剤の関係において先行研究の分類と一致する結果が得られた。すなわち、紺色透明を呈する個体（10点）は、Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>含有量が相対的に少なく、CaO含有量が多いタイプのカリガラス（Group I）と呼んでいるものに相当し、淡青色透明を呈する個体（3点）はAl<sub>2</sub>O<sub>3</sub>含有量が多く、CaO含有量が少ないタイプ（Group II）に相当することがわかった（第18図）。

以上のようなガラス玉の構成は、弥生時代後期後半とされる遺構の年代と矛盾ないと考えられる。さらに小型のGroup Iの紺色カリガラス小玉が主体であることから、古墳時代には下らないと考えられる。



第18図 化学組成によるカリガラスの細分 (CaO vs. Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)

通 誌	No.	器種	製作技法	蛍光X線分析結果										色 調	備 考
				大別	細分	Group									
西岩野遺跡 (方形周溝墓)	16	小玉	引き伸ばし	カリガラス	中アルミナ	P1	褐色透明	塗面研磨							
	17	小玉	引き伸ばし	カリガラス	中アルミナ	P1	褐色透明	塗面研磨							
	18	小玉	引き伸ばし	カリガラス	中アルミナ	P1	褐色透明	塗面研磨							
	19	小玉	引き伸ばし	カリガラス	中アルミナ	P1	褐色透明	塗面研磨							
	20	小玉	引き伸ばし	カリガラス	中アルミナ	P1	褐色透明	塗面研磨							
	21	小玉	引き伸ばし	カリガラス	中アルミナ	P1	褐色透明	塗面研磨							
	22	小玉	引き伸ばし	カリガラス	中アルミナ	P1	褐色透明	塗面研磨							
	23	小玉	引き伸ばし	カリガラス	中アルミナ	P1	褐色透明	塗面研磨							
	24	小玉	引き伸ばし	カリガラス	高アルミナ	PII	淡青色透明	塗面研磨							
	25	小玉	引き伸ばし	カリガラス	高アルミナ	PII	淡青色透明	塗面研磨							
	26	小玉	引き伸ばし	カリガラス	中アルミナ	P1	褐色透明	塗面研磨							
	27	小玉	引き伸ばし	カリガラス	中アルミナ	P1	褐色透明	塗面研磨							
	28	小玉	引き伸ばし	カリガラス	高アルミナ	PII	淡青色透明	塗面研磨							

No.	重 量 濃 度 (wt%)													SnO <sub>2</sub>						
	Na <sub>2</sub> O	MgO	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	SiO <sub>2</sub>	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	SO <sub>3</sub>	K <sub>2</sub> O	CaO	TiO <sub>2</sub>	Cr <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	MnO	Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	CaO	Ni <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	CuO	ZnO	PhO	Rb <sub>2</sub> O	SrO	ZrO <sub>2</sub>
16	0.8	0.29	73.7	0.1	0.1	14.0	19	0.20	0.03	2.10	1.28	0.09	0.02	0.05	0.02	0.04	6.04	0.04	0.13	n.d.
17	0.7	0.24	76.9	0.1	0.1	13.6	12	0.13	0.03	1.47	1.12	0.07	0.01	0.04	0.02	0.04	6.04	0.04	0.13	n.d.
18	0.1	0.26	75.0	0.1	0.1	14.4	17	0.15	0.03	1.63	1.25	0.07	0.01	0.05	0.02	0.03	6.04	0.03	0.11	n.d.
19	0.6	0.31	73.7	0.1	0.1	14.2	20	0.22	0.03	2.07	1.80	0.09	0.01	0.05	0.02	0.03	6.04	0.05	0.13	n.d.
20	1.3	0.07	34.70.8	0.1	0.1	17.1	16	0.28	0.03	1.79	2.39	0.09	0.01	0.04	0.02	0.03	0.06	0.05	0.14	n.d.
21	1.6	0.6	24.76.6	0.1	0.1	13.4	12	0.16	0.03	2.08	1.27	0.09	0.02	0.06	0.02	0.03	6.04	0.03	0.16	n.d.
22	1.7	0.2	22.72.9	0.0	0.1	15.2	19	0.18	0.03	1.67	1.81	0.06	0.01	0.04	0.02	0.05	0.05	0.13	n.d.	
23	1.5	0.6	21.72.1	0.1	0.1	17.6	16	0.26	0.03	1.81	1.39	0.07	0.01	0.05	0.02	0.03	6.04	0.05	0.12	n.d.
24	1.2	0.07	44.75.2	0.0	0.1	14.7	0.4	0.16	0.03	0.02	0.04	0.01	0.01	1.47	0.03	0.40	0.09	0.02	0.15	0.16
25	1.3	0.7	40.74.6	0.0	0.1	15.8	0.5	0.18	0.03	0.02	0.70	0.10	0.01	2.78	0.03	0.77	0.08	0.03	0.15	0.34
26	1.3	0.7	29.74.2	0.1	0.1	14.3	19	0.21	0.03	2.16	1.76	0.09	0.02	0.05	0.02	0.03	6.03	0.09	0.12	n.d.
27	2.3	0.8	30.73.8	0.1	0.1	14.0	19	0.19	0.03	1.82	1.62	0.08	0.02	0.05	0.02	0.04	6.04	0.04	0.14	n.d.
28	1.0	0.7	4.375.1	0.0	0.3	13.9	0.6	0.17	0.03	0.03	0.62	0.02	0.01	2.40	0.04	0.49	0.09	0.03	0.18	0.25

\* スタンダードレスのFP法により算出した重量濃度(wt%)

第7表 ガラス小玉の蛍光X線分析結果

### [参考文献]

- Oga, K., Tamura, T. 2013. Ancient Japan and the Indian Ocean Interaction Sphere: Chemical Compositions, Chronologies, Provenances and Trade Routes of Imported Glass Beads in Yayoi-Kofun Period (3<sup>rd</sup> Century BCE-7<sup>th</sup> Century CE). *Journal of Indian Ocean Archaeology*, 9.

## VII まとめ

### 1 はじめに

今回の調査では約900m<sup>2</sup>という狭小の調査区の中で、おもに弥生時代後期から古墳時代前期にかけての様々な遺構・遺物を確認できた。堅穴住居など居住に関係する遺構は確認できず、方形周溝墓、円形周溝墓、円形周溝状遺構が確認できたことから、調査区はおもに墓域として使われた空間とみられる。そのような場所に大型掘立柱建物が存在していることは類例が少ないようである。

また、墓域という性格上、出土遺物は少ないが、北陸系の土器や大型掘立柱建物から信州系の箱清水式土器が出土し、方形周溝墓の主体部である墓壙には勾玉、管玉、ガラス小玉が副葬されていることから、広範な地域と交易を行っていたことをうかがい知れる。

これらのことから、柏崎市の歴史においてだけでなく、新潟県内においても重要な意義深い調査になつたと考えられ、確認できた主な遺構・遺物について若干の考察を行い、遺跡の性格などを検討していく。

### 2 遺構・遺物について

#### 1) 大型掘立柱建物 (SB1)

本遺跡で確認できた大型掘立柱建物であるSB1は第IV章でも述べたように、構成する柱穴の規模が大きく深いことや、柱筋が直線的で計画的に造られていることから、上屋構造も一体的に計画されていたと推測できるにもかかわらず、棟持柱の柱穴と考えたP320とP392は、規模も小さく浅い造りであることから、独立棟持柱を持つ掘立柱建物とは考えにくとの指摘があり、本報告では大型掘立柱建物とした。

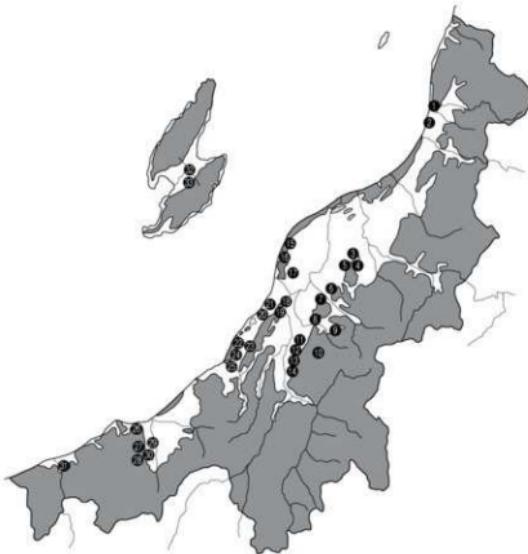
SB1が独立棟持柱を持つ掘立柱建物かそうでないかにかかわらず、梁行1間（約4.6m）、桁行3間（約9m）、床面積が約41.2m<sup>2</sup>は大型の掘立柱建物であり、柱痕から最大で直径約0.4mの柱を使用していたとなると、一般的な柱と比較するとかなり大きく、弥生時代のものとしては新潟県において最大級のものである。

新潟県内で確認されている弥生時代の主要遺跡の掘立柱建物と比較してみると（第8表）。どの掘立柱建物も梁行は1間で、桁行2~3間とほぼ同じであるが、床面積をみてみると本遺跡の大型掘立柱建物が大き

遺跡名	所在地	遺構	梁行×桁行(m)	床面積(m <sup>2</sup> )	柱穴		柱痕(m)
					形態	規模(m)	
古津八幡山遺跡	新潟市	独立棟持柱	1間×3間	4.5×6	27	円形	-
釜蓋遺跡	上越市	独立棟持柱(SB157)	1間×3間	3.84×5.44	20.89	椭円形	0.2
藏王遺跡	佐渡市	側柱建物(SB4)	1間×2間	4.8×6.8	32.68	円形・椭円形	0.32～0.48
		布掘柱穴(SB5)	1間×2間	4.0×4.7	18.75	円形・椭円形	0.34～0.36
		独立棟持柱(SB6)	1間×3間	4.47×7.9	28.36	円形・椭円形	0.32～0.57
西岩野遺跡	柏崎市	掘立柱建物(SB1)	1間×3間	4.6×9	41.2	椭丸長方形	1～1.5

(古津八幡山遺跡は現地説明会資料からのため詳細不明である)

第8表 新潟県内の弥生時代の主要遺跡における掘立柱建物



	遺跡名	所在地	弥生時代				古墳時代				主な遺物	主体土器群	
			中期		後期		終末期		前期				
			標高	低地との 北高	環濠	独立 柱持柱 建物	道標	／	主な遺物				
1 滝ノ原遺跡	村上市	東北	42m	40m					壁穴住居		東北系		
2 山元遺跡	村上市	東北	49m	27m	●				環濠・壁穴住居・土器		東北系		
3 古津八幡山遺跡	新潟市	東北・北高	53m	50m	●	●			環濠・壁穴住居・方形容溝基・土器・柱持柱・前方後圓墳		北陸・東北系		
4 大沢山遺跡	長岡市	北高	71m	60m							北陸系		
5 中寺遺跡	川上町	東北	65m	55m							東北系		
6 二ツ山遺跡	三条市	北高	95m	80m	●	?			環濠・壁穴		北陸系		
7 経塙山遺跡	三条市	北高	72m	67m	●				環濠・壁穴・柱持柱・前方後圓墳		北陸系		
8 大平城遺跡	見附市	北高	100m	70~80m	●				環濠・方形容溝		北陸系		
9 川口遺跡	見附市	東北	55~62m	50m					壁穴住居		北陸系		
10 西船場遺跡	見附市	東北・北高	40~50m	15~20m	●				環濠・壁穴住居		北陸系		
11 佛山遺跡	長岡市	東北	25m	6m	●				環濠・壁穴・刀形溝基		北陸系		
12 麻山遺跡	長岡市	南東・北高	35m	14m	?	?			環濠・壁穴・柱持柱		北陸系		
13 鶴山遺跡	長岡市	南東	85m	45m							東北系		
14 阿田山遺跡	長岡市	東北	100m	65m							東北系		
15 大沢遺跡	新潟市	東北・北高	38m	20m					壁穴住居・方形容溝		北陸系		
16 山谷六墳？層遺跡	新潟市	西北	55m	40m					壁穴住居		北陸系		
17 稲場山古墳？層遺跡	佐渡市	東北	47m	40m					壁穴住居		北陸系		
18 志知遺跡	長岡市		90m	80m	●				環濠・壁穴住居		北陸系		
19 大平遺跡	長岡市		35~40m	20~25m							北陸系		
20 陷入南遺跡	長岡市		35m	20m	●				環濠・壁道？・内形容溝基・铁制・骨制・弦纹		北陸系		
21 奈良崎遺跡	長岡市	東北・南東・北高	35m	22m					環濠・穴住居・削溝基・刀子・曲輪？		北陸系		
22 西谷遺跡	刈羽郡	北高	13~15m	10m	●				環濠・木製器		北陸系		
23 野崎遺跡	朝日市	北高	25~30m	23m	●				環濠		北陸系		
24 西宮遺跡	朝日市	北高	25~30m	20~25m	●	●			環濠・住居・方形容溝基・内形容溝基・内形容溝基・土器		北陸系		
25 田尾山遺跡群八地区	朝日市	北高	20m	10m					環濠		北陸系		
26 岩山遺跡	上越市	北高	92m	75m	●				環濠・壁道・柱持柱・斜槓・梯		北陸系		
27 下舟崎遺跡	上越市	北高	70~78m	30~40m					環濠・土坑・石器穴・板状灰陶片・砂・铁片？		北陸系		
28 爰人寺遺跡	新潟市	北高	62~110m	65m以上	●				環濠・壁道・刀形溝・柱持柱・土器・石器・木製器		北陸系		
29 矢張遺跡	上越市	北高	20m	0m	●	●			環濠・削溝・内形容溝基・柱持柱・土器		北陸系		
30 吹上遺跡	上越市	南東・北高	25m	0m	●				環濠・壁道・内形容溝基・柱持柱・土器・柱持柱・土器・土器・工作工具		北陸系・鉄器器		
31 羽生山遺跡	糸魚川市	北高	42m	30m					壁穴住居		北陸系		
32 平田遺跡	糸魚川市	北高	7m	0m	●				環濠・壁道・柱持柱・土器・板状灰陶片		北陸系		
33 畠上遺跡	糸魚川市		7m	0m	●				環濠・壁道・柱持柱・土器・板状灰陶片		北陸系		

2009年「新潟県教育委員会 資料新潟県歴史文化財調査事業団『山元遺跡』」2013年「新潟市文化部セクタ『弥生の丘遺跡館』(弥生の丘遺跡館がむづっくNo2(弥生時代編)』を参考に作成した。

第19図 新潟県内の高地性集落・環濠集落の遺跡分布図

いことがわかる。また、柱穴の平面形は本遺跡以外では円形もしくは楕円形であり、規模も長軸が最大で約0.57m、平均0.35mである。側柱の規模を確認できているものは直径0.2m前後である。このことから本遺跡の大型掘立柱建物の規模が大きく、新潟県内では最大である。さらに、柱穴の平面形が隅丸長方形で長軸が1mを超えるものや、側柱の直径が0.4mの規模になるものはない。

掘立柱建物の規模の区分は地域により様々であるが、床面積が40m<sup>2</sup>前後以上を大型、100m<sup>2</sup>以上を超大型と捉えられていることが多いため、本遺跡の掘立柱建物は全国的に見ても大型と捉えることができる。

新潟県内の主要な弥生時代の環濠集落で確認できた掘立柱建物と比較しても、本遺跡の大型掘立柱建物(SB1)は新潟県内において特異であることがわかる。

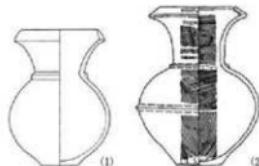
豆谷氏は「大型掘立柱建物は、梁間が一・二間と狭く桁行とは1:2という比率になる平面形が長方形の畿内型である。(中略) 近畿の大型建物として著名なのは、森岡秀人氏によって伊勢型と類型化された「梁行一間、桁行五間前後の規格的長方形プラン」で、全てではないが独立棟持柱や棟通りの中央に一つ柱をもつものが目を引く。その名の通り、滋賀県伊勢遺跡に分布の中心がある。この類型は規格性が強く平面規模も40m<sup>2</sup>前後で柱間距離など寸分違わぬものがある。(中略) また、伊勢型の側柱が直径0.3m程度で、弥生時代中期前葉から後期後葉まで畿内で維持されている。」〔豆谷2012〕とされている。

本遺跡の大型掘立柱建物は、梁行1間(約4.6m)、桁行3間(約9m)で、梁行と桁行の比率が1:2である。柱穴は、長軸約1~1.5m、短軸約1m、深さ約0.7~0.9mと規模が大きく、柱があったと考えられる位置の柱の重みにより硬化した痕跡が直線的に並び、柱間は約3mと一定している。このことから、本遺跡の大型掘立柱建物は規格的であり畿内型といえ、森岡氏の伊勢型に類似していると考えられる。

しかし、その大型掘立柱建物が建てられている場所の性格は、他地域のものと大きく異なる。畿内型は居住域で確認されているものが多いのに対し、本遺跡の掘立柱建物の周辺で住居等は見つかっておらず、墓域とみられる。北部九州では墓域で掘立柱建物を確認できるものが多く、掘立柱建物の掘方の特徴や墓の近くに建てられていることなどから、九州的であるとの見方もある。ただし、九州の大型建物は、梁行が多間で、梁行と桁行の比率が1:1.3の正方形に近いプランになることが多い。しかし、北部九州の吉武高木遺跡、久保園遺跡、柚子比村遺跡、雀居遺跡、比恵遺跡などと立地条件は類似しているようである。

設楽氏は、「北部九州は弥生時代中期初頭から宗廟的性格を持つ大型建物が墓域に伴う。中期後半になると、楽浪郡を通じた漢文化の影響により、大型建物は王権形成に不可欠な祖靈祭祀の役割を強めた。福岡県平原遺跡1号墓は、墓坑上に祖靈祭祀のための独立棟持柱建物がある。建物は本州四国型であるので、近畿地方から導入されたと考えられる。したがって、近畿地方の独立棟持柱建物には、祖靈祭祀の施設としての役割があったとみなせる。北部九州では祭りの対象は特定の個人ではなく集団である。墓群全体を祭るには、墓域の傍らに祠堂を建てる必要があった。」〔設楽2009〕としている。また、金関氏は「軸線上に墓や大型建物、祭祀施設が配置されるのも漢文化の影響といってよい。」〔金関2001〕とし、七田氏は「北部九州では特定墳墓群と大型建物、あるいは祭祀施設が一体となっている場合があり、大型建物が祭祀(祖靈祭祀)に深いかかわりをもっていた。」〔七田2003〕としている。

これらの見解を参考にして本遺跡の大型掘立柱建物を考えてみる。大型掘立柱建物の北側に時期差はあまりが見られないと考える方形周溝墓が存在し、SZ3の墓壙であ



(1)は1988「柏崎市史資料集考古篇」、(2)は1987「比恵遺跡」から転載

第20図 開運橋遺跡(1)と下大隈式土器(2)

るSK96の主軸の延長に大型掘立柱建物が位置していることから、本遺跡の大型掘立柱建物は墓域に建てられている。墓域に建てられた大型掘立柱建物であることから、設楽氏や七田氏が言わわれているような九州的と見方ができるのではないだろうか。また、本遺跡から南西に約1.5kmの場所に開運橋遺跡があり、弥生時代後期の北部九州の下大隈式土器に類似した土器が出土している。この土器は北部九州以外ではあまり出土しないといわれていることからも、日本海を通じて交流があったと考えられる。さらに、大型掘立柱建物を構成する柱穴をみてみると、池上曾根遺跡（大阪府）、伊勢遺跡（滋賀県）、一色青海遺跡（愛知県）、汐入遺跡（静岡県）などは平面形が方形ないし長方形であり、遺跡の中心的な大型の掘立柱建物は、九州に限らず柱穴の平面形が方形ないし長方形がみられる。大型の掘立柱建物を建てるには相応の大きさの柱が必要であり、その柱穴となれば柱を落とし込むために、大きくなり方形ないし長方形となったと考えられるが、九州に方形や長方形が比較的に多い。のことから、九州の影響を受け大型掘立柱建物を墓域に建てたのではないかと考えられる。

大型掘立柱建物（SB1）時期については第V章で述べたが、他の遺構との新旧関係では、円形周溝墓としたSD33がSB1を構成するP210を壙す形で造られていることから、円形周溝墓の方がSB1よりも新しい。また、SB1を構成するP45から箱清水式土器が出土していること、P53から出土した炭化物の放射性炭素年代測定から、弥生時代後期後半に位置付けられる。

これらのことから、大型掘立柱建物は構造的に梁間が一・二間と狭く、桁行とは1:2という比率になる平面形が長方形の畿内型である。さらに、建物の配置に見られる祭祀的な性格や柱穴の掘方の形態的特徴は九州的とみることができる。墓域内で大型掘立柱建物の存在は、祭祀に深いかかりがあり、これだけの規模の建物を建てたのではないかと考えられる。大型掘立柱建物が墓域内に存在し、梁行方向の南に米山が存在していることにも関係してくるのであろうか。しかしながら、平野部から見上げた時に壮大な大型掘立柱建物であったことは想像するに難しくなく、靖石川と別山川の合流地点であり、海にも近く交通の要所に大型掘立柱建物が建てられており、弥生時代後期後半に建てられた權威の象徴であったことは確かであろう。梁行方向の南を見渡せば、米山が存在していることからも、祭祀や宗教的儀礼の意味合いもあったのではないかと考えられる。また、九州だけでなく、信州系の箱清水式土器が出土していることは信州との交易があったと考えられることから、広範な地域と交易を行っていたと考えられる。このことからも相応の権力をもっていたことをうかがい知れる。

他地域の事例では、大型掘立柱建物が複数棟併存することも多い。調査区の西側や北側などを調査し1棟か複数棟か、付属施設と言わわれている井戸や区画溝が存在しないかなど、他にも様々なことを考慮して調査し、遺跡全体の様相を検証して解明していかなければいけなく、今後の大きな課題である。

## 2) 周溝墓

方形周溝墓（5基）、円形周溝墓（1基）を確認した。周溝墓は第19図のように分類することができると思われる。しかし、方形では周溝が途切れているパターンがいくつも見られ、他にも存在すると考えられるが、基本的なパターンとして分類されているもの〔土井2013〕を一部編集し分類した。

本遺跡で確認できた方形周溝墓は、A8・A10類、円形周溝墓はC1類である。一番近くで確認されている下谷地遺跡ではA7類であり、古津八幡山遺跡ではA9とB1類である。その他、新潟県内の周溝墓はA1・2・4類であり、本遺跡のようなA8・10類やC1類は検出されていない。

そのため、確認できた溝が浅いため、検出できなかっただけの可能性も否定はできないが、深さが約0.1~0.4mは確認できているため、A8・10類と考える。

個々の周溝墓の時期については、SK96とSK454以外は遺物が出土していないため、変遷をつかむことは難しい。新潟県では弥生時代中期以降に有力者の墓として方形周溝墓が造られはじめ、後期には円形周溝墓や方形台状墓も出現する。本遺跡から出土した土器の主体は2期の範疇と考えられること、SZ4の墓壙と考えられるSK454から出土した付加状口縁甕の口縁部が2期と考えられることから、方形周溝墓は弥生時代後期後半と考えられる。

第IV章で述べたように円形周溝墓の方が新しく、大型掘立柱建物が古いことが判明している。また、円形周溝墓は

大型掘立柱建物の南、方形周溝墓はすべて北に位置し、円形周溝墓のSD33の覆土から出土した土器片の器面や胎土等が、他から出土した弥生土器と同様であることから弥生時代後期後半のものと考えられる。このことから、大型掘立柱建物と方形周溝墓に時期差はあまり見られず、円形周溝墓が新しいと考えられ、方形から円形、そして後述するが円形周溝状遺構（円墳）へという流れが見られると考える。

柏崎平野で周溝墓が確認されているのは下谷地遺跡だけである。新潟県内で弥生時代の周溝墓の分布を見ると、古墳時代前期から中期の墳墓の分布域が類似している。今までにないタイプのA8、A10類の方形周溝墓が発見され、県内最大級の大型掘立柱建物が存在していることから、柏崎平野は特異な地域であったと考えられる。

大型掘立柱建物の梁行方向の南側に米山が存在しているが、SK96の軸方向も同様である。大型掘立柱建物の配置や造墓に関して同様の概念があったと考えられる。大型掘立柱建物が崇拝的な祭祀の場であり、それに応じてSZ3が造墓されたのではないかとも考えられる。また、新潟県内では主体部である墓壙から出土遺物が確認されている周溝墓は少なく、勾玉・管玉・ガラス小玉が出土したことからもSK96は首長やそれに準ずる人の墓であったと考えられる。

特にガラス小玉は当該期の新潟県では11例目であり、遺構から複数個がまとまって出土している例は少なく、山元遺跡、裏山遺跡について3例目である。ガラスの原料は日本ではなく、起源は西アジアにあり、中央アジアを経て中国に至るシルクロードに加え、西洋と東洋の海上交易路、インド東南アジアを経て中国に至るいわゆる海のシルクロードにより、朝鮮半島、日本といった東アジア地域へもたらされたと考えられている。日本をはじめとする東アジアのガラス生産は、一からガラスを造るのではなく、ガラスの原料塊を輸入して再度溶かしていることも少なくない。日本国内でガラスの製造が始まったのは7世紀後半頃と考えられており、その頃は主に鉛ガラスを用いた玉類が主に生産されていたと考えられている。これらのことから考えても、弥生時代後期の段階でこの地域に13点ものガラス小玉が出土したことは稀有であり、首長などの有力者やそれに準じる人の持ち物であったと推測する。

弥生時代のガラスは北九州と丹後地方で非常に多くの集中的な出土が見られる。両地域は同じところか

A類 方形	A1	A2	A3	A4	A5
	A6	A7	A8	A9	A10
B類 前方 後方形	B1	B2	B3	B4	
C類 円形	C1	C2	C3		

第21図 周溝墓形態分類図



第22図 新潟県内における弥生時代中期から終末期の周溝墓一覧と分布

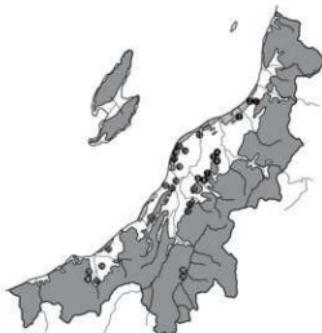
遺跡名	所在地	数 量	時 期	分 類
1 正立古墳群	新潟市	1 方形周溝墓(1)	弥生時代後中期	A1
2 内津八幡山遺跡	新潟市	4 方形周溝墓(3), 扇形後方斜面周溝墓(1)	弥生時代後中期～終末期	A,B,I
3 内野古墳群	三条市	1 方形周溝墓(1)	弥生時代後中期	A7
4 藤ヶ丘古墳群	長岡市	1 方形周溝墓(1)	弥生時代後中期	B2
5 横山古墳	長岡市	1 方形周溝墓(1)	弥生時代後中期	A1
6 砥立古墳群	新潟市	1 円形周溝墓(1)	弥生時代後中期	C1
7 大沢古墳群	新潟市	1 方形周溝墓(1)	弥生時代後中期	A7
8 五十石古墳	燕市・長岡市	1 方形周溝墓(1)	弥生時代後中期	A7
9 金森古墳群	長岡市	3 方形周溝墓(2), 円形周溝墓(1)	弥生時代後中期～終末期	A,B,C2
10 堀入山古墳群	長岡市	1 円形周溝墓(1)	弥生時代後中期	C1
11 下谷田古墳群	柏崎市	4 方形周溝墓(4)	弥生時代中期	A7
12 西宮古墳群	柏崎市	6 方形周溝墓(5), 円形周溝墓(1)	弥生時代後中期	A,B,A10,C1
13 津守田古墳群	上越市	1 方形周溝墓(1)	弥生時代後中期	A7
14 安子塚古墳群	上越市	3 方形周溝墓(2), 円形周溝墓(1)	弥生時代後中期～終末期	A1,A2,C1
15 下新井古墳群	上越市	1 方形周溝墓(1)	弥生時代後中期～終末期	A2
16 今泉古墳群	上越市	10 方形周溝墓(10)	弥生時代後中期～終末期	A1,A2
17 鳴上古墳群	上越市	5 方形周溝墓(5)	弥生時代中期～後期	A2,A3,A4,A6,A7



第23図 新潟県内における弥生時代のガラス小玉出土遺跡の分布

遺跡名	所在地	出土状況	点数	備考
1 山元遺跡	村上市	SKL	72点	
2 宮の池古墳	村上市		1点	
3 古津八幡山遺跡	新潟市		2点	
4 大沢古墳	新潟市	盤六建物	1点	
5 横山古墳	長岡市	表記	1点	
6 早瀬古墳	長岡市	表記	2点	
7 大武古墳	長岡市	盆食器	1点	ガラス駆矢 1点を含む
8 西宮古墳群	柏崎市	SK96	13点	
9 鶴山古墳	上越市	盤六建物	6点	
10 鳴上古墳	上越市		1点	
11 鳴尾古墳	佐渡市		1点	古墳時代の可能性

2009年新潟県教育委員会「新潟県埋蔵文化財調査事業団『山元遺跡』」を参考に作成。



第24図 新潟県内における古墳時代前期から中期の墳墓の分布

遺跡名	所在地
1 鶴水古墳古墳	柏原市
2 城の池古墳	柏原市
3 二本松東山古墳群	栗原市
4 古津八幡山古墳	新潟市
5 内屋古墳	新潟市
6 工ノ谷古墳 1号墳	田上町
7 福島古墳群	加茂市
8 石ノ池古墳群	加茂市・三条市
9 保内二工山古墳群	三条市
10 山崎古墳群	見附市
11 弥生古瀬古墳群	長岡市
12 七ツ山古墳群	長岡市
13 堀立八幡古墳古墳	新潟市
14 萩蒲古墳古墳	新潟市
15 半人古墳	新潟市
16 山谷古墳	新潟市
17 綾峰山古墳	新潟市
18 蛭ヶ尾古墳群	柏崎市
19 大久保古墳群	柏崎市
20 舌舌山古墳群	柏崎市
21 小下谷古墳群	長岡市
22 吉舟石原古墳群	柏崎市
23 丸山古墳	上越市
24 子安古墳 8号周溝墓	上越市
25 黒田山墳群	上越市
26 綾足平古墳群	上越市
27 大澤堂古墳群	妙高市
28 鶴子山古墳群	南魚沼市
29 板側山古墳	南魚沼市

らガラスを入手していたわけではなく独自に入手しており、それぞれの分布圏、流通経路を持っていたと考えられる。本遺跡の周辺地域においてガラス玉が比較的に多く出土する地域は長野県であり、特に北信地域、長野県北部である。また、北陸地方を見ると、若狭周辺ではガラス玉が大量に出土することは少なく、福井県、石川県、富山県ではガラス玉が見られる。このことから北陸ルートもしくは信州ルートから搬入されたものと考えられる。

以上のことから、SZ3は首長系譜の墓であることは間違いない。また、周溝墓とガラス小玉、墳墓の分布は類似しており、中核的な拠点的集落が存在しているところ、もしくは拠点的集落の近くに存在した墓域で見つかっている。このことからも、本遺跡周辺に中核的な拠点的集落が存在し、その首長系譜の墓であったと考える。

### 3) 円形周溝状遺構

規模や溝の形態などから、この円形周溝状遺構の内側には盛土が存在していたと想定でき、円墳である可能性が高いと考える。砂丘の堆積や地滑り等により旧地形をうかがい知ることは難しいが、丘陵の先端、浅い谷頭に位置していたとみられる。大型掘立柱建物でも述べたが、この場所は鯖石川と別山川の合流地点であり、海にも近く交通の要所である重要な場所である。ここに円墳が造られており、平野部から見上げた時に権力の象徴として見えていたであろう。

周溝墓とガラス小玉、墳墓の分布はよく似ていることから、盛土が存在し円墳であった可能性は高く、弥生時代後期以降、交通の要所ともいえるこの位置を治めていた首長系譜の墓であったと推察する。しかし、直径が約12mの円墳となると、古墳時代前期から中期にかけての県内の墳墓の中では、かなり小さい部類になる。弥生時代後期後半の方形周溝墓や大型掘立柱建物などの存在を考えれば、県内最大級の墳墓が存在しても良いと考える。柏崎平野で確認されている墳墓は、同時期とみられる吉井行塚1号墳と吉井行塚2号墳である。1号墳は全長約32mの前方後円墳、2号墳は前方後円墳の可能性もあるが、約18mの円墳とされている。そのため、今回の調査で確認した円形周溝状遺構（円墳）の他にも墳墓が存在し、さらに規模が大きな墳墓が存在している可能性があると考える。しかし、荒浜砂丘砂層Ⅱの堆積により、その存在そのものが隠れてしまっているのではないかと推察する。大型掘立柱建物や方形周溝墓、ガラス小玉が出土したことから、吉井行塚古墳と同規模かそれ以上の墳墓が存在している可能性があると考える。

遺構の時期については、覆土から有段口縁壺、壺の口縁部と底部、付加状口縁や有段口縁などの壺の口縁部、器台の器受部と脚柱部、石錘が出土した。その中で、SD229の底部で土橋から落ちて潰れたような状態の二重口縁壺（30）が出土した。その二重口縁壺は、口縁部の内側の段が不明瞭なことから8~9期に相当するとみられ、古墳時代前期に位置づける。

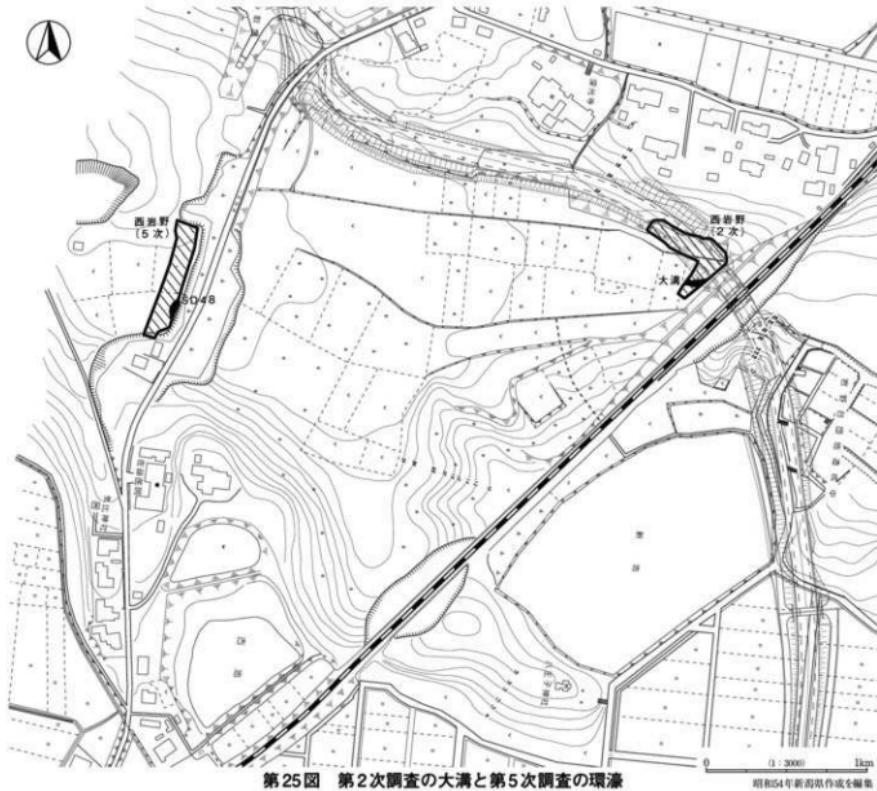
### 4) 溝

SD48とした溝は、規模や形状から環濠と考えた。平面形態では東側を開むように弧を描いているが、西側の傾斜よりも東側の傾斜が緩やかである。そのため、環濠を防御施設として考えると西側が環濠の内側ではないかと考えられる。しかし、環濠で開いたすぐ外側に墓域が存在するとみるよりは、墓域を開む区画溝の意味合いがあることも考えられる。また、溝の断面形は、一般的な環濠のV字ではなく台形状である。新潟県内の環濠をみると、低地では断面が台形状で、高地ではV字となる傾向がみられる。これらのことからも、本遺跡は高地に立地するが溝の断面は台形状であることから、防御性よりは区画的な意味合いの方が高いと考える。墓域を溝で区画を行い、神聖な空間を造り出していたのではないかと推察する。

溝の時期については、4層から複合口縁壺の口縁部が出土し、2層では有段口縁広口長頸壺、広口長頸壺の口頭部、二重口縁壺の口頭部、受口状口縁甕の口縁部、甕の底部が出土した。出土遺物は2期の範疇に相当すると考えられる。そのため、環濠は2期の弥生時代後期後半には造営され機能し、3期には埋没しつつあったと考える。

ここまで溝について述べてきたが、この環濠の続きがどこで確認されるのか気になるところである。昭和61年に行った第2次調査で同時期とみられる大溝が東に約300mの丘陵先端で確認された。今回の調査で確認した環濠は南北方向を向いており、第2次調査の大溝は東西方向である。断面形状も異なるため、別の溝と考える。また、第23図のように平地が東に広がっていることから、集落本体は東に展開するものと考えるのが自然であろうことから、第2次調査で検出した大溝は集落域を囲っている環濠、SD48は墓域を区画していた溝ではないかと考える。

しかし、砂丘を除去すると地形は現在と全く異なる可能性があり、東は傾斜がきつく、集落は北西方向に展開する可能性もあることは示しておく。また、環濠の行方によっては、ここで述べたことと異なる可能性もあるが、調査結果を踏まえて述べた。今後の調査によって環濠の行方や集落域、墓域が判明し、遺跡の全容が解明されていくことを期待する。



第25図 第2次調査の大溝と第5次調査の環濠

(昭和61年新潟県作成を基準)

### 3まとめ

西岩野遺跡の東約4kmに同時期のものと考えられる吉井行塚古墳群が存在するが、その途中の約3kmに下谷地遺跡が存在し、吉井行塚古墳群から北に約2kmに西谷遺跡が存在している。吉井行塚古墳群の造母集団の集落域が吉井遺跡群と考えられる。吉井遺跡群は、弥生時代後期から古墳時代にかけての遺跡群であるが、個々の遺跡は短期間のものが多い反面、少しづつ時期がずれているという特徴がある、一つの集団が一定の地域内を移動しながらムラを営んだと考えられている。そのため、吉井遺跡群では弥生時代後期の遺跡は確認されていないが、周辺に存在すると考えられる。また、西谷遺跡では、弥生時代中期から古墳時代前期の遺物が出土しており、長期間継続した遺跡とされている〔刈羽村教育委員会2017〕。同時期の集落が西岩野遺跡、吉井遺跡群、西谷遺跡に存在したと考えられること、継続して集落を営んでいる集団が同時期の古墳時代前期に吉井行塚古墳群と西岩野遺跡と2か所に増募するとは考えにくいことなど



国立国会図書館デジタルアーカイブより転載

第26図 弥生時代中・後期の主要遺跡と吉井行塚古墳群（正保二年越後絵図）



第27図 弥生時代中・後期の主要遺跡と吉井行塚古墳群（明治44年柏崎市地図）

から、西岩野遺跡、吉井遺跡群、西谷遺跡は別集団ではないかと考える。

遺跡の分布域を見てみると、西岩野遺跡が確認されたことにより、西谷遺跡、吉井遺跡群、西岩野遺跡周辺の遺跡とで集落・墓域は別れると考えられる。西岩野遺跡と同時期に存在している集落で、野崎遺跡、西谷遺跡、吉井遺跡群は別山川左岸域にあり、山裾微高地を南下もしくは北上して集落を形成していたと考えられる。吉井遺跡群は位置的に曾地岬の麓にあり、現在の長岡方面へ抜ける道の要所を抑えていたと考へられる。西岩野遺跡は弥生時代以降に遺跡が出現する別山川と鯖石川の合流地点、さらに海からも見える位置であり、交易の要所を治めていたと考えられる。第24図は正保二（1647）年と第25図は明治44年の周辺地形図である。調査区東側の一般県道黒部柏崎線は、近世以降に北国街道として使用されていたことがわかる。明治44年の地図ではこの街道周辺の地形の変更が少なく、その地形から見ても、大型掘立柱建物や円形周溝状遺構は丘陵の先端に位置し、平野部からや鯖石川、別山川から見上げた時に、権力の象徴として壮大な大型掘立柱建物（SB1）や墳墓（SZ1）が見えていたと考えられる。勾玉、管玉、ガラス小玉が出土したこと、新潟県内で最大級の大型掘立柱建物が確認されたことからも西谷遺跡や吉井遺跡群よりも中核的な役割を果たし、大きな権力を持っていった別系譜の集団が存在していたと考えられ、今回の調査区はその集団の墓域ではないかと推察する。

ここまで、西岩野遺跡と周辺の遺跡から性格を考察し述べたが、地理的な分布域や時期的なものから考察したにすぎず、各遺跡の出土遺物の傾向などは考慮していない。西岩野遺跡で確認できたのは集落ではなく、墓域であるからである。墓域という神聖な空間から出土した遺物と普段生活を営む居住域である集落の遺物では、その用途が異なることから比較検討することは難しい。また、今回の調査では出土遺物の量は少なく破片資料ばかりであり、墓域のみの狭い範囲での調査であったため今回は考慮しなかった。

これらのことから、弥生時代中期から後期に吉井遺跡群、西谷遺跡、野崎遺跡とは別の大きな権力を持った集団が西岩野遺跡に存在していたものと推測する。しかし、西岩野遺跡の集落域は確認されておらず、集団がどこに存在し、どのような性格であるかを見極めたうえで、今回確認された墓域も含めて遺跡全体の様相を検討していく必要があり、今後の課題である。また、出土遺物が少なく、ほとんどが破片のため詳細な時期を把握することは困難で、各遺構の変遷などをつかむことができなかつたが、調査結果を踏まえて大型掘立柱建物、方形周溝墓、円形周溝墓、環濠は弥生時代後期後半の2期、円形周溝状遺構は古墳時代前期の8~9期とした。

今後、さらに周辺の調査が進み、遺跡の全容が解明されていくことを期待したい。

## 要 約

- 1 西岩野遺跡は、新潟県柏崎市大字山本、土合、長崎地内に所在する。
- 2 西岩野遺跡は、柏崎平野の北西部で鯖石川と別山川の合流地点から北へ約600mに位置し、荒浜砂丘から東側の沖積地に向かって舌状に細長く突き出た中位段丘上に立地している。
- 3 一般県道黒部柏崎線道路改良工事（山本拡幅）に伴い、平成29年に発掘調査を実施した。調査面積は約900m<sup>2</sup>である。
- 4 調査の結果、弥生時代後期後半から古墳時代前期の遺構・遺物を検出した。主な遺構は、大型掘立柱建物、方形周溝墓、円形周溝墓、土壙墓、円形周溝状遺構（円墳）、溝（環濠）である。
- 5 大型掘立柱建物（SB1）は梁行1間（約4.6m）、桁行3間（約9m）、床面積は約41.2m<sup>2</sup>であり、弥生時代のものとしては新潟県内で最大のものである。
- 6 大型掘立柱建物（SB1）は弥生時代のものとして新潟県内で初めて確認されたもので、日本海側で最北に位置する。
- 7 大型掘立柱建物（SB1）を構成するP52から、信州系の土器である箱清水式土器が出土した。
- 8 大型掘立柱建物（SB1）を構成するP53から出土した炭化物の放射性炭素年代測定（AMS）を実施したところ、暦年較正年代（1σ）は139～216cal ADの範囲で示され、弥生時代後期頃に相当することが判明した。
- 9 方形周溝墓（SZ3）から勾玉（3点）、管玉（10点）、ガラス小玉（13点）が出土した。石材は、勾玉は2点が翡翠で1点は軟玉、管玉はすべて緑色凝灰岩、ガラス小玉はカリガラスである。

## 《引用・参考文献》

- 新井市教育委員会 2005『斐太遺跡矢代山B地区・觀音平1号墳・觀音平4号墳・墳丘墓群』
- 柏崎市 1987『考古資料』柏崎市史資料集考古篇1
- 柏崎市 1990『柏崎市史』上巻
- 柏崎市教育委員会 1980『岩野遺跡』柏崎市埋蔵文化財調査報告書第2
- 柏崎市教育委員会 1985『吉井遺跡群』柏崎市埋蔵文化財調査報告書第4
- 柏崎市教育委員会 1987『西岩野』柏崎市埋蔵文化財調査報告書第7
- 柏崎市教育委員会 1987『帝国石油新長岡ライン埋蔵文化財発掘調査報告書』  
（試掘確認調査報告書・吉井水上I遺跡・戸口遺跡）柏崎市埋蔵文化財調査報告書第8集
- 柏崎市教育委員会 1987『吉井水上I遺跡・戸口遺跡』柏崎市埋蔵文化財調査報告書第8
- 柏崎市教育委員会 1990『千古塚』柏崎市埋蔵文化財調査報告書第11集
- 柏崎市教育委員会 1990『吉井遺跡群II』柏崎市埋蔵文化財調査報告書第13
- 柏崎市教育委員会 1996『田塚山遺跡群』柏崎市埋蔵文化財調査報告書第21集
- 柏崎市教育委員会 1998『柏崎市の遺跡Ⅶ』柏崎市埋蔵文化財調査報告書第29集
- 柏崎市教育委員会 1999『角田』柏崎市埋蔵文化財調査報告書第32集
- 柏崎市教育委員会 2008『坂田遺跡群II』柏崎市埋蔵文化財調査報告書第53集
- 柏崎市教育委員会 2010『遺跡が語る西山の歴史』柏崎の遺跡シリーズ第2集
- 柏崎市教育委員会 2016『丘江』柏崎市埋蔵文化財調査報告書第81集
- 柏崎市教育委員会 2016『柏崎市の遺跡25』柏崎市埋蔵文化財調査報告書第83集
- 柏崎市教育委員会 2017『中田下川原』柏崎市埋蔵文化財調査報告書第88集
- 柏崎市教育委員会 2017『角田3』柏崎市埋蔵文化財調査報告書第90集
- 柏崎市教育委員会 2017『柏崎市の遺跡27』柏崎市埋蔵文化財調査報告書第92集
- 刈羽村教育委員会 1992『西谷遺跡』刈羽村埋蔵文化財調査報告書第1集
- 刈羽村教育委員会 2017『西谷遺跡II』刈羽村埋蔵文化財調査報告書第5集
- 黒崎町教育委員会 1983『緒立遺跡発掘調査報告書』
- 黒崎町教育委員会 1994『緒立C遺跡発掘調査報告書』
- （公財）愛知県教育・スポーツ振興財團愛知県埋蔵文化財センター 2008『一色青海遺跡II』  
愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第147集
- （公財）愛知県教育・スポーツ振興財團愛知県埋蔵文化財センター 2014『一色青海遺跡III』  
愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第186集
- 小松市教育委員会 2003『八日市地方遺跡I第2分冊（遺物報告編）』
- 小松市教育委員会 2013『八日市地方遺跡II第1部構造編第2部石器編』
- 小松市教育委員会 2014『八日市地方遺跡II第3部製玉編第4部木器編』
- 小松市教育委員会 2016『八日市地方遺跡II第5部土器・土製品編第6部自然科学分析編第7部補遺編』
- （財）愛知県埋蔵文化財センター 1998『一色青海遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第79集
- （財）富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所 2006『下老子篠川遺跡発掘調査報告』  
富山県文化振興財團埋蔵文化財発掘調査報告第31集
- 佐賀県教育委員会 2003『袖北遺跡群3第3分冊袖北本村遺跡（1・2区）』  
鳥栖北部丘陵新都市関係文化財調査報告書4佐賀県文化財調査報告書第155集
- 佐渡市教育委員会 2017『城王遺跡・小谷地遺跡・平田遺跡』県営は場整備事業関係発掘調査報告書
- 三条市教育委員会 1999『内野手遺跡・経塚山遺跡』三条市文化財報告書第10号
- 上越市教育委員会 1999『上千原地区は場整備関連発掘調査報告書津倉田遺跡』
- 上越市教育委員会 2010『今泉釜蓋遺跡』
- 上越市教育委員会 2006『吹上遺跡』
- 上越市教育委員会 2007『吹上遺跡範囲確認調査報告書』
- 上越市教育委員会 2008『釜蓋遺跡確認調査報告書』
- 上越市史編さん委員会 2003『上越市史』考古資料編2
- 燕市教育委員会 2007『五千石遺跡2区』燕市埋蔵文化財発掘調査報告書第2集
- 燕市教育委員会 2010『五千石遺跡2区・4区西地区』
- 寺泊町教育委員会 2004『新潟県寺泊町屋鋪塚遺跡発掘調査報告書』
- 長岡市 1992『長岡市史』考古資料編1
- 長岡市教育委員会 1979『北陸自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書下谷内遺跡』
- 長岡市教育委員会 1999『藤ヶ森遺跡』

西山町教育委員会 1983 「高塙B遺跡発掘調査報告書」西山町文化財調査報告書第1集  
西山町教育委員会 1994 「野崎遺跡発掘調査報告書」西山町文化財調査報告書第4集  
新潟県教育委員会 1979 「下谷地遺跡」新潟県埋蔵文化財調査報告書第19  
新潟県教育委員会 1983 「内越遺跡」新潟県埋蔵文化財調査報告書第33  
新潟県教育委員会 1986 「上越市春日・本田地区発掘調査報告書II一之口遺跡西地区」

新潟県埋蔵文化財調査報告書第40集

新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財事業団 2000 「裏山遺跡」新潟県埋蔵文化財調査報告書第96集  
新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財事業団 2000 「平田遺跡」新潟県埋蔵文化財調査報告書第98集  
新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財事業団 2001 「梯子谷窯跡」新潟県埋蔵文化財調査報告書第104集  
新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財事業団 2002 「奈良崎遺跡」新潟県埋蔵文化財調査報告書第116集  
新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財事業団 2006 「馬見坂遺跡・正尺A遺跡・正尺C遺跡」

新潟県埋蔵文化財調査報告書第165集

新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財事業団 2009 「山元遺跡」新潟県埋蔵文化財調査報告書第199集  
新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財事業団 2010 「西部遺跡II」新潟県埋蔵文化財調査報告書第206集  
新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財事業団 2012 「宮花町遺跡」新潟県埋蔵文化財調査報告書第239集  
新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財事業団 2013 「カヤマチ遺跡」

新潟県埋蔵文化財調査報告書第243集

新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財事業団 2014 「大武遺跡II」新潟県埋蔵文化財調査報告書第249集  
新潟県教育委員会・(公財)新潟県埋蔵文化財事業団 2015 「箕輪遺跡II」

新潟県埋蔵文化財調査報告書第254集

新潟県教育委員会・(公財)新潟県埋蔵文化財事業団 2015 「宝田遺跡」新潟県埋蔵文化財調査報告書第252集  
新潟県教育委員会・(公財)新潟県埋蔵文化財事業団 2015 「宝田遺跡II」

新潟県埋蔵文化財調査報告書第264集

新潟県教育委員会・(公財)新潟県埋蔵文化財事業団 2018 「山崎遺跡II」

新潟県埋蔵文化財調査報告書第265集

新潟市文化財センター 2015 「古津八幡山遺跡歴史の広場」弥生の丘展示館ガイドブックNo.1~No.6

新潟市文化財センター 2018 「平成30年度古津八幡山遺跡発掘調査(第21次)現地説明会資料」

新潟市教育委員会 2014 「史跡 古津八幡山遺跡発掘調査報告書-第15・16・17・18・19次調査-」

新津市教育委員会 1992 「古津八幡山古墳I」1991年測量調査報告

新津市教育委員会 1994 「八幡山遺跡I 造構編」新津市文化財調査報告書

新津市教育委員会 2001 「八幡山遺跡発掘調査報告書」

新津市教育委員会 2004 「八幡山遺跡群発掘調査報告書-第11・12・13・14・次調査-」

福岡市教育委員会 1986 「比恵遺跡第9・10・三次調査報告」福岡市埋蔵文化財調査報告書第145集

福岡市教育委員会 1995 「吉武遺跡群Ⅶ-弥生時代掘立柱建物の調査-」福岡市埋蔵文化財調査報告書第437集

福岡市教育委員会 1995 「雀居遺跡2 福岡空港西側整備に伴う埋蔵文化財調査報告」

福岡市埋蔵文化財調査報告書第406集

福岡市教育委員会 1983 「閑田遺跡群久保園遺跡」福岡市埋蔵文化財調査報告書第91集

福岡市教育委員会 1994 「東入部遺跡群1」福岡市埋蔵文化財調査報告書第381集

福岡市教育委員会 1996 「比恵遺跡(20)-比恵遺跡群第50次調査の概要・第53次調査の報告-」

福岡市埋蔵文化財調査報告書第451集

卷町教育委員会 1993 「越後山谷古墳」

妙高市教育委員会 2006 「矢代山墳丘墓群」

守山市教育委員会 1998 「伊勢遺跡第28次発掘調査概要報告書」守山市文化財調査報告書第68冊

守山市教育委員会 2003 「伊勢遺跡確認調査報告書」

守山市教育委員会 2004 「伊勢遺跡確認調査報告書II」

守山市教育委員会 2005 「伊勢遺跡確認調査報告書III」

守山市教育委員会 2006 「伊勢遺跡確認調査報告書IV」

守山市教育委員会 2007 「伊勢遺跡確認調査報告書V」

守山市教育委員会 2008 「伊勢遺跡確認調査報告書VI」

守山市教育委員会 2009 「伊勢遺跡確認調査報告書VII」

守山市教育委員会 2013 「伊勢遺跡確認調査報告書VIII」

甘粕健 1999 「第3章弥生時代・古墳時代第1節総論」『新潟県の考古学』高志書院

石川日出志 1999 「第3章弥生時代・古墳時代第5節墓制第1項弥生時代の墓と墓地」『新潟県の考古学』

高志書院

- 岩永省三 2010 「弥生時代における首長層の成長と墳丘墓の発達」『九州大学総合研究博物館研究報告』  
九州大学総合研究博物館
- 岡本郁栄 1979 「新潟県荒浜砂丘に分布する人類遺跡その1 - 荒浜小学校裏遺跡・荒浜甲申塚遺跡 - 」  
「柏崎・刈羽」第7号 柏崎・刈羽郷土史研究会
- 金関恕 2001 「弥生時代の集落」学生社
- 金子正典・滝沢規朗・丸山一昭 1999 「第3章弥生時代・古墳時代第2節土器」『新潟県の考古学』高志書院
- 川村浩司 1999 「第3章弥生時代・古墳時代第2節土器第5項古墳時代1研究の現状」『新潟県の考古学』  
高志書院
- 古代歴史文化協議会 2018 「玉・古代を彩る至宝」ハーベスト出版
- 齊木誠 2016 「常陸地域における方形周溝墓の基礎的分析」筑波大学先史学・考古学研究第27号
- 笹沢正史 2005 「頸城地域における弥生時代後期から古墳時代前期の集落動態」  
『新潟県における高地性集落の解体と古墳の出現』第1分冊新潟県考古学会
- 設楽博己 2009 「独立棟持柱建物と祖靈祭祀」国立歴史民俗博物館研究報告第149集
- 前田清彦 1999 「北陸の木棺墓とその展開」『石川県考古学研究会誌(42)』石川県考古学研究会
- 品田高志 1994 「古代三嶋郡と古代時の様相 - 柏崎平野における古代史理解に向けて - 」  
『柏崎市立博物館館報』No.8 柏崎市博物館
- 品田高志 1999 「第3章弥生時代・古墳時代第2節土器第5項古墳時代3柏崎平野の土器編年」  
『新潟県の考古学』高志書院
- 品田高志 2005 「柏崎平野における古墳出現期の様相」『新潟県における高地性集落の解体と古墳の出現』  
第1分冊新潟県考古学会
- 滝沢規朗 1999 「第3章弥生時代・古墳時代第3節集落」『新潟県の考古学』高志書院
- 滝沢規朗 2003 「古墳出現前後における集落の動向・越後の集落を考える上での基礎整理として」『研究紀要』  
(財) 新潟県埋蔵文化財事業団
- 滝沢規朗ほか 2003 「新潟県岩船郡域における弥生時代中期～後期にかけての様相  
- 村上市砂山遺跡・滝ノ前遺跡を中心に - 」『三面川流域の考古学』第2号 奥三面を考える会
- 滝沢規郎 2005 「土器の分類と変遷」『新潟県における高地性集落の解体と古墳の出現』第1分冊  
新潟県考古学会
- 滝沢規郎 2014 「新潟県・富山県の様相(上)」「東生」第3号東日本古墳確立期土器検討会
- 田中靖 1985 「東山丘陵西麓採集の弥生時代及び古墳時代の遺物」『三条考古学研究会機関誌』第3号  
三条考古学研究会
- 千曲川水系古代文化研究所 1982 「箱清水式土器」
- 土井朝平 2013 「東日本における弥生・古墳時代移行期の墓制変遷」
- 新潟県考古学会 1999 「新潟県の考古学」高志書院
- 新潟県考古学会 2005 「新潟県における高地性集落の解体と古墳の出現」第1分冊
- 西田泰民 2013 「日本海ガラスロード」「まいぶんリレー講演会 弥生・古墳時代の新潟県」新潟県教育委員会
- 広井造 1999 「第3章弥生時代・古墳時代第5節墓制第2項古墳の墳丘と立地」『新潟県の考古学』高志書院
- 広瀬和雄・大庭功編 2006 「弥生の大型建物とその展開」サンライズ出版株式会社
- 藤原哲 2011 「弥生社会における環濠集落の成立と展開」『総研大文化科学研究第7号』  
総合研究大学院大学文化科学研究科
- 埋蔵文化財研究会 1991 「弥生時代の掘立柱建物」第29回研究集会実行委員会
- 埋蔵文化財研究会 1999 「弥生時代の集落・中・後期を中心として」第45回埋蔵文化財研究集会実行委員会
- 豆谷和之 2012 「大型建物の性格についての虚実」『月刊考古学ジャーナル』No.631 ニューサイエンス社
- 安英樹 2009 「北陸における弥生時代中期・後期の集落」国立歴史民俗博物館研究報告第149集
- 山下誠一 2002 「飯田盆地における周溝墓再論・集落と墓域の関係を中心として」  
飯田市美術博物館研究紀要12
- 山下優介 2015 「弥生・古墳時代の独立棟持柱建物に関する考察」『筑波大学先史学・考古学研究』第26号



































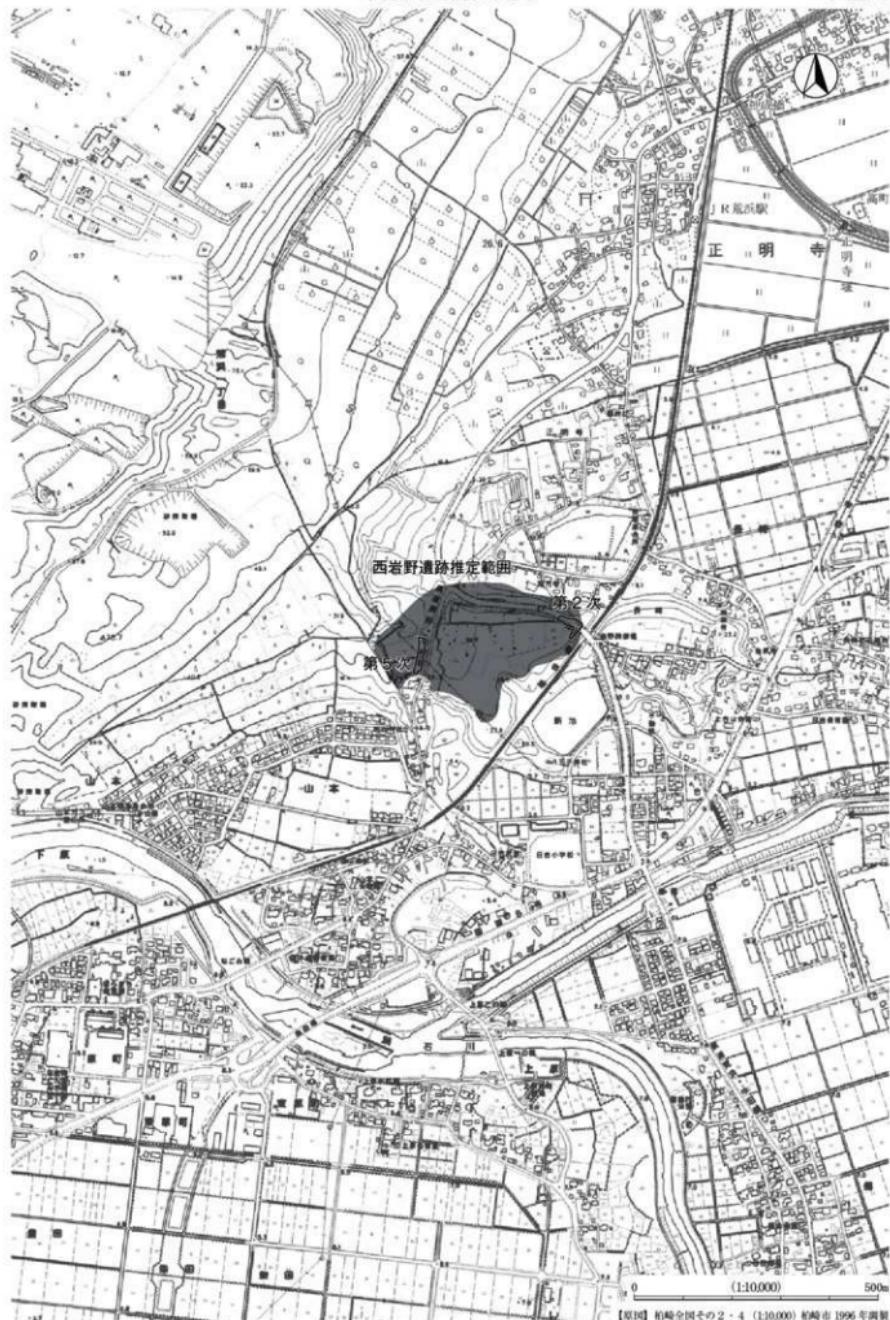






西岩野遺跡位置図

図版 1



図版 2

全体図



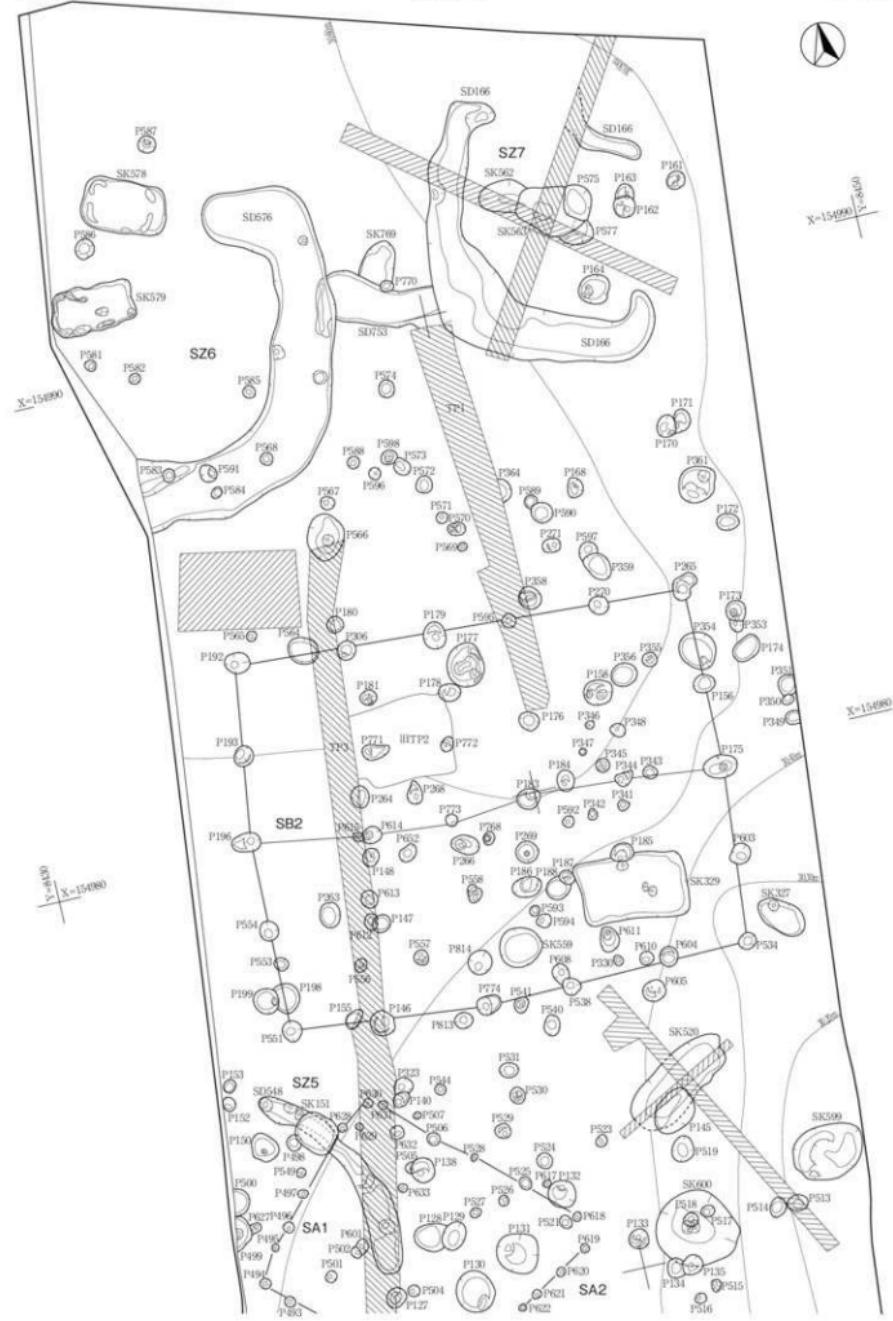
# グリッド設定図

図版 3





X-154990





図版 6

分割図 3

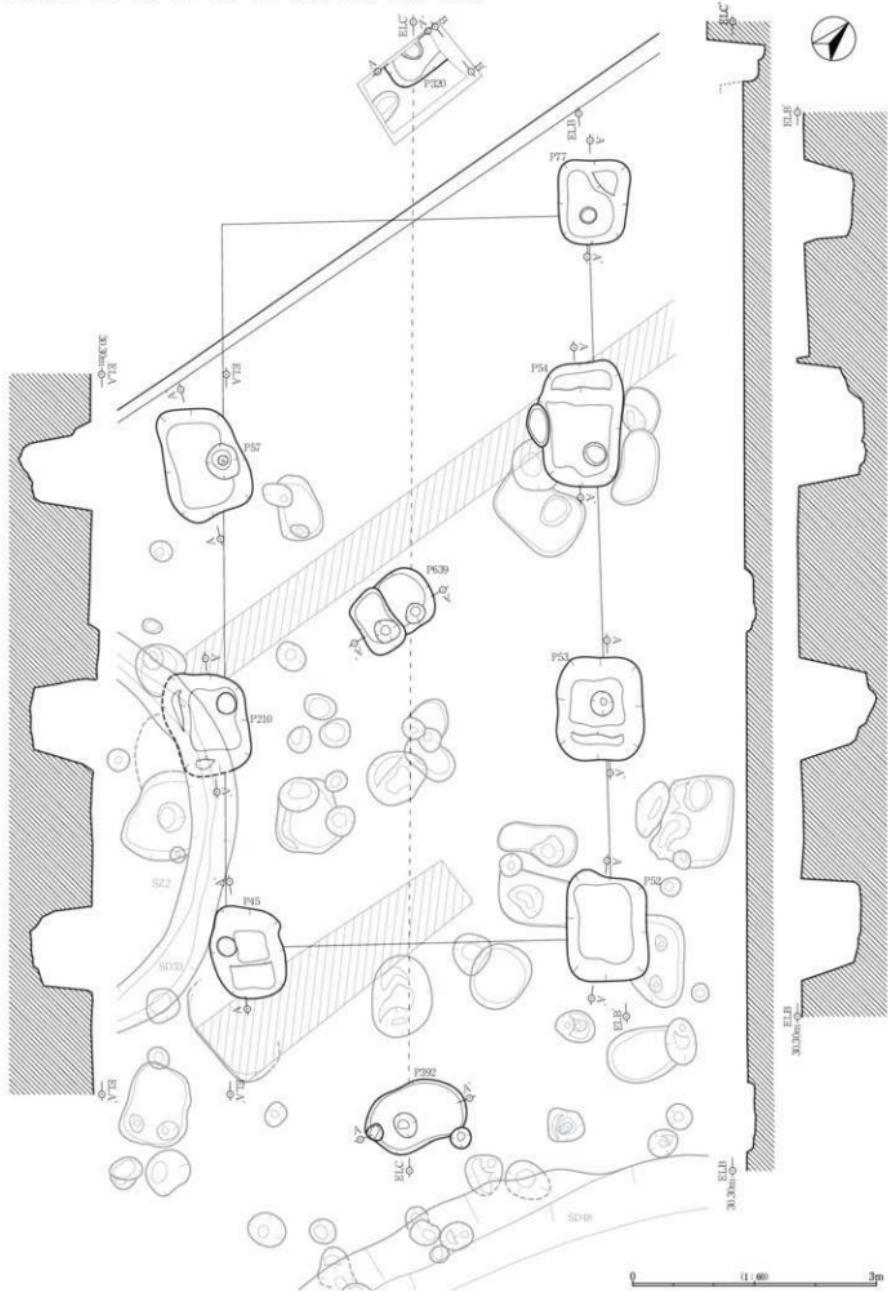


X=154900  
Y=444500  
5m  
(1 : 100)

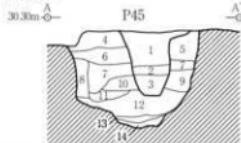
遺構個別図 1

図版 7

SB1 (P45・P52・P53・P54・P57・P77・P210・P320・P392・P639)

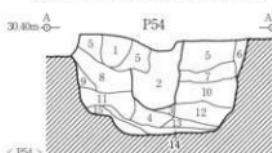


圖版 8



<P6>

- 1 薄暗色・白(75YR4/C) 粒子や小葉・L葉や小葉・  
根葉や葉裏に現れる。葉裏に現れる。葉裏に現れる。  
2 黒褐色・白(70YR3/C) 粒子や小葉・L葉や小葉・  
根葉や葉裏に現れる。葉裏に現れる。葉裏に現れる。  
3 黑褐色・白(70YR2/C) 粒子や小葉・L葉や小葉・  
根葉や葉裏に現れる。葉裏に現れる。葉裏に現れる。  
4 黑褐色・白(75YR4/C) 粒子や小葉・L葉や小葉・  
根葉や葉裏に現れる。葉裏に現れる。葉裏に現れる。  
5 黑褐色・白(75YR4/C) 粒子や小葉・L葉や小葉・  
根葉や葉裏に現れる。葉裏に現れる。葉裏に現れる。  
6 黑褐色・白(70YR2/C) 粒子や小葉・L葉や小葉・  
根葉や葉裏に現れる。葉裏に現れる。葉裏に現れる。  
7 黑褐色・白(70YR4/C) 粒子や小葉・L葉や小葉・  
根葉や葉裏に現れる。葉裏に現れる。葉裏に現れる。  
8 黑褐色・白(70YR4/C) 粒子や小葉・L葉や小葉・  
根葉や葉裏に現れる。葉裏に現れる。葉裏に現れる。  
9 黑褐色・白(75YR2/C) 粒子や小葉・L葉や小葉・  
根葉や葉裏に現れる。葉裏に現れる。葉裏に現れる。  
10 黑褐色・白(75YR2/C) 粒子や小葉・L葉や小葉・  
根葉や葉裏に現れる。葉裏に現れる。葉裏に現れる。  
11 黑褐色・白(75YR2/C) 粒子や小葉・L葉や小葉・  
根葉や葉裏に現れる。葉裏に現れる。葉裏に現れる。  
12 黑褐色・白(75YR4/C) 粒子や小葉・L葉や小葉・  
根葉や葉裏に現れる。葉裏に現れる。葉裏に現れる。  
13 黑褐色・白(75YR4/C) 粒子や小葉・L葉や小葉・  
根葉や葉裏に現れる。葉裏に現れる。葉裏に現れる。  
14 黑褐色・白(75YR4/C) 粒子や小葉・L葉や小葉・  
根葉や葉裏に現れる。葉裏に現れる。葉裏に現れる。  
15 黑褐色・白(75YR4/C) 粒子や小葉・L葉や小葉・  
根葉や葉裏に現れる。葉裏に現れる。葉裏に現れる。



卷之三

- ・ $\phi=10\text{mm}$ の円柱型PLRを用いた場合、塵粒子と塵微粒混合。

2) 電離能色子 ( $\lambda=752\text{nm}$ )：前述のやや高い、少しやや低い。  
V端子を多く含む、塵粒子と塵微粒混合。

3) 黒褐色色子 ( $\lambda=1019\text{nm}$ )：前述のやや高い、少しやや低い。

4) 黑褐色色子 ( $\lambda=1040\text{nm}$ )：前述のやや高い、少しやや低い。  
V端子を多く含む、塵粒子と塵微粒混合。

5) 黑褐色色子 ( $\lambda=1071\text{nm}$ )：前述のやや高い、少しやや低い。

6) 黑褐色色子 ( $\lambda=1075\text{nm}$ )：前述のやや高い、少しやや低い。  
 $\phi=20\text{mm}$ の円柱型PLRを用いた場合、塵粒子と塵微粒混合。

7) 黑褐色色子 ( $\lambda=1075\text{nm}$ )：前述のやや高い、少しやや低い。  
V端子を多く含む、塵粒子と塵微粒混合。

8) 黑褐色色子 ( $\lambda=1075\text{nm}$ )：前述のやや高い、少しやや低い。  
 $\phi=20\text{mm}$ の円柱型PLRを用いた場合、塵粒子と塵微粒混合。

9) 黑褐色色子 ( $\lambda=1075\text{nm}$ )：前述のやや高い、少しやや低い。  
 $\phi=15\text{mm}$ の円柱型PLRを用いた場合、塵粒子と塵微粒混合。

10) 黑褐色色子 ( $\lambda=1075\text{nm}$ )：前述のやや高い、少しやや低い。  
 $\phi=10\text{mm}$ の円柱型PLRを用いた場合、塵粒子と塵微粒混合。

11) 電離能色子 ( $\lambda=752\text{nm}$ )：前述のやや高い、少しやや低い。  
 $\phi=10\text{mm}$ の円柱型PLRを用いた場合、塵粒子と塵微粒混合。

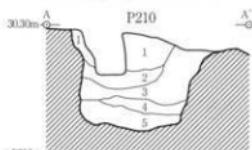
12) 黑褐色色子 ( $\lambda=1019\text{nm}$ )：前述のやや高い、少しやや低い。

13) 黑褐色色子 ( $\lambda=1040\text{nm}$ )：前述のやや高い、少しやや低い。

14) 黑褐色色子 ( $\lambda=1071\text{nm}$ )：前述のやや高い、少しやや低い。

15) 黑褐色色子 ( $\lambda=1075\text{nm}$ )：前述のやや高い、少しやや低い。  
V端子を多く含む、塵粒子と塵微粒混合。

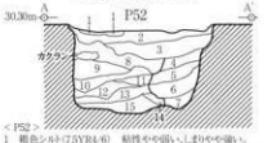
16) 黑褐色色子 ( $\lambda=1075\text{nm}$ )：前述のやや高い、少しやや低い。  
V端子を多く含む、塵粒子と塵微粒混合。



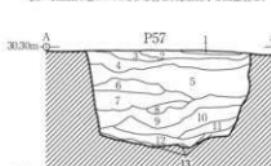
<1210>

- 1 鮎色シルク(10YR7/2)・ワッカモード、鏡面仕上材を微混含。
  - 2 黒鯛色シルク(10YR7/2)・ワッカモード、鏡面仕上材を微混含。
  - 3 鮎色シルク(7.5YR7/4)・ワッカモード、鏡面仕上材を微混含。
  - 4 鮎色シルク(7.5YR7/4)・ワッカモード、鏡面仕上材を微混含。
  - 5 鮎色シルク(10YR7/4)・ワッカモード、鏡面仕上材を微混含。
  - 6 鮎色シルク(10YR7/4)・ワッカモード、鏡面仕上材を微混含。

### 遺構個別図 2



d3~



<157>

- 1 黒褐色・黒〔10YR2/3〕 葉柄や花びら・葉や茎・枝  
- 黒・8mm葉ブリッコを多く含む。棘子・粒子を微混含する。

2 黒褐色・黒〔10YR2/3〕 葉柄や花びら・葉や茎・枝  
- 黒・8mm葉ブリッコを多く含む。棘子・粒子を微混含する。

3 黒褐色・黒〔10YR2/3〕 葉柄や花びら・葉や茎・枝  
- 黒・8mm葉ブリッコを多く含む。棘子・粒子を微混含する。

4 黒褐色・黒〔7.5YR2/4〕 葉柄や花びら・葉や茎・枝  
- 黒・10mm葉ブリッコを多く含む。棘子・粒子を微混含する。

5 黒褐色・黒〔10YR3/4〕 葉柄や花びら・葉や茎・枝  
- 黒・20mm葉ブリッコを多く含む。棘子・粒子を微混含する。

6 黑褐色・黒〔10YR4/4〕 葉柄や花びら・葉や茎・枝  
- 黑・15mm葉ブリッコを含む。棘子・粒子を微混含する。

7 黑褐色・黒〔7.5YR4/6〕 葉柄や花びら・葉や茎・枝  
- 黑・30mm葉ブリッコを多く含む。棘子・粒子を微混含する。

8 黑褐色・黒〔7.5YR4/6〕 葉柄や花びら・葉や茎・枝  
- 黑・10mm葉ブリッコを多く含む。棘子・粒子を微混含する。

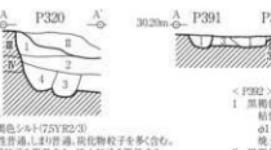
9 黑褐色・黒〔10YR4/6〕 葉柄や花びら・葉や茎・枝  
- 黑・30mm葉ブリッコを含む。棘子・粒子を微混含する。

10 黑褐色・黒〔7.5YR4/6〕 葉柄や花びら・葉や茎・枝  
- 黑・20mm葉ブリッコを多く含む。棘子・粒子を微混含する。

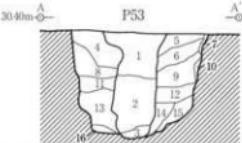
11 黑褐色・黒〔7.5YR4/6〕 葉柄や花びら・葉や茎・枝  
- 黑・30mm葉ブリッコを多く含む。棘子・粒子を微混含する。

12 黑褐色・黒〔10YR4/6〕 葉柄や花びら・葉や茎・枝  
- 黑・10mm葉ブリッコを微混含する。棘子・粒子を微混含する。

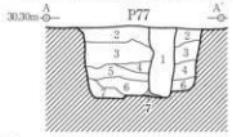
13 黑褐色・黒〔7.5YR4/6〕 葉柄や花びら・葉や茎・枝  
- 黑・10mm葉ブリッコを含む。棘子・粒子を微混含する。



卷之三

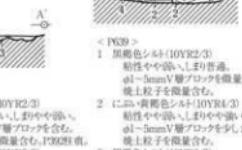


<PS3>



177 >

- 黒褐色系シルク (10YR2/2) 柔軟性や弱い、しなりやく、燒上粒子を微量含む。  
 黒褐色系シルク (10YR2/2) 柔軟性や弱い、しなりやく、  
 燃上粒子を多く含む。  
 燃上粒子を微量含む。  
 黑褐色系 (10YR3/4) 柔軟性や弱い、しなりやく、弱い、  
 0.5~4mmの繊維が多く含む。  
 燃上粒子を微量含む。  
 黑褐色系 (10YR3/4) 柔軟性やや弱い、しなりやや弱い、  
 0.5~8mmの繊維を含む。  
 燃上粒子を微量含む。  
 黑褐色系 (10YR3/4) 柔軟性やや弱い、しなりやや弱い、  
 0.5~10mmの繊維が多く含む。  
 燃上粒子を微量含む。  
 黑褐色系シルク (10YR3/4) 柔軟性やや弱い、しなりやや弱い、  
 燃上粒子を多く含む。  
 燃上粒子を微量含む。  
 黑褐色系 (10YR3/4) 柔軟性強い、しなり強い。  
 燃上粒子を多く含む。  
 燃上粒子を微量含む。



ROY R32

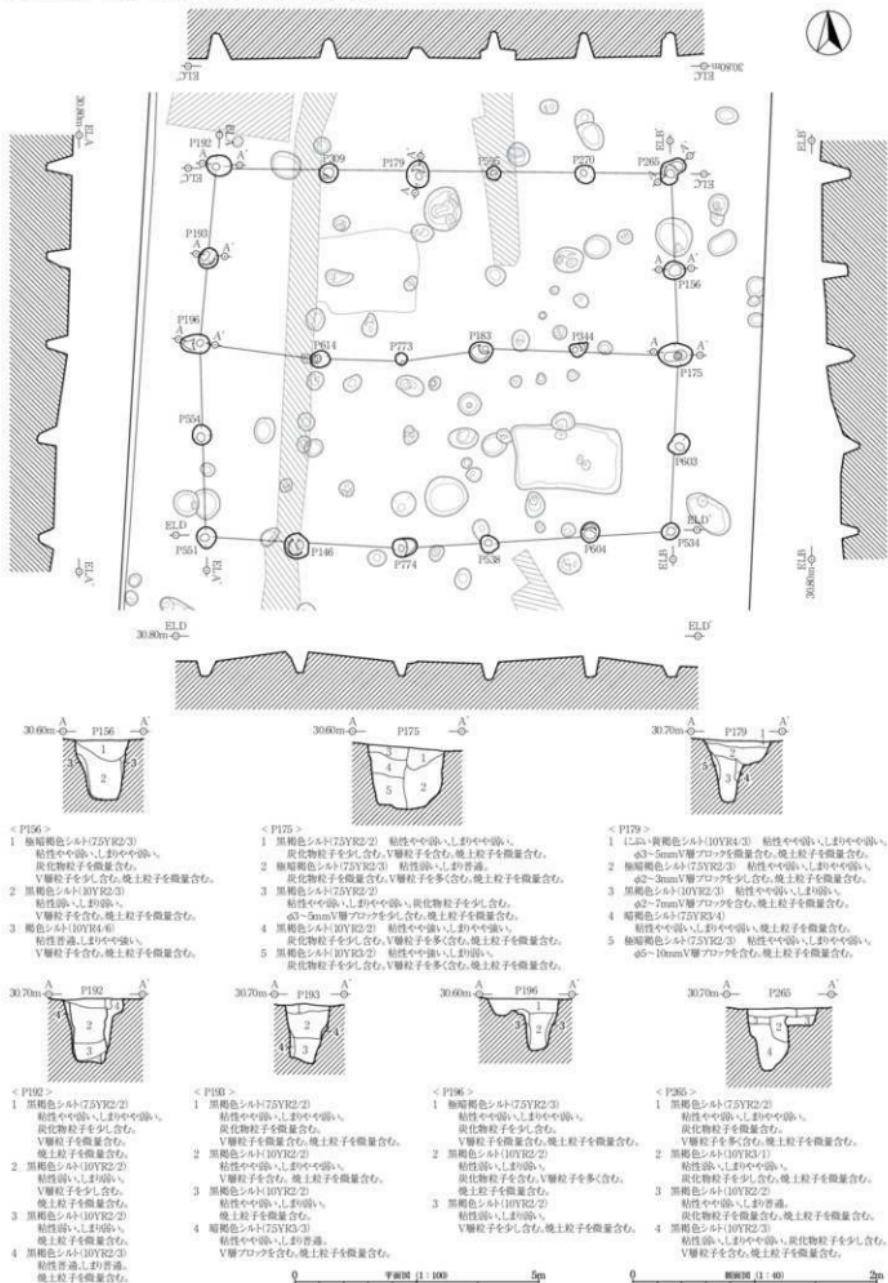
- ① 黄色のループ [10YR4/3]  
粘性やや弱い。少し油や水を含む。  
糊ブロックを含む。

② 黑色のループ [10YR4/3]  
粘性やや弱い。少し油や水を含む。  
糊ブロックを含む。

③ 黄色のループ [10YR4/3]  
粘性やや弱い。少し油や水を含む。  
糊ブロックを含む。

④ 黑色のループ [10YR4/3]  
粘性やや弱い。少し油や水を含む。  
糊ブロックを含む。

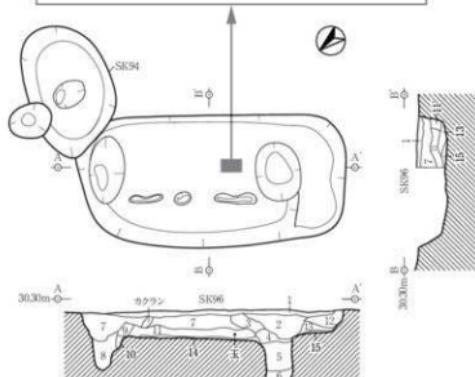
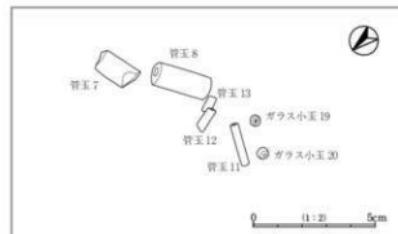
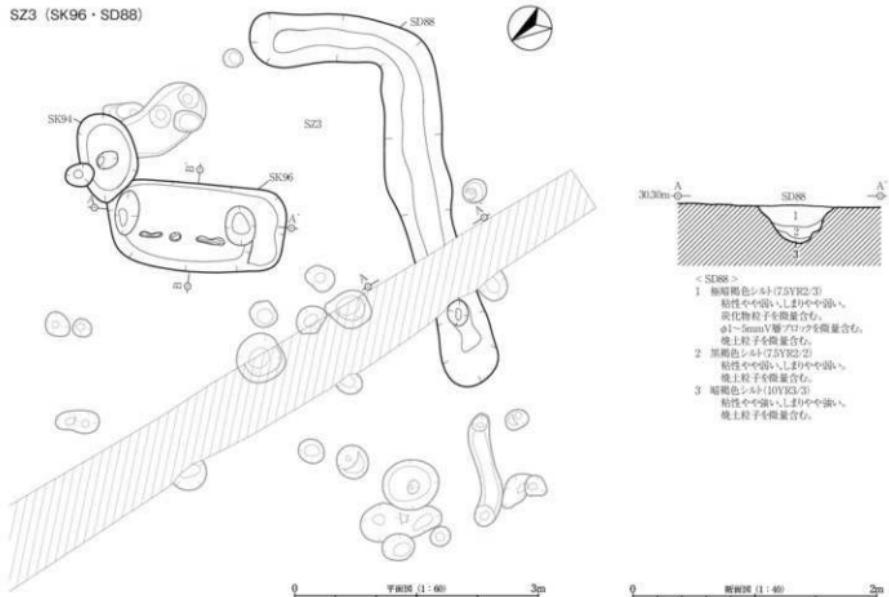
SB2 (P156・P175・P179・P192・P193・P196・P265)



図版 10

SZ3 (SK96 + SD88)

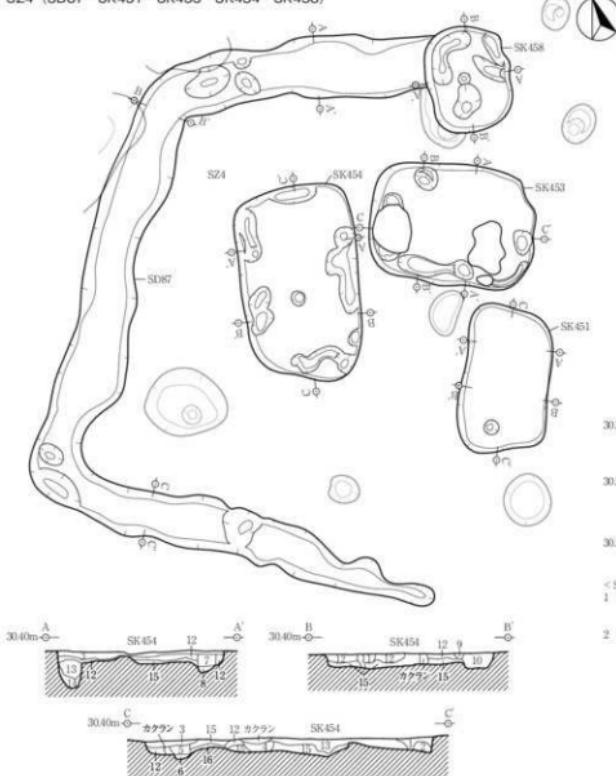
遺構個別図 4



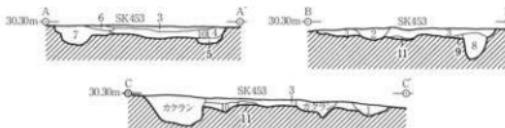
&lt; SK96 &gt;

- 1 黒褐色シート(7SYR2-2)  
粘性や砂質、しづらさあり。炭化物粒子を少し含む。  
50~20mmV層ブロックを含む。地上粒子を微量含む。
- 2 黒褐色シート(10YR2-2)  
粘性や砂質、しづらさあり。炭化物粒子を微量含む。  
V層粒子を微量含む。地上粒子を微量含む。
- 3 黒褐色シート(10YR2-3)  
粘性や砂質、しづらさあり。炭化物粒子を微量含む。  
V層粒子を微量含む。地上粒子を微量含む。
- 4 黒褐色シート(10YR2-3)  
粘性普通、少し砂質。炭化物粒子を微量含む。  
V層粒子を多く含む。地上粒子を微量含む。
- 5 黒褐色シート(10YR4-2)  
粘性や砂質、しづらさあり。炭化物粒子を微量含む。  
40~30mmV層ブロックを含む。地上粒子を微量含む。
- 6 ぬら葉褐色シート(10YR4-3)  
粘性や砂質、しづらさあり。  
40~20mmV層ブロックを少し含む。地上粒子を微量含む。
- 7 黑褐色シート(10YR2-2)  
粘性や砂質、しづらさあり。炭化物粒子を少し含む。  
V層粒子を微量含む。地上粒子を微量含む。
- 8 黑褐色シート(10YR2-2)  
粘性普通、少し砂質あり。炭化物粒子を少し含む。  
V層粒子を微量含む。地上粒子を微量含む。
- 9 黑褐色シート(10YR2-2)  
粘性や砂質、しづらさあり。炭化物粒子を少し含む。地上粒子を微量含む。
- 10 黑褐色シート(10YR2-2~10YR2-3)  
粘性や砂質、しづらさあり。炭化物粒子を少し含む。地上粒子を微量含む。
- 11 黑褐色シート(10YR2-2)  
粘性や砂質、しづらさあり。65~10mmV層粒子ブロックを少し含む。  
地上粒子を微量含む。
- 12 黑褐色シート(7SYR2-3)  
粘性や砂質、しづらさあり。炭化物粒子を少し含む。  
V層粒子を微量含む。地上粒子を微量含む。
- 13 黑褐色シート(10YR2-2~10YR2-3)  
粘性や砂質、しづらさあり。炭化物粒子を微量含む。  
V層粒子を微量含む。地上粒子を微量含む。
- 14 棕色シート(10YR4-4)  
粘性や砂質、しづらさあり。炭化物粒子を微量含む。地上粒子を微量含む。
- 15 褐褐色シート(10YR3-3)  
粘性や砂質、しづらさあり。炭化物粒子を微量含む。地上粒子を微量含む。

SZ4 (SD87 · SK451 · SK453 · SK454 · SK458)

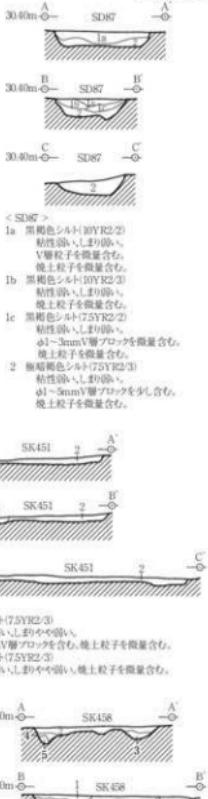


<SK451>



《SK451》

1. 黒毛糸(=1.10YR 3/2) 繊維や少しあらやや細い、化成黒糸を少量含む。d1-3mm<sup>2</sup>織物に量多く含む。被上粒子を微量含む。小4板粗糸。  
2. 黒毛糸(=1.75YR 2/2) 繊維や少しあらやや細い、d1-1.5mm<sup>2</sup>織物に量多く含む。被上粒子を微量含む。糊板粗糸。  
3. 黒毛糸(=6.75YR 2/2) 繊維や少しあらやや細い、化成黒糸を微量含む。d1-5mm<sup>2</sup>織物に量多く含む。被上粒子を微量含む。糊板粗糸。  
4. 黑毛糸(=4.10YR 3/2) 繊維や少しあらやや細い、化成黒糸を微量含む。d1-5mm<sup>2</sup>織物に量多く含む。被上粒子を微量含む。糊板粗糸。  
5. 黑毛糸(=4.10YR 3/2) 繊維や少しあらやや細い、化成黒糸を微量含む。d1-5mm<sup>2</sup>織物に量多く含む。被上粒子を微量含む。糊板粗糸。  
6. 黑毛糸(=4.10YR 3/2) 繊維や少しあらやや細い、化成黒糸を微量含む。d1-5mm<sup>2</sup>織物に量多く含む。被上粒子を微量含む。糊板粗糸。  
7. 黑毛糸(=4.10YR 3/2) 繊維や少しあらやや細い、化成黒糸を微量含む。d1-5mm<sup>2</sup>織物に量多く含む。被上粒子を微量含む。糊板粗糸。  
8. 黑毛糸(=4.10YR 3/2) 繊維や少しあらやや細い、化成黒糸を微量含む。d1-10mm<sup>2</sup>織物に量多く含む。被上粒子を微量含む。糊板粗糸。  
9. 黑毛糸(=4.10YR 3/2) 繊維や少しあらやや細い、化成黒糸を微量含む。d1-5mm<sup>2</sup>織物に量多く含む。被上粒子を微量含む。糊板粗糸。  
10. 仰臥毛糸(=7.75YR 2/2) 繊維や少しあらやや細い、化成黒糸を少し含む。d1-3mm<sup>2</sup>織物に量多く含む。被上粒子を微量含む。糊板粗糸。  
11. 開毛糸(=7.75YR 4/2) 繊維や少しあらやや細い、d1-5mm<sup>2</sup>織物に量多く含む。被上粒子を微量含む。



1

- <SK458>

  - 黒麗木シルト(7.5YR2/2)
 

粒径: 0.4mm以下: 10%以下やや多い。  
活性粘土粒子: 鉱物質等。  
粒径: 0.05~0.1mm: 10%以下微量含む。  
地上粒子: 粒子量含む。
  - 黒麗木シルト(10YR2/3)
 

粒径: 0.4mm以下: 10%以下やや多い。  
粒径: 0.05~0.1mm: 10%以下微量含む。  
地上粒子: 粒子量含む。
  - 褐麗木シルト(10YR3/3)
 

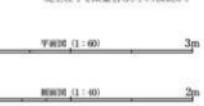
粒径: 0.4mm以下: 10%以下やや多い。  
粒径: 0.05~0.1mm: 10%以下微量含む。  
地上粒子: 粒子量含む。
  - 褐麗木シルト(7.5YR3/3)
 

粒径: 0.4mm以下: 10%以下やや多い。  
粒径: 0.05~0.1mm: 10%以下微量含む。  
地上粒子: 粒子量含む。板根貧乏。
  - 黒麗木シルト(7.5YR2/2)
 

粒径: 0.4mm以下: 10%以下やや多い。  
V形粒子: 粒子量含む。  
地上粒子: 粒子量含む。板根貧乏。
  - 黒麗木シルト(10YR2/3)
 

粒径: 0.4mm以下: 10%以下やや多い。  
粒径: 0.05~0.1mm: 10%以下微量含む。  
地上粒子: 粒子量含む。V形根含む。
  - 黒麗木シルト(10YR2/2)
 

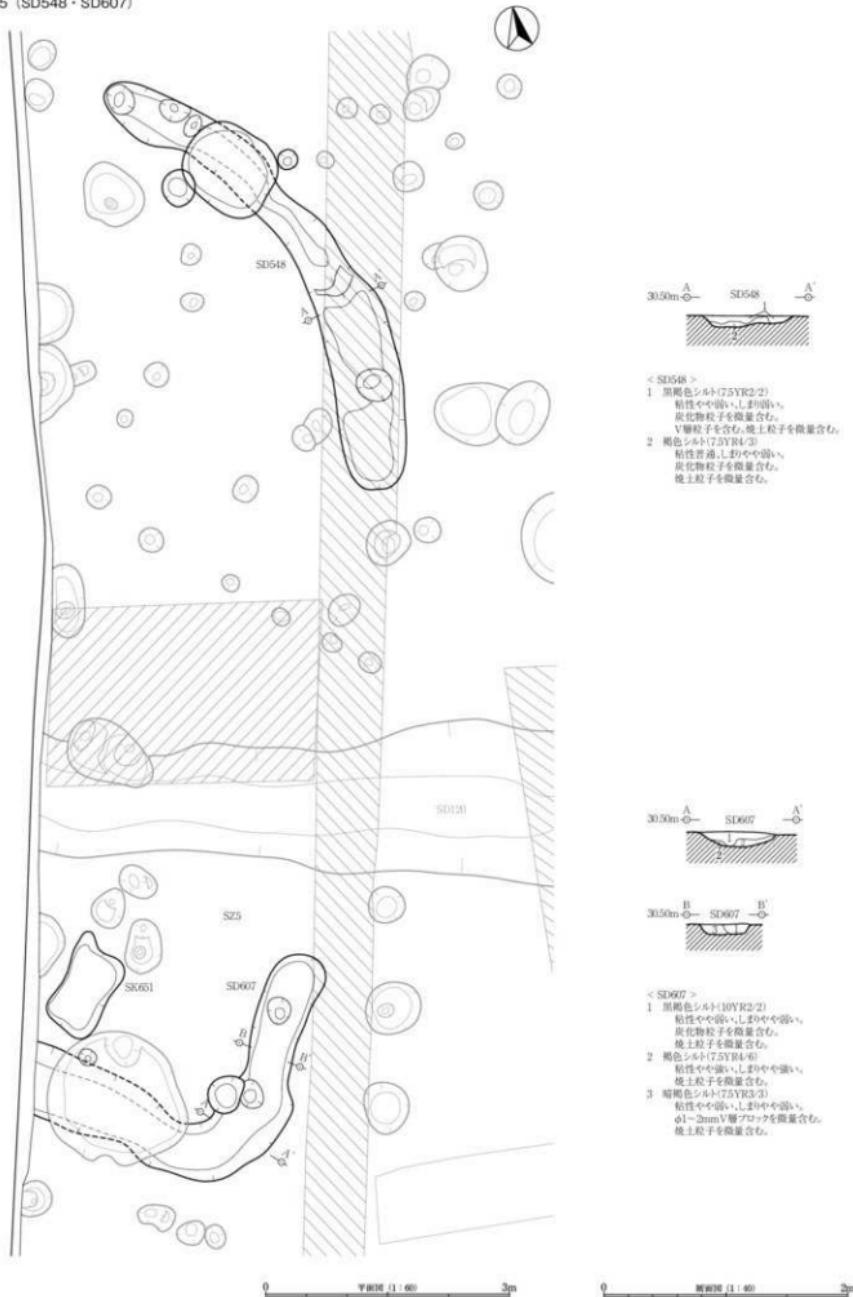
粒径: 0.4mm以下: 10%以下やや多い。  
V形粒子: 粒子量含む。  
地上粒子: 粒子量含む。V形根含む。



図版 12

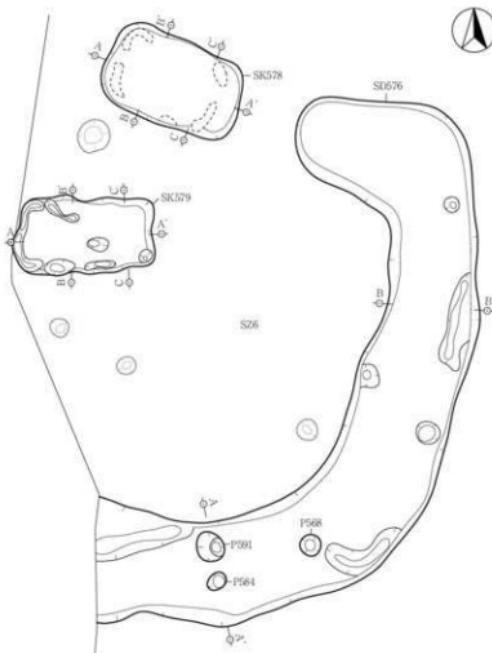
SZ5 (SD548・SD607)

遺構個別図 6



## 遺構個別図 7

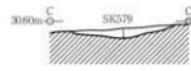
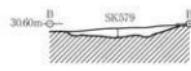
SZ6 (SD576・SK578・SK579)



< SD576 >  
1 黒褐色シルト (7SYR4-3)  
粘性や少少の、上りや下り。  
φ5~10mmV層ブロックを多く含む。  
塊土粒子を微量含む。

< P584 >  
1 黑褐色シルト (10YR2-3)  
粘性や少少の、上りや下り。  
V層粒子を含む。  
塊土粒子を微量含む。

< P581 >  
1 黑褐色シルト (10YR2-2)  
粘性や少少の、上りや下り。  
φ5~10mmV層ブロックを微量含む。  
塊土粒子を微量含む。



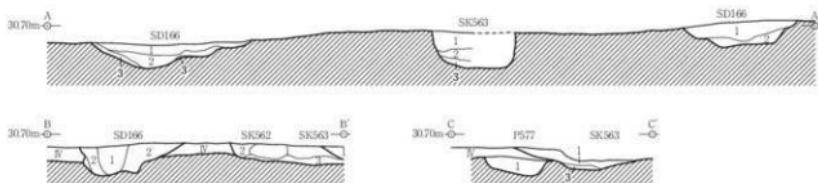
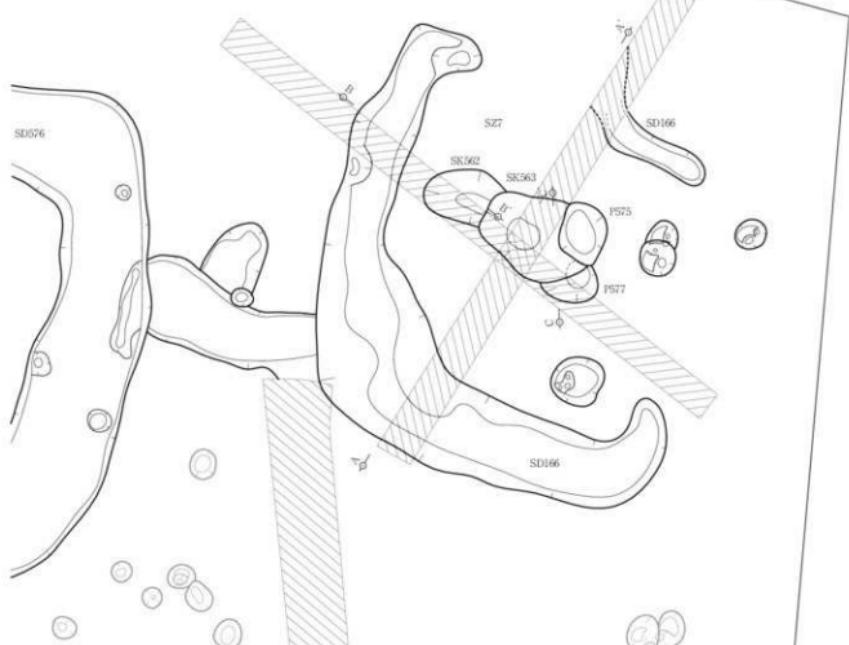
< SK578 >  
1 黑褐色シルト (10YR2-3)  
粘性や少少の、上りや下り。  
炭化物粒子を微量含む。塊土粒子を微量含む。  
2 黑褐色シルト (10YR2-2)  
粘性弱く、上りや下り。  
V層粒子を微量含む。塊土粒子を微量含む。  
3 黑褐色シルト (10YR2-2)  
粘性弱く、上りや下り。  
塊土粒子を微量含む。  
4 黑褐色シルト (7SYR4-3)  
粘性や少少の、上りや下り。  
φ5~10mmV層ブロックを含む。塊土粒子を微量含む。  
5 黑褐色シルト (7SYR4-3)  
粘性や少少の、上りや下り。  
φ5~10mmV層ブロックを多く含む。塊土粒子を微量含む。

< SK579 >  
1 黑褐色シルト (10YR2-3)  
粘性や少少の、上りや下り。  
炭化物粒子を微量含む。  
φ5~10mmV層ブロックを少く含む。  
塊土粒子を微量含む。  
2 黑褐色シルト (10YR2-2)  
粘性や少少の、上りや下り。  
φ5~10mmV層ブロックを多く含む。  
塊土粒子を微量含む。

図版 14

SZ7 (SD166・SK563・P577)

遺構個別図 8



## &lt; SD166 &gt;

- 1 黒褐色シルト (75YR2/2)  
粘性やや弱い、上りや下り、塊土粒子を微量含む。
- 2 黒褐色シルト (75YR2/2)  
粘性やや弱い、しまりや弱い。  
 $\phi 1\sim 3mm$ V層粒子を少し含む。塊土粒子を微量含む。
- 3 黑褐色シルト (75YR2/2)  
粘性やや弱い、上りや下り、  
 $\phi 1\sim 3mm$ V層粒子を少し含む。塊土粒子を微量含む。
- 4 黑褐色シルト (75YR2/3)  
粘性やや弱い、しまりや弱い。  
 $\phi 3\sim 5mm$ V層ブロックを微量含む。塊土粒子を微量含む。

## &lt; SK562 &gt;

- 1 楕円褐色シルト (75YR2/3)  
粘性やや弱い、上りや下り、  
 $\phi 1\sim 5mm$ V層粒子を微量含む。塊土粒子を微量含む。
- 2 暗褐色シルト (75YR3/4)  
粘性普通、しまり普通、V層粒子を微量含む。  
 $\phi 1\sim 5mm$ V層ブロックを少し含む。塊土粒子を微量含む。
- 3 暗褐色シルト (75YR3/4)  
粘性やや弱い、しまりや弱い。  
 $\phi 5\sim 10mm$ V層ブロックを多く含む。塊土粒子を微量含む。

## &lt; SK563 &gt;

- 1 楕円褐色シルト (75YR2/3)  
粘性やや弱い、上りや下り、  
 $\phi 1\sim 5mm$ V層ブロックを多く含む。塊土粒子を微量含む。
- 2 暗褐色シルト (75YR3/4)  
粘性やや弱い、しまりや弱い。  
 $\phi 5\sim 10mm$ V層ブロックを多く含む。塊土粒子を微量含む。
- < P577 >  
1 楕円褐色シルト (75YR2/3)  
粘性やや弱い、しまりや弱い。  
 $\phi 5\sim 10mm$ V層ブロックを多く含む。塊土粒子を微量含む。

## 遺構個別図 9

SZ2 (SD33・SX248  
SK250・P375)



## &lt; SZ33 &gt;

1 黒褐色シルト [10YR 2/3]  
粘性や中粘り、しわや弱い。

φ10~15mm V帶プロックを微量含む。

塊土粒子を微量含む。

2 暗褐色シルト [10YR 3/4]  
粘性やや弱い、しわや弱い。

φ10~15mm V帶プロックを多く含む。

塊土粒子を微量含む。

## &lt; P375 &gt;

1 暗褐色シルト [10YR 2/3]  
粘性やや弱い、しわやや弱い。

塊土粒子を微量含む。

## &lt; SX248 &gt;

1 1-2層 黒褐色シルト [10YR 4/3]  
粘性普通、上部普通、V帶粒子を微量含む、塊土粒子を微量含む。

2 暗褐色シルト [10YR 2/3]  
粘性やや弱い、しわやや弱い、炭化物粒子を微量含む。

V帶粒子を含む、塊土粒子を微量含む。

3 黑褐色シルト [10YR 2/3]  
粘性やや弱い、しわやや弱い。

塊土粒子を微量含む、V帶粒子を微量含む。

4 黑褐色シルト [10YR 2/3]  
粘性やや弱い、しわやや弱い。

塊土粒子を微量含む、V帶粒子を微量含む。

5 黑褐色シルト [10YR 2/3]  
粘性やや弱い、しわやや弱い、炭化物粒子を微量含む。

塊土粒子を微量含む、V帶粒子を微量含む。

## &lt; SK250 &gt;

1 黑褐色シルト [10YR 2/2]  
粘性やや弱い、しわやや弱い。

V帶粒子を微量含む、塊土粒子を微量含む。

2 黑褐色シルト [10YR 2/3]  
粘性やや弱い、しわやや弱い、炭化物粒子を微量含む。

V帶粒子を微量含む、塊土粒子を微量含む。

3 黑褐色シルト [10YR 3/1]  
粘性やや弱い、しわやや弱い。

V帶粒子を多く含む、塊土粒子を微量含む。

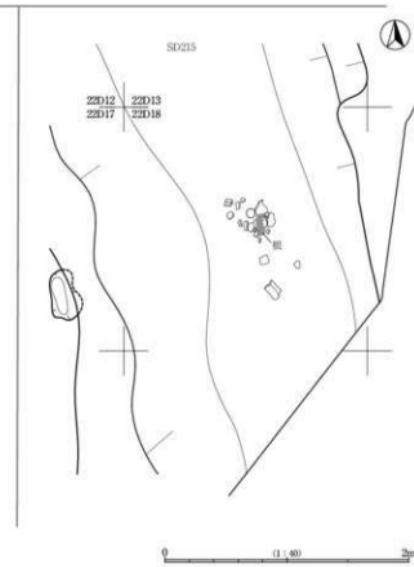
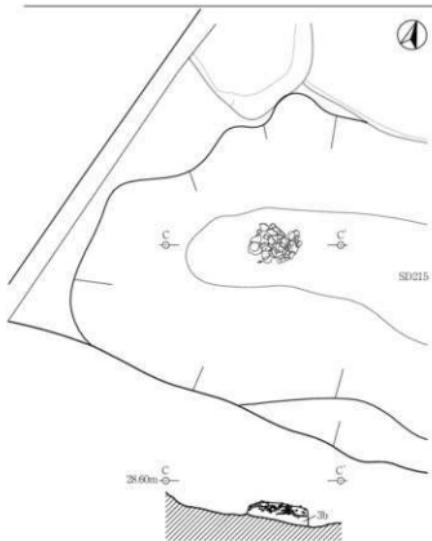
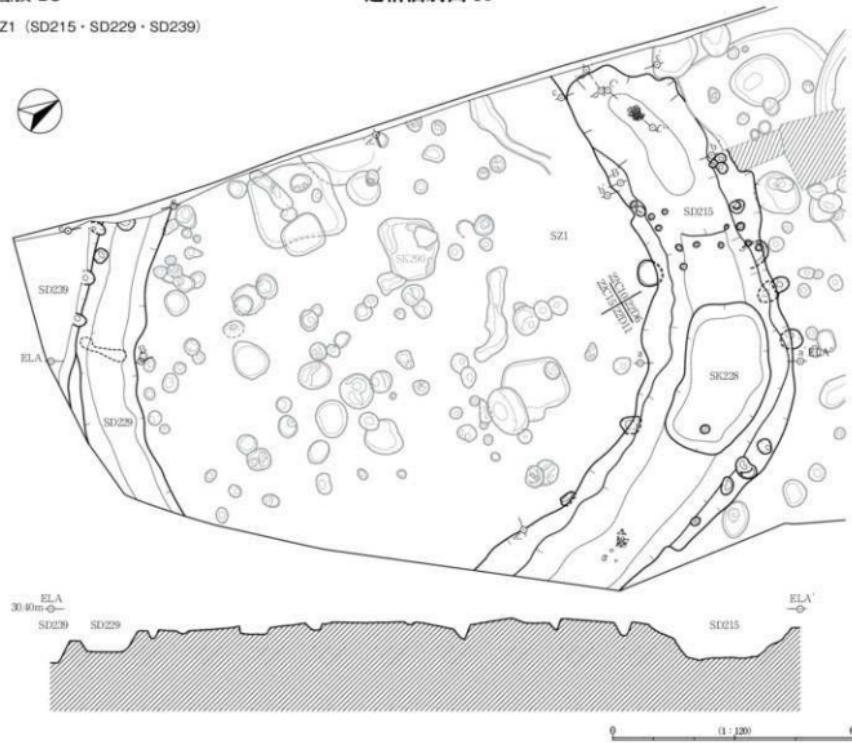
4 黑褐色シルト [10YR 2/3]  
粘性やや弱い、しわやや弱い、炭化物粒子を微量含む。

V帶粒子を少し含む、塊土粒子を微量含む。

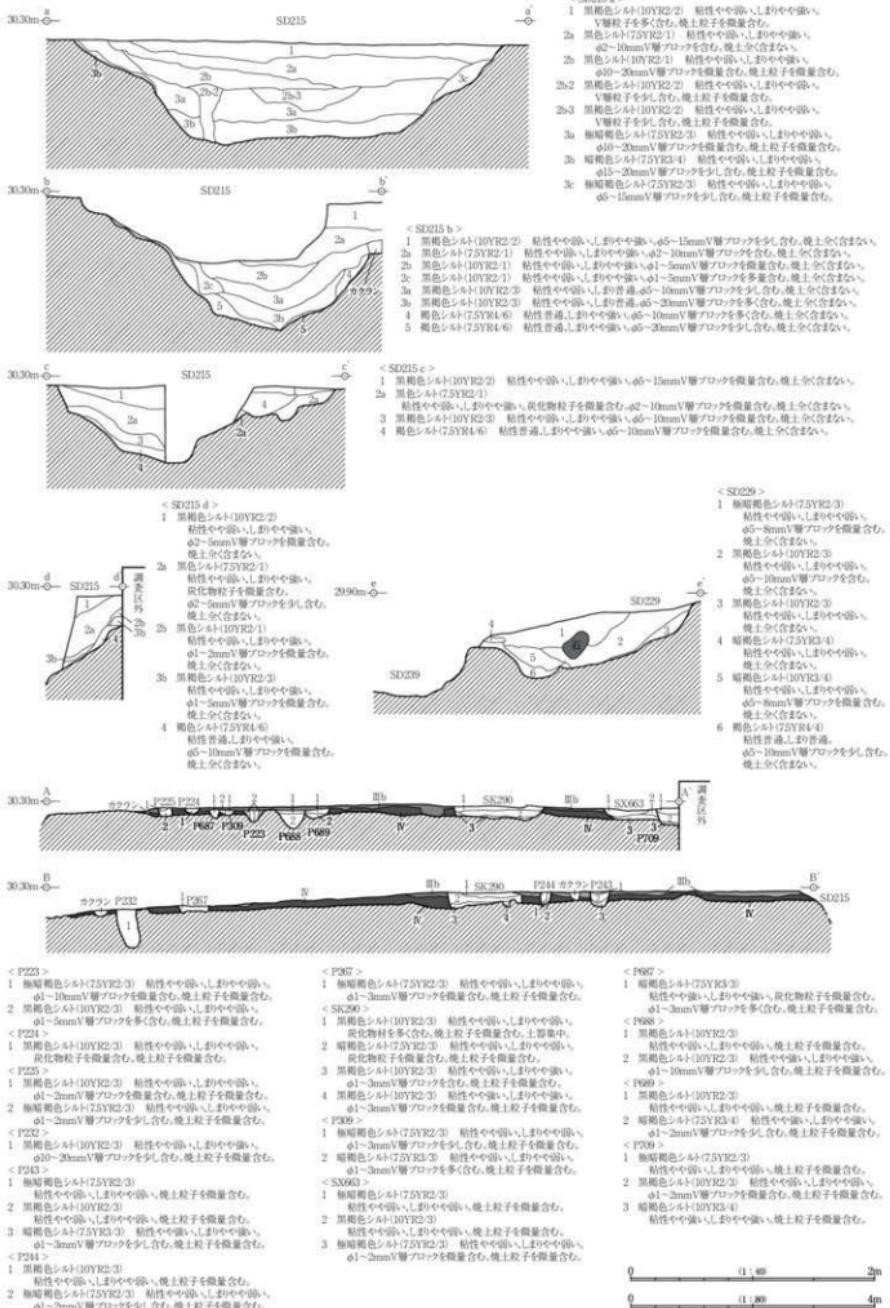
図版 16

## 遺構個別図 10

SZ1 (SD215・SD229・SD239)

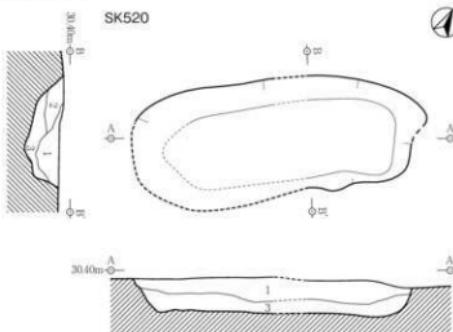
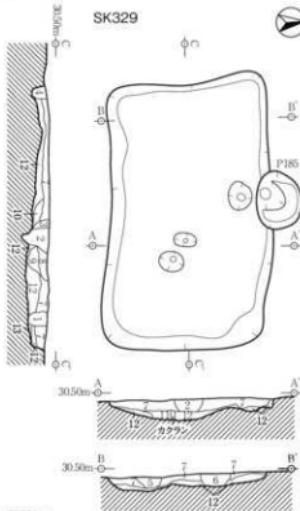


## 遺構個別図 11



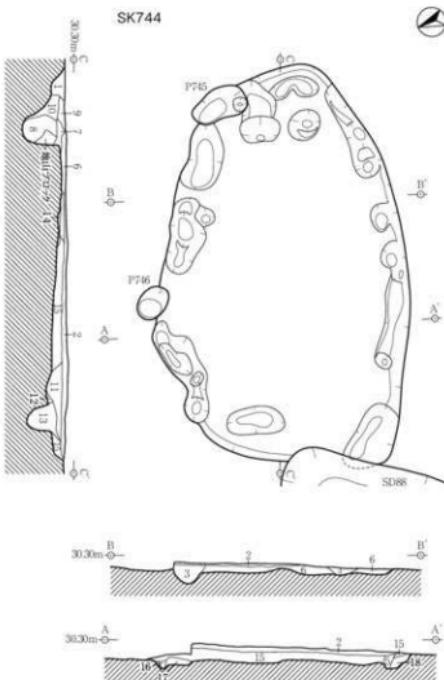
図版 18

遺構個別図 12



- < SK520 >
- 1 黒褐色シルト(10YR2/2)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。塊土粒子を微量含む。
  - 2 黒褐色シルト(7.5YR2/2)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。塊土粒子を微量含む。
  - 3 黒褐色シルト(10YR2/3)  
粘性弱い、しまりやや弱い。塊土粒子を微量含む。

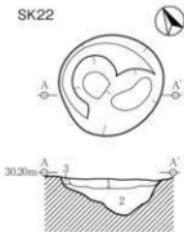
- < SK329 >
- 1 細褐色色シルト(7.5YR2/3)  
粘性弱い、しまりやや弱い。塊土粒子を微量含む。
  - 2 黒褐色シルト(7.5YR2/2)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。塊土粒子を微量含む。
  - 3 黒褐色色シルト(7.5YR2/3)  
粘性弱い、しまりやや弱い。塊土粒子を微量含む。
  - 4 黒褐色色シルト(7.5YR2/3)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。塊土粒子を微量含む。
  - 5 黒褐色色シルト(7.5YR2/3)  
粘性弱い、しまりやや弱い。φ1~5mmV層ブロックを微量含む。塊土粒子を微量含む。
  - 6 黒褐色色シルト(7.5YR2/3)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。φ1~2mmV層ブロックを微量含む。塊土粒子を微量含む。
  - 7 黒褐色色シルト(7.5YR3/3)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。塊土粒子を微量含む。
  - 8 黒褐色色シルト(7.5YR2/3)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。塊土粒子を微量含む。
  - 9 黒褐色色シルト(7.5YR3/4)  
粘性やや強め、しまりやや強め。φ0.5~1mmV層ブロックを少し含む。塊土粒子を微量含む。
  - 10 黒褐色色シルト(7.5YR2/3)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。φ5~10mmV層ブロックを含む。塊土粒子を微量含む。
  - 11 黒褐色色シルト(7.5YR3/4)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。φ5~10mmV層ブロックを少し含む。塊土粒子を微量含む。
  - 12 黒褐色色シルト(7.5YR2/4)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。塊土粒子を微量含む。
  - 13 黒褐色色シルト(7.5YR3/3)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。φ1~7mmV層ブロックを少し含む。塊土粒子を微量含む。



- < SK744 >
- 1 黑褐色色シルト(7.5YR2/4)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。φ5~10mmV層ブロックを多く含む。塊土粒子を微量含む。
  - 2 黑褐色色シルト(7.5YR2/2)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。φ2~5mmV層ブロックを微量含む。塊土粒子を微量含む。
  - 3 黑褐色色シルト(7.5YR2/3)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。φ5~10mmV層ブロックを少し含む。塊土粒子を微量含む。
  - 4 黑褐色色シルト(7.5YR2/3)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。φ5~10mmV層ブロックを多く含む。塊土粒子を微量含む。
  - 5 黑褐色色シルト(7.5YR2/2)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。φ2~5mmV層ブロックを微量含む。塊土粒子を微量含む。
  - 6 黑褐色色シルト(7.5YR2/2)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。φ5~8mmV層ブロックを含む。塊土粒子を微量含む。
  - 7 黑褐色色シルト(7.5YR2/2)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。V層粒子を含む。塊土粒子を微量含む。
  - 8 黑褐色色シルト(7.5YR2/2)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。φ5~8mmV層ブロックを含む。塊土粒子を微量含む。
  - 9 黑褐色色シルト(10YR2/3)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。V層粒子を含む。塊土粒子を微量含む。
  - 10 黑褐色色シルト(7.5YR2/3)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。V層粒子を微量含む。塊土粒子を微量含む。
  - 11 黑褐色色シルト(10YR2/3)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。V層粒子を微量含む。塊土粒子を微量含む。
  - 12 黑褐色色シルト(7.5YR2/2)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。塊土粒子を微量含む。
  - 13 黑褐色色シルト(7.5YR2/2)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。φ2~5mmV層ブロックを微量含む。塊土粒子を微量含む。
  - 14 黑褐色色シルト(7.5YR4/4)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。V層粒子を少し含む。塊土粒子を微量含む。
  - 15 黑褐色色シルト(7.5YR2/3)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。φ5~10mmV層ブロックを含む。塊土粒子を微量含む。
  - 16 黑褐色色シルト(7.5YR4/4)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。φ5~10mmV層ブロックを含む。塊土粒子を微量含む。
  - 17 黑褐色色シルト(7.5YR4/4)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。V層粒子を含む。塊土粒子を微量含む。
  - 18 黑褐色色シルト(10YR2/2)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。V層粒子を微量含む。塊土粒子を微量含む。

## 遺構個別図 13

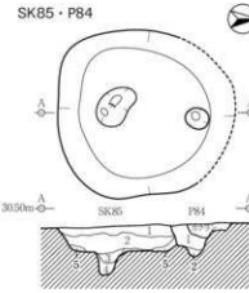
SK22



&lt; SK22 &gt;

- 黒褐色シルト(7SYR2-3)  
粘性やや弱い。しりやや弱い。  
V壁粒子を微量含む。  
地上粒子を微量含む。
- 黒褐色シルト(10YR2-3)  
粘性やや弱い。しりやや弱い。  
V壁粒子を多く含む。  
地上粒子を微量含む。
- 黒褐色シルト(10YR2-3)  
粘性やや弱い。しりやや弱い。  
V壁粒子を微量含む。

SK85・P84



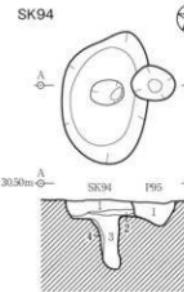
&lt; SK85 &gt;

- 黒褐色シルト(10YR2-3)  
粘性やや弱い。しりやや弱い。  
V壁粒子を微量含む。  
地上粒子を微量含む。
- 黒褐色シルト(10YR2-2)  
粘性やや弱い。しりやや弱い。  
V壁粒子を微量含む。
- 黒褐色シルト(7SYR3-2)  
粘性やや弱い。しりやや弱い。  
V壁粒子を微量含む。
- 黒褐色シルト(7SYR3-2)  
粘性やや弱い。しりやや弱い。  
V壁粒子を微量含む。
- 黒褐色シルト(7SYR3-2)  
粘性やや弱い。しりやや弱い。  
V壁粒子を微量含む。

&lt; P84 &gt;

- 黒褐色シルト(10YR2-2)  
粘性やや弱い。しりやや弱い。  
V壁粒子を微量含む。
- 黒褐色シルト(10YR2-2)  
粘性やや弱い。しりやや弱い。

SK94



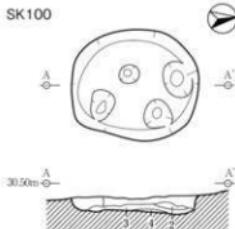
&lt; SK94 &gt;

- 黒褐色シルト(10YR2-3)  
粘性やや弱い。しりやや弱い。  
地上粒子を微量含む。
- 黒褐色シルト(10YR2-3)  
粘性やや弱い。しりやや弱い。  
V壁粒子を微量含む。  
地上粒子を微量含む。
- 黒褐色シルト(7SYR2-3)  
粘性やや弱い。しりやや弱い。  
V壁粒子を微量含む。
- 黒褐色シルト(7SYR3-4)  
粘性やや弱い。しりやや弱い。  
V壁粒子を微量含む。

&lt; P95 &gt;

- 黒褐色シルト(7SYR2-3)  
粘性やや弱い。しりやや弱い。  
地上粒子を微量含む。

SK100



&lt; SK100 &gt;

- 黒褐色シルト(10YR2-2)  
粘性やや弱い。しりやや弱い。  
V壁粒子を微量含む。
- 黒褐色シルト(10YR2-2)  
粘性やや弱い。しりやや弱い。  
V壁粒子を微量含む。
- 黑褐色シルト(7SYR2-3)  
粘性やや弱い。しりやや弱い。  
V壁粒子を微量含む。
- 黒褐色シルト(10YR2-1)  
粘性やや弱い。V壁粒子を微量含む。
- 黒褐色シルト(10YR2-3)  
粘性やや弱い。V壁粒子を微量含む。

&lt; P711 &gt;

- 黒褐色シルト(10YR2-3)  
粘性やや弱い。しりやや弱い。  
V壁粒子を微量含む。

SK27



&lt; SK27 &gt;

- 黒褐色シルト(7SYR2-3)  
粘性やや弱い。V壁粒子を微量含む。  
V壁粒子を微量含む。
- 黒褐色シルト(7SYR2-3)  
粘性やや弱い。V壁粒子を微量含む。

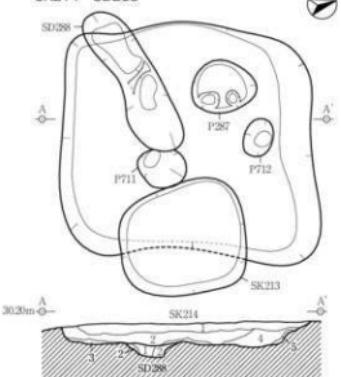
SK51



&lt; SK51 &gt;

- 黒褐色シルト(10YR2-2)  
粘性やや弱い。しりやや弱い。  
V壁粒子を微量含む。
- 黒褐色シルト(10YR2-3)  
粘性やや弱い。V壁粒子を微量含む。
- 黒褐色シルト(7SYR3-6)  
粘性やや弱い。しりやや弱い。  
V壁粒子を微量含む。

SK214・SD288



&lt; SK214 &gt;

- 黒褐色シルト(10YR2-3)  
粘性やや弱い。V壁粒子を微量含む。
- 黒褐色シルト(10YR2-3)  
粘性やや弱い。V壁粒子を微量含む。
- 黒褐色シルト(7SYR2-3)  
粘性やや弱い。V壁粒子を微量含む。
- 黒褐色シルト(10YR2-3)  
粘性やや弱い。V壁粒子を微量含む。
- 黒褐色シルト(10YR4-4)  
粘性やや弱い。V壁粒子を微量含む。

&lt; SD288 &gt;

- 黒褐色シルト(7SYR2-3)  
粘性やや弱い。V壁粒子を含む。
- 黒褐色シルト(10YR2-3)  
粘性やや弱い。V壁粒子を含む。

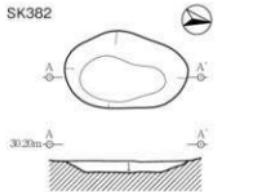
図版 20



&lt;SK220&gt;

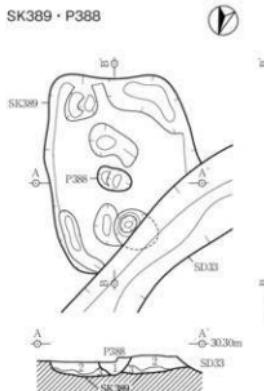
- 1 黒褐色シルト(10YR2/3)  
粘性やや弱い、V形粒子を微量含む。

- 2 塩化物粒子を微量含む。土粒子を微量含む。  
粒径15~25mmV層プロックを少し含む。

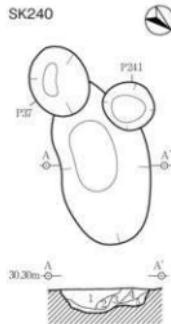


&lt;SK382&gt;

- 1 黒褐色シルト(10YR2/3)  
粘性やや弱い、V形粒子を微量含む。  
V形粒子を微量含む。  
土粒子を微量含む。



遺構個別図 14



&lt;SK240&gt;

- 1 塩化物シルト(10YR2/4)  
粘性やや弱い、V形粒子を微量含む。  
粒径15mmV層プロックを少し含む。  
土粒子を微量含む。

- 2 塩化物シルト(75YR3/4)  
粘性やや弱い、V形粒子を微量含む。  
粒径15mmV層プロックを少し含む。

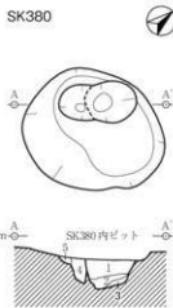
- 3 塩化物シルト(75YR3/4)

- 粘性やや弱い、V形粒子を微量含む。  
粒径10mmV層プロックを少し含む。  
土粒子を微量含む。

- 4 塩化物シルト(75YR3/4)  
粘性やや弱い、V形粒子を微量含む。  
粒径20mmV層プロックを微量含む。  
土粒子を微量含む。

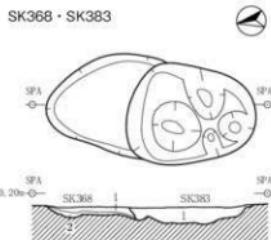
- 5 黒褐色シルト(10YR2/3)

- 粘性やや弱い、V形粒子を微量含む。  
粒径10mmV層プロックを微量含む。  
土粒子を微量含む。



&lt;SK380に付&gt;

- 1 黒褐色シルト(10YR2/2)  
粘性やや弱い、V形粒子を微量含む。  
粒径5mmV層プロックを含む。土粒子を微量含む。
- 2 塩化物シルト(75YR3/4)  
粘性やや弱い、V形粒子を微量含む。
- 3 土粒子(2.5YR4/6)  
V形粒子を微量含む。
- 4 黑褐色シルト(10YR2/2)  
粘性やや弱い、V形粒子を微量含む。
- 5 塩化物シルト(75YR2/3)  
粘性やや弱い、V形粒子を微量含む。  
粒径1~3mmV層プロックを少し含む。土粒子を微量含む。



&lt;SK380&gt;

- 1 黒褐色シルト(75YR2/1)  
粘性やや弱い、V形粒子を微量含む。  
V形粒子を微量含む。土粒子を微量含む。

- 2 塩化物シルト(10YR2/4)  
粘性やや弱い、V形粒子を微量含む。

&lt;SK383&gt;

- 1 黑褐色シルト(75YR2/2)  
粘性やや弱い、V形粒子を微量含む。  
V形粒子を微量含む。土粒子を微量含む。

- 2 塩化物シルト(10YR2/4)  
粘性やや弱い、V形粒子を微量含む。



&lt;SK389&gt;

- 1 塩化物シルト(75YR2/3)  
粘性やや弱い、V形粒子を微量含む。

- 2 塩化物シルト(75YR2/3)  
粘性やや弱い、V形粒子を微量含む。

- 3 塩化物シルト(75YR3/4)  
粘性やや弱い、V形粒子を微量含む。

- 4 塩化物シルト(10YR3/4)

- 粘性やや弱い、V形粒子を微量含む。  
粒径5mmV層プロックを多く含む。

- 5 塩化物シルト(10YR3/4)

- 粘性やや弱い、V形粒子を微量含む。  
土粒子を微量含む。

&lt;P388&gt;

- 1 塩化物シルト(10YR2/3)  
粘性やや弱い、V形粒子を微量含む。

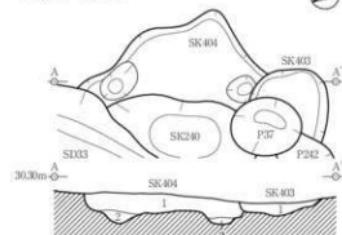
- 2 塩化物シルト(10YR2/3)  
粘性やや弱い、V形粒子を微量含む。

- 3 塩化物シルト(10YR2/3)  
粘性やや弱い、V形粒子を微量含む。

- 4 塩化物シルト(10YR2/3)  
粘性やや弱い、V形粒子を微量含む。

- 5 塩化物シルト(10YR2/3)  
粘性やや弱い、V形粒子を微量含む。

SK403・SK404



&lt;SK403&gt;

- 1 黑褐色シルト(10YR2/3)  
粘性やや弱い、V形粒子を微量含む。

&lt;SK404&gt;

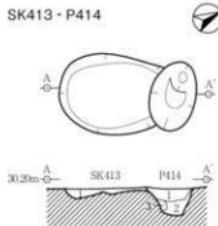
- 1 塩化物シルト(75YR2/3)  
粘性やや弱い、V形粒子を微量含む。土粒子を微量含む。

- 2 塩化物シルト(75YR2/3)  
粘性やや弱い、V形粒子を微量含む。土粒子を微量含む。

- 3 塩化物シルト(75YR2/3)  
粘性やや弱い、V形粒子を微量含む。土粒子を微量含む。

## 遺構個別図 15

SK413・P414

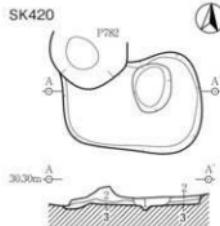


&lt; SK413 &gt;

- 黒褐色シルト(10YR2-3)  
粘性やや弱い、しのぎや強い。  
φ1~2mmV層プロックを少し含む。後土粒子を微量含む。
- 黒褐色シルト(10YR2-2)  
粘性やや弱い、しのぎや強い。  
φ1~2mmV層プロックを微量含む。
- 褐色褐色シルト(7.5YR2-2)  
粘性やや弱い、しのぎや強い。  
φ1~5mmV層プロックを少し含む。
- 褐褐色シルト(7.5YR2-3)  
粘性やや弱い、しのぎや強い。  
φ1~2mmV層プロックを少し含む。後土粒子を微量含む。

3. 植物組織シルト(7.5YR2-3)  
粘性やや弱い、しのぎや強い。  
φ1~2mmV層プロックを微量含む。後土粒子を微量含む。

SK420

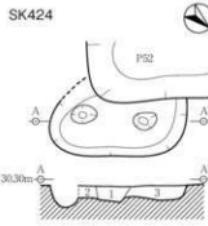


&lt; SK420 &gt;

- 黒褐色シルト(10YR2-3)  
粘性やや弱い、しのぎや強い。  
φ1~3mmV層プロックを含む。後土粒子を微量含む。
- 褐色褐色シルト(7.5YR2-2)  
粘性やや弱い、しのぎや強い。  
φ1~5mmV層プロックを微量含む。
- 褐褐色シルト(7.5YR2-3)  
粘性やや弱い、しのぎや強い。  
後土粒子を微量含む。

3. 植物組織シルト(7.5YR2-3)  
粘性やや弱い、しのぎや強い。  
φ1~2mmV層プロックを微量含む。後土粒子を微量含む。

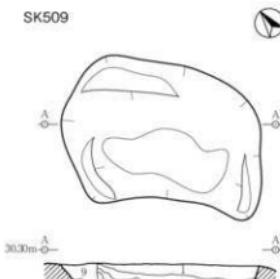
SK424



&lt; SK424 &gt;

- 褐褐色シルト(10YR3-4)  
粘性やや弱い、しのぎや強い。  
φ1~3mmV層プロックを含む。後土粒子を微量含む。
- 褐色褐色シルト(7.5YR2-3)  
粘性やや弱い、しのぎや強い。  
後土粒子を微量含む。
- 褐褐色シルト(7.5YR2-3)  
粘性やや弱い、しのぎや強い。  
φ1~2mmV層プロックを微量含む。後土粒子を微量含む。

SK509

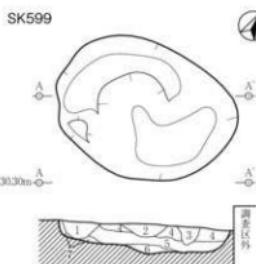


&lt; SK509 &gt;

- 黒褐色シルト(10YR2-3)  
粘性弱い、しのぎや強い。後土粒子を微量含む。
- 黒褐色シルト(7.5YR2-2)  
粘性弱い、しのぎや強い。炭化物粒子を微量含む。  
φ1~1mmV層プロックを微量含む。
- 黒褐色シルト(10YR2-2)  
粘性弱い、しのぎや強い。
- 褐褐色シルト(7.5YR3-3)  
粘性弱い、しのぎや強い。
- 褐褐色シルト(7.5YR2-3)  
粘性弱い、しのぎや強い。
- 黒褐色シルト(7.5YR2-2)  
粘性弱い、しのぎや強い。
- 褐褐色シルト(7.5YR2-2)  
粘性弱い、しのぎや強い。

炭化物粒子を微量含む。後土粒子を微量含む。

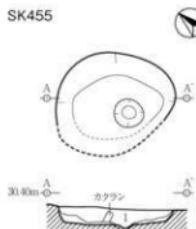
SK599



&lt; SK599 &gt;

- 黒褐色シルト(10YR2-2)  
粘性やや弱い、しのぎや強い。
- 黒褐色シルト(10YR2-2)  
粘性やや弱い、しのぎや強い。後土粒子を微量含む。
- 黒褐色シルト(10YR2-2)  
粘性やや弱い、しのぎや強い。
- 褐褐色シルト(7.5YR2-3)  
粘性やや弱い、しのぎや強い。後土粒子を微量含む。
- 褐褐色シルト(7.5YR2-3)  
粘性やや弱い、しのぎや強い。
- 褐褐色シルト(7.5YR2-4)  
粘性やや弱い、しのぎや強い。
- 褐褐色シルト(7.5YR2-3)  
粘性やや弱い、しのぎや強い。

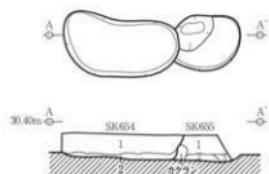
SK455



&lt; SK455 &gt;

- 褐褐色シルト(7.5YR2-3)  
粘性やや弱い、しのぎや強い。  
φ1~2mmV層プロックを微量含む。後土粒子を微量含む。
- 褐褐色シルト(7.5YR2-4)  
粘性やや弱い、しのぎや強い。  
φ1~3mmV層プロックを微量含む。後土粒子を微量含む。

SK654・SK655

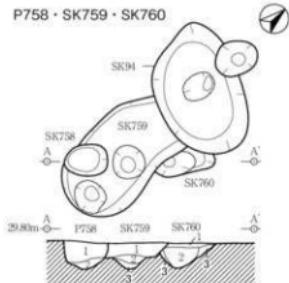


&lt; SK654 &gt;

- 黒褐色シルト(7.5YR2-2)  
粘性やや弱い、しのぎや強い。  
φ1~2mmV層プロックを微量含む。後土粒子を微量含む。
- 黒褐色シルト(10YR2-2)  
粘性やや弱い、しのぎや強い。
- 褐褐色シルト(7.5YR2-3)  
粘性やや弱い、しのぎや強い。後土粒子を微量含む。
- 褐褐色シルト(7.5YR2-2)  
粘性やや弱い、しのぎや強い。
- 褐褐色シルト(10YR2-2)  
粘性やや弱い、しのぎや強い。
- 褐褐色シルト(7.5YR2-3)  
粘性やや弱い、しのぎや強い。

図版 22

P758・SK759・SK760



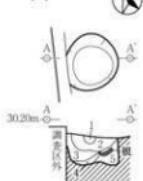
&lt; P758 &gt;

- 極端褐色シルト(7SYR2/3)  
粒性やや弱い、しまりやや弱い、d2~7mmV層プロックを微量含む。純土粒子を微量含む。
- 暗褐色シルト(7SYR2/3)  
粒性やや弱い、しまりやや弱い、d2~5mmV層プロックを含む。純土粒子を微量含む。
- < SK759 >  
極端褐色シルト(7SYR2/3)  
粒性やや弱い、しまりやや弱い、d2~5mmV層プロックを微量含む。純土粒子を微量含む。
- 黒褐色シルト(10YR2/3)  
粒性やや弱い、しまりやや弱い、d2~5mmV層プロックを含む。純土粒子を微量含む。
2. 黒褐色シルト(10YR2/3)  
粒性やや弱い、しまりやや弱い、d2~5mmV層プロックを含む。純土粒子を微量含む。
3. 2. 黑褐色シルト(10YR2/3)  
粒性やや弱い、しまりやや弱い、d2~5mmV層プロックを含む。純土粒子を微量含む。
- < SK760 >  
1. 極端褐色シルト(7SYR2/3)  
粒性やや弱い、しまりやや弱い、V層粒子を少し含む。純土粒子を微量含む。
2. 黑褐色シルト(10YR2/3)  
粒性やや弱い、しまりやや弱い、d2~5mmV層プロックを含む。純土粒子を微量含む。
3. 2. 黑褐色シルト(10YR2/3)  
粒性やや弱い、しまりやや弱い、d2~5mmV層プロックを含む。純土粒子を微量含む。

&lt; SK760 &gt;



P4



&lt; P5 &gt;

- 褐褐色シルト(10YR2/4)  
粒性やや弱い、しまりやや弱い。  
純土粒子を微量含む。
- 極端褐色シルト(7SYR2/3)  
粒性やや弱い、しまりやや弱い。  
純土粒子を微量含む。
- 褐褐色シルト(7SYR2/3)  
粒性やや弱い、しまりやや弱い。  
d2~5mmV層プロックを微量含む。純土粒子を微量含む。
- 極端褐色シルト(7SYR2/3)  
粒性やや弱い、しまりやや弱い。  
d2~10mmV層プロックを少し含む。  
純土粒子を全然含む。
- 褐褐色シルト(7SYR2/3)  
粒性やや弱い、しまりやや弱い。  
d2~10mmV層プロックを微量含む。  
純土粒子を全然含む。

&lt; P15 &gt;

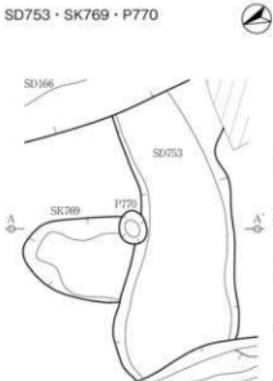
- 黑褐色シルト(10YR2/3)  
粒性やや弱い、しまりやや弱い。  
d0.5~1mmV層プロックを多く含む。純土粒子を微量含む。
- 褐褐色シルト(7SYR2/3)  
粒性やや弱い、しまりやや弱い。  
V層粒子を微量含む。純土粒子を微量含む。
- 褐褐色シルト(10YR4/6)  
粒性やや弱い、しまりやや弱い。  
純土粒子を微量含む。

&lt; P15 &gt;



遺構個別図 16

SD753・SK769・P770



&lt; SD753 &gt;

- 黒褐色シルト(10YR2/3)  
粒性やや弱い、しまりやや弱い。  
d1~5mmV層プロックを微量含む。純土粒子を微量含む。

2. 黒褐色シルト(10YR2/3)  
粒性やや弱い、しまりやや弱い。  
d1~5mmV層プロックを微量含む。純土粒子を微量含む。

3. 黑褐色シルト(7SYR2/3)  
粒性やや弱い、しまりやや弱い。  
d1~5mmV層プロックを含む。純土粒子を微量含む。

&lt; SK769 &gt;

- 褐褐色シルト(7SYR2/3)  
粒性やや弱い、しまりやや弱い。  
d2~15mmV層プロックを微量含む。純土粒子を微量含む。

2. 褐褐色シルト(7SYR2/3)  
粒性やや弱い、しまりやや弱い。  
d2~15mmV層プロックを少し含む。純土粒子を微量含む。

3. 褐褐色シルト(7SYR2/3)  
粒性やや弱い、しまりやや弱い。  
d2~15mmV層プロックを含む。純土粒子を微量含む。

&lt; P770 &gt;

- 褐褐色シルト(7SYR2/3)  
粒性やや弱い、しまりやや弱い。  
V層粒子を少し含む。

2. 褐褐色シルト(7SYR2/3)  
粒性やや弱い、しまりやや弱い。  
d1~3mmV層プロックを含む。純土粒子を微量含む。

P5・P219



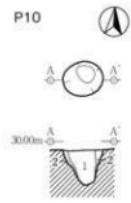
&lt; P5 &gt;

- 褐褐色シルト(7SYR2/3)  
粒性やや弱い、しまりやや弱い。  
d3~5mmV層プロックを微量含む。純土粒子を微量含む。
2. 褐褐色シルト(7SYR2/3)  
粒性やや弱い、しまりやや弱い。  
純土粒子を微量含む。
3. 褐褐色シルト(7SYR2/3)  
粒性やや弱い、しまりやや弱い。  
V層粒子を微量含む。純土粒子を微量含む。

&lt; P219 &gt;



P10



&lt; P10 &gt;

- 褐褐色シルト(7SYR2/3)  
粒性やや弱い、しまりやや弱い。  
純土粒子を微量含む。
2. 褐褐色シルト(10YR2/3)  
粒性やや弱い、しまりやや弱い。  
V層粒子を含む。純土粒子を微量含む。

&lt; P10 &gt;



P13



&lt; P13 &gt;

- 褐褐色シルト(10YR2/4)  
粒性やや弱い、しまりやや弱い。  
純土粒子を微量含む。

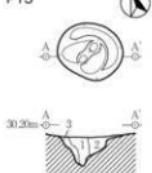
2. 褐褐色シルト(10YR2/4)  
粒性やや弱い、しまりやや弱い。  
V層粒子を少し含む。純土粒子を微量含む。

3. 褐褐色シルト(7SYR2/3)  
粒性やや弱い、しまりやや弱い。  
d1~2mmV層プロックを多く含む。純土粒子を微量含む。

4. 褐褐色シルト(10YR2/4)  
粒性やや弱い、しまりやや弱い。  
純土粒子を微量含む。

5. 褐褐色シルト(10YR2/4)  
粒性やや弱い、しまりやや弱い。  
V層粒子を多く含む。純土粒子を微量含む。

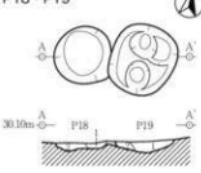
P15



&lt; P15 &gt;



P18・P19



&lt; P15 &gt;

1. 黑褐色シルト(10YR2/3)  
粒性やや弱い、しまりやや弱い。  
d0.5~1mmV層プロックを多く含む。純土粒子を微量含む。
2. 褐褐色シルト(7SYR2/3)  
粒性やや弱い、しまりやや弱い。  
V層粒子を微量含む。純土粒子を微量含む。
3. 褐褐色シルト(10YR4/6)  
粒性やや弱い、しまりやや弱い。  
純土粒子を微量含む。

&lt; P15 &gt;



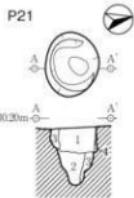
&lt; P18 &gt;

1. 褐褐色シルト(7SYR2/3)  
粒性やや弱い、しまりやや弱い。  
純土粒子を微量含む。

2. 褐褐色シルト(10YR2/4)  
粒性やや弱い、しまりやや弱い。  
V層粒子を含む。純土粒子を微量含む。

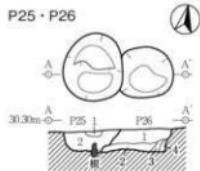
3. 褐褐色シルト(10YR2/4)  
粒性やや弱い、しまりやや弱い。  
V層プロックを含む。純土粒子を微量含む。

## 遺構個別図 17



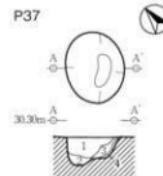
&lt; P21 &gt;

- 細胞褐色シルト(75YR2/3)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。  
φ10~20mmV層ブロックを多く含む。  
地上粒子を微量含む。
- 黒褐色シルト(75YR2/3)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。  
φ5~10mmV層ブロックを微量含む。  
地上粒子を微量含む。
- 褐色シルト(75YR2/3)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。  
φ5~10mmV層ブロックを多く含む。  
地上粒子を微量含む。
- 細胞褐色シルト(75YR2/3)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。  
地上粒子を微量含む。



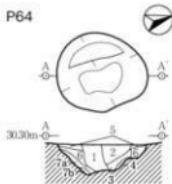
&lt; P25 &gt;

- 細胞褐色シルト(75YR2/3)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。  
V層粒子を少し含む。地上粒子を微量含む。
- 黒褐色シルト(75YR2/3)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。  
φ5~15mmV層ブロックを微量含む。  
地上粒子を微量含む。
- 細胞褐色シルト(75YR2/3)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。  
V層粒子を少し含む。地上粒子を微量含む。
- 細胞褐色シルト(75YR2/3)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。  
V層粒子を含む。地上粒子を微量含む。



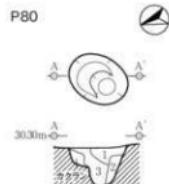
&lt; P37 &gt;

- 細胞褐色シルト(75YR3/2)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。  
地上粒子を微量含む。
- 黒褐色シルト(75YR2/2)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。  
V層粒子を含む。
- 細胞褐色シルト(75YR2/3)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。  
φ10~20mmV層ブロックを含む。  
地上粒子を微量含む。
- 細胞褐色シルト(75YR3/4)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。  
φ10~20mmV層ブロックを多く含む。  
地上粒子を微量含む。



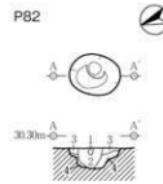
&lt; P64 &gt;

- 黒褐色シルト(10YR2/3)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い、V層粒子を多く含む。地上粒子を微量含む。
- 黒褐色シルト(10YR2/3)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い、V層粒子を微量含む。地上粒子を微量含む。
- 黒褐色シルト(10YR2/3)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い、V層粒子を微量含む。地上粒子を微量含む。
- 細胞褐色シルト(10YR2/3)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い、V層粒子を多く含む。地上粒子を微量含む。
- 細胞褐色シルト(10YR2/3)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い、V層粒子を微量含む。地上粒子を微量含む。
- 黒褐色シルト(10YR2/3)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い、V層粒子を微量含む。地上粒子を微量含む。
- 黒褐色シルト(10YR2/3)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い、V層粒子を微量含む。
- 黒褐色シルト(10YR2/3)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い、V層粒子を微量含む。



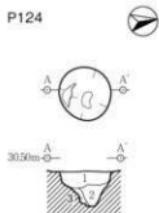
&lt; P80 &gt;

- 細胞褐色シルト(10YR2/3)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。  
V層粒子を少し含む。  
地上粒子を微量含む。
- 褐色シルト(10YR4/4)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。  
地上粒子を微量含む。
- 褐色シルト(10YR4/4)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。  
地上粒子を微量含む。
- 細胞褐色シルト(10YR4/4)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。  
φ5~10mmV層ブロックを少し含む。  
地上粒子を微量含む。



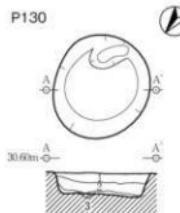
&lt; P82 &gt;

- 褐色シルト(10YR4/4)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。  
φ5~10mmV層ブロックを多く含む。  
地上粒子を微量含む。
- 褐色シルト(10YR4/4)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。  
φ5~10mmV層ブロックを少し含む。  
地上粒子を微量含む。
- 褐色シルト(10YR4/4)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。  
φ5~10mmV層ブロックを多く含む。  
地上粒子を微量含む。
- 褐色シルト(10YR4/4)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。  
地上粒子を微量含む。



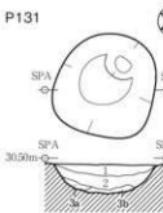
&lt; P124 &gt;

- 黒褐色シルト(10YR2/3)  
粘性やや弱い、しまりやや普通。  
V層粒子を多く含む。地上粒子を微量含む。
- 黒褐色シルト(10YR2/2)  
粘性やや弱い、しまりやや普通。  
化成粘土粒子を微量含む。V層粒子を含む。  
地上粒子を微量含む。
- 黒褐色シルト(10YR2/3)  
粘性やや弱い、しまりやや普通。  
化成粘土粒子を微量含む。V層粒子を含む。  
地上粒子を微量含む。



&lt; P130 &gt;

- 細胞褐色シルト(75YR2/3)  
粘性やや弱い、しまりやや普通。  
V層粒子を少し含む。地上粒子を微量含む。
- 細胞褐色シルト(75YR2/3)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。  
φ5~10mmV層ブロックを少し含む。  
地上粒子を微量含む。
- 細胞褐色シルト(75YR2/3)  
粘性やや弱い、しまりやや普通。  
化成粘土粒子を微量含む。V層粒子を多く含む。  
地上粒子を微量含む。

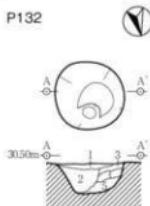


&lt; P131 &gt;

- 黒褐色シルト(75YR2/2)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。炭化物粒子を少し含む。  
V層粒子を少し含む。地上粒子を微量含む。
- 黒褐色シルト(10YR2/2)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。  
V層粒子を微量含む。地上粒子を微量含む。
- a) 細胞褐色シルト(75YR2/2)  
粘性やや弱い、しまりやや普通。  
V層粒子を多く含む。地上粒子を微量含む。
- b) 黑褐色シルト(10YR2/2)  
粘性やや弱い、しまりやや普通。  
V層粒子を多く含む。地上粒子を微量含む。

図版 24

P132

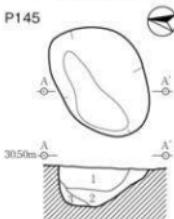


< P132 >

- 1 黒褐色シルト(7SYR2/2)  
粘性やや弱い、炭化物粒子を少し含む。  
V層粒子を微量含む。礁上粒子を微量含む。
- 2 極端なシルト  
粘性やや弱い、少しやや弱い。  
炭化物粒子を微量含む。礁上粒子を微量含む。
- 3 黒褐色シルト(7SYR2/2)  
粘性弱い、少しやや弱い。  
炭化物粒子を微量含む。礁上粒子を微量含む。
- 4 黒褐色シルト(7SYR2/2)  
粘性やや弱い、少しやや弱い。炭化物粒子を微量含む。  
V層粒子を微量含む。礁上粒子を微量含む。
- 5 黒褐色シルト(7SYR2/2)  
粘性やや弱い、少しやや弱い。炭化物粒子を微量含む。  
V層粒子を微量含む。礁上粒子を微量含む。

遺構個別図 18

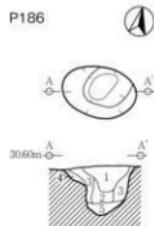
P145



< P145 >

- 1 黒褐色シルト(10YR2/2)  
粘性やや弱い、少しやや弱い。  
礁上粒子を微量含む。
- 2 黒褐色シルト(10YR2/2)  
粘性弱い、少しやや弱い。  
礁上粒子を微量含む。
- 3 黑褐色シルト(10YR2/3)  
粘性弱い、少しやや弱い。  
炭化物粒子を微量含む。  
V層粒子を微量含む。

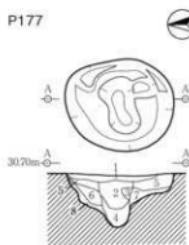
P186



< P186 >

- 1 黒褐色シルト(7SYR2/3)  
粘性やや弱い、少しやや弱い。  
礁上粒子を微量含む。  
0.1~2mmV層プロックを多く含む。礁上粒子を微量含む。
- 2 黒褐色シルト(7SYR2/3)  
粘性やや弱い、少しやや弱い。  
礁上粒子を微量含む。
- 3 にら・黄褐色シルト(10YR4/2)  
粘性弱い、少しやや弱い。  
0.6~10mmV層プロックを多く含む。礁上粒子を微量含む。
- 4 黄褐色シルト(7SYR3/3)  
粘性普通、少しやや弱い。  
0.6~10mmV層プロックを多く含む。礁上粒子を微量含む。
- 5 黑褐色シルト(10YR2/3)  
粘性弱い、少しやや弱い。  
礁上粒子を微量含む。

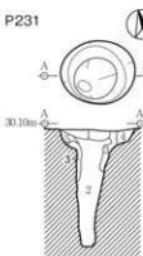
P177



< P177 >

- 1 黒褐色シルト(10YR2/3)  
粘性やや弱い、少しやや弱い。  
0.6~20mmV層プロックを多く含む。礁上粒子を微量含む。
- 2 にら・黒褐色シルト(10YR4/3)  
粘性やや弱い、少しやや弱い。  
0.6~10mmV層プロックを多く含む。礁上粒子を微量含む。
- 3 にら・黄褐色シルト(10YR2/3)  
粘性やや弱い、少しやや弱い。  
0.6~5mmV層プロックを多く含む。礁上粒子を微量含む。
- 4 極端黒褐色シルト(7SYR2/3)  
粘性やや弱い、少しやや弱い。  
0.1~5mmV層プロックを多く含む。礁上粒子を微量含む。
- 5 黒褐色シルト(7SYR2/3)  
粘性やや弱い、少しやや弱い。炭化物粒子を微量含む。  
0.1~5mmV層プロックを多く含む。礁上粒子を微量含む。
- 6 黑褐色シルト(7SYR2/2)  
粘性やや弱い、少しやや弱い。炭化物粒子を微量含む。  
0.1~10mmV層プロックを多く含む。礁上粒子を微量含む。
- 7 黑褐色シルト(7SYR4/6)  
粘性普通、少しやや弱い。礁上粒子を微量含む。
- 8 黑褐色シルト(7SYR4/6)  
粘性普通、少しやや弱い。礁上粒子を微量含む。

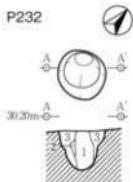
P231



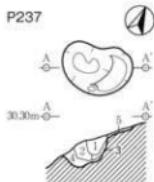
< P231 >

- 1 黒褐色シルト(10YR3/4)  
粘性やや弱い、少しやや弱い。  
炭化物粒子を微量含む。  
礁上粒子を微量含む。
- 2 黑褐色シルト(7SYR3/4)  
粘性やや弱い、少しやや弱い。  
0.1~15mmV層プロックを多く含む。礁上粒子を微量含む。
- 3 極端シルト(7SYR4/4)  
粘性やや弱い、少しやや弱い。  
0.1~20mmV層プロックを多く含む。礁上粒子を微量含む。
- 4 黑褐色シルト(7SYR2/2)  
粘性やや弱い、少しやや弱い。  
礁上粒子を微量含む。
- 5 黑褐色シルト(10YR4/4)  
粘性やや弱い、少しやや弱い。  
礁上粒子を微量含む。

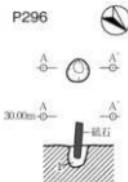
P232



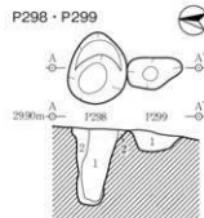
P237



P296



P298・P299



< P232 >

- 1 黑褐色シルト(10YR2/3)  
粘性やや弱い、少しやや弱い。  
0.1~20mmV層プロックを少し含む。  
礁上粒子を微量含む。
- 2 黑褐色シルト(10YR3/4)  
粘性やや弱い、少しやや弱い。  
0.1~20mmV層プロックを多く含む。  
礁上粒子を微量含む。
- 3 黑褐色シルト(7SYR2/4)  
粘性やや弱い、少しやや弱い。  
0.1~25mmV層プロックを多く含む。  
礁上粒子を微量含む。

< P237 >

- 1 黑褐色シルト(10YR2/3)  
粘性やや弱い、少しやや弱い。  
0.1~8mmV層プロックを微量含む。  
礁上粒子を全く含まない。
- 2 黑褐色シルト(10YR3/4)  
粘性普通、少しやや弱い。  
0.1~8mmV層プロックを多く含む。  
礁上粒子を全く含まない。
- 3 極端シルト(7SYR4/4)  
粘性やや弱い、少しやや弱い。  
V層粒子を少し含む。礁上粒子を全く含まない。
- 4 黑褐色シルト(7SYR4/4)  
粘性普通、少しやや弱い。  
0.1~5mmV層プロックを少し含む。  
礁上粒子を全く含まない。
- 5 黑褐色シルト(10YR4/4)  
粘性普通、少しやや弱い。  
0.1~10mmV層プロックを多く含む。  
礁上粒子を全く含まない。

< P296 >

- 1 黑褐色シルト(10YR2/3)  
粘性やや弱い、少しやや弱い。  
炭化物粒子を少し含む。  
V層粒子を多く含む。  
礁上粒子を微量含む。  
礁石出上。

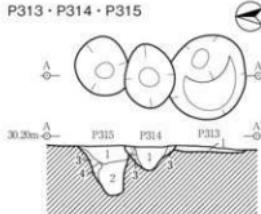
< P298 >

- 1 黑褐色シルト(10YR2/3)  
粘性弱い、少しやや弱い。  
炭化物粒子を微量含む。  
0.1~10mmV層プロックを多く含む。  
礁上粒子を微量含む。
- 2 黑褐色シルト(10YR3/3)  
粘性やや弱い、少しやや弱い。  
炭化物粒子を微量含む。  
0.1~20mmV層プロックを多く含む。  
礁上粒子を微量含む。

< P299 >

- 1 黑褐色シルト(10YR2/3)  
粘性弱い、少しやや弱い。  
炭化物粒子を微量含む。  
0.1~10mmV層プロックを多く含む。  
礁上粒子を微量含む。

P313・P314・P315

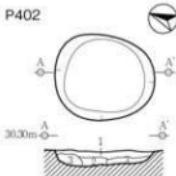


## 遺構個別図 19

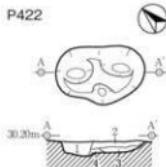
&lt; P313 &gt;

- 黒褐色シルト(10YR2-3)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。  
地土粒子を微量含む。
- 黒褐色シルト(10YR2-2)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い、炭化物粒子を微量含む。  
φ2~10mmV層ブロックを多く含む。地土全く含まない。
- 黒褐色シルト(10YR2-2)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い、炭化物粒子を微量含む。  
φ2~10mmV層ブロックを含む。地土全く含まない。
- 黒褐色シルト(10YR2-4)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。  
φ2~10mmV層ブロックを多く含む。地土全く含まない。

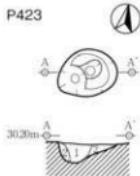
P402



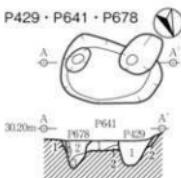
P422



P423



P429・P641・P678



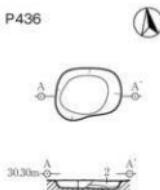
&lt; P429 &gt;

- 黒褐色シルト(10YR2-3)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。  
地土粒子を微量含む。
- 黒褐色シルト(7.5YR2-3)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。  
φ1~5mmV層ブロックを微量含む。
- 褐褐色シルト(7.5YR3-3)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。  
φ1~2mmV層ブロックを多く含む。  
地土粒子を微量含む。
- 褐褐色シルト(10YR2-3)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。  
φ1~2mmV層ブロックを少し含む。  
地土粒子を微量含む。

&lt; P678 &gt;

- 褐色シルト(10YR4-6)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。  
φ1~2mmV層ブロックを含む。  
地土粒子を微量含む。
- 褐褐色シルト(7.5YR2-3)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。  
地土粒子を微量含む。
- 褐褐色シルト(10YR3-4)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。  
φ1~5mmV層ブロックを含む。  
地土粒子を微量含む。

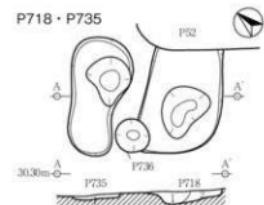
P436



P634



P718・P735



&lt; P436 &gt;

- 黒褐色シルト(7.5YR2-3)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。  
地土粒子を微量含む。
- 黒褐色シルト(7.5YR2-3)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。  
φ1~2mmV層ブロックを微量含む。  
地土粒子を微量含む。
- 褐褐色シルト(10YR3-4)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。  
φ1~2mmV層ブロックを多く含む。  
地土粒子を微量含む。

&lt; P634 &gt;

- 黒褐色シルト(10YR2-3)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。  
地土粒子を微量含む。
- 黒褐色シルト(7.5YR2-3)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。  
φ1~2mmV層ブロックを微量含む。  
地土粒子を微量含む。
- 褐褐色シルト(10YR2-3)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。  
φ1~2mmV層ブロックを微量含む。  
地土粒子を微量含む。

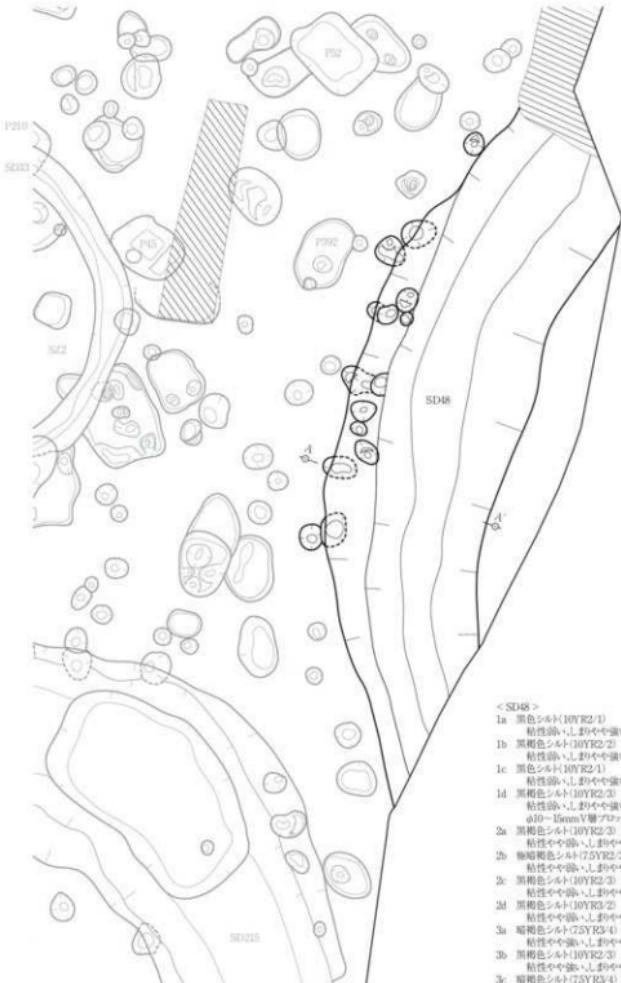
&lt; P718 &gt;

- 黒褐色シルト(7.5YR2-3)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。  
φ2~10mmV層ブロックを含む。地土粒子を微量含む。
- 黒褐色シルト(7.5YR2-3)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。  
φ3~5mmV層ブロックを微量含む。地土粒子を微量含む。
- 褐褐色シルト(10YR2-3)  
粘性やや弱い、しまりやや弱い。  
φ2~3mmV層ブロックを少し含む。地土粒子を微量含む。

図版 26

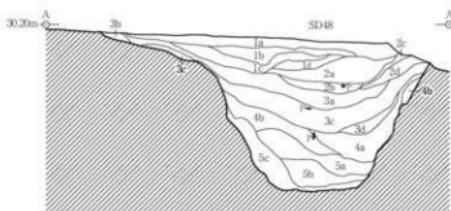
## 遺構個別図 20

SD48



&lt; SD48 &gt;

- 1a 黒褐色シルト(10YR2-1)  
粘性弱い、L.砂やや強い、燒土粒子を微量含む。
- 1b 黒褐色シルト(10YR2-1)  
粘性弱い、L.砂やや強い、燒土粒子を微量含む。
- 1c 黒褐色シルト(10YR2-1)  
粘性弱い、L.砂やや強い、燒土粒子を微量含む。
- 1d 黑褐色シルト(10YR2-1)  
粘性弱い、L.砂やや強い。  
φ10~15mmV層ブロックを微量含む。燒土粒子を微量含む。
- 2a 黑褐色シルト(10YR2-1)  
粘性やや弱い、L.砂やや強い、燒土粒子を微量含む。
- 2b 黑褐色色シルト(75YR2-3)  
粘性やや弱い、L.砂やや強い、燒土粒子を微量含む。
- 2c 黑褐色シルト(10YR2-1)  
粘性やや弱い、L.砂やや強い、燒土粒子を微量含む。
- 2d 黑褐色色シルト(10YR2-1)  
粘性やや弱い、L.砂やや強い、燒土粒子を微量含む。
- 3a 黑褐色シルト(75YR3-4)  
粘性弱い、L.砂やや強い、燒土粒子を微量含む。
- 3b 黑褐色シルト(75YR3-4)  
粘性弱い、L.砂やや強い、燒土粒子を微量含む。
- 3c 黑褐色シルト(75YR3-4)  
粘性弱い、L.砂やや強い。  
φ10~15mmV層ブロックを微量含む。燒土粒子を微量含む。
- 3d 黑褐色色シルト(75YR3-4)  
粘性弱い、L.砂やや強い、燒土粒子を微量含む。
- 4a 黑褐色シルト(75YR3-4)  
粘性弱い、L.砂やや強い。  
φ10~20mmV層ブロックを含む。燒土粒子を微量含む。
- 4b 黑褐色シルト(10YR2-3)  
粘性やや弱い、L.砂やや強い。  
燒土粒子を微量含む。西側からの流入か。
- 5a 黑褐色シルト(75YR3-4)  
粘性やや弱い、L.砂やや強い。  
φ15~20mmV層ブロックを含む。燒土粒子を微量含む。西側からの流入か。
- 5b 黑褐色シルト(10YR2-3)  
粘性やや弱い、L.砂やや強い。  
燒土粒子を微量含む。西側からの流入か。
- 5c 黑褐色シルト(10YR3-4)  
粘性やや弱い、L.砂やや強い。V層粒子を多く含む。  
燒土粒子を微量含む。西側からの流入か。



0

平野部 (1:60)

4m

0

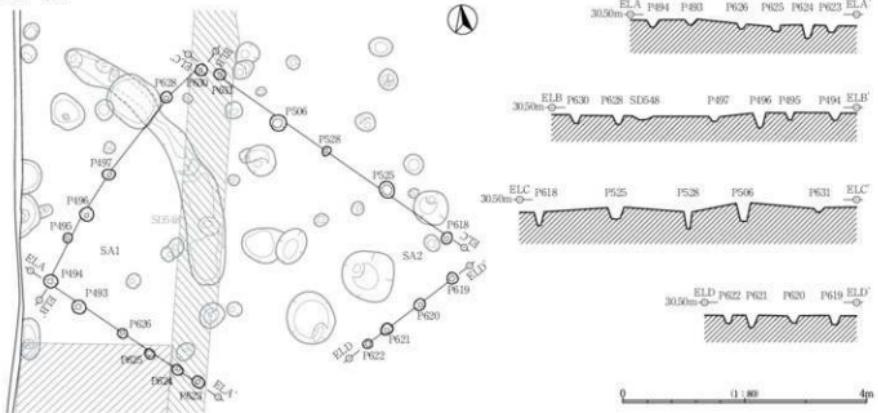
平野部 (1:40)

2m

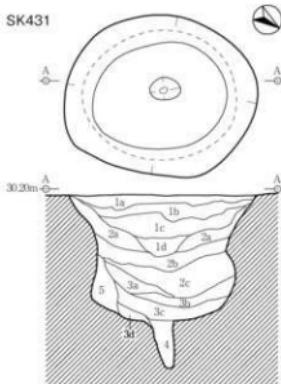
### 遺構個別図 21

圖版 27

SA1 • SA2



SK431



〈55411〉

- 11 黒葉色シロキ(10YR2/2)
    - 黒葉や青葉、L90cmで小ぶり。地上枝子を微細重合む。
    - 黑葉色シロキ(10YR2/2)
      - 黑葉や青葉、L90cmで小ぶり。地上枝子を微細重合む。
    - 黑葉色シロキ(10YR2/2)
      - 黑葉や青葉、L90cmで小ぶり。地上枝子を微細重合む。
  - 12 黒葉色シロキ(10YR2/2)
    - 黑葉や青葉、L90cmで小ぶり。皮肉枝子を微細重合む。
      - 10mmV蔓第2芽付から含む。地上枝子を微細重合む。
    - 黑葉色シロキ(10YR2/2)
      - 黑葉や青葉、L90cmで小ぶり。皮肉枝子を微細重合む。
        - 10mmV蔓第2芽付から含む。地上枝子を微細重合む。
  - 13 黑葉色シロキ(10YR2/2)
    - 黑葉や青葉、L90cmで小ぶり。地上枝子を微細重合む。
      - 2mmV蔓第2芽付から含む。地上枝子を微細重合む。
    - 黑葉色シロキ(10YR2/2)
      - 黑葉や青葉、L90cmで小ぶり。皮肉枝子を少し含む。
        - 20mmV蔓第2芽付から含む。地上枝子を微細重合む。
  - 14 黑葉色シロキ(10YR2/2)
    - 黑葉や青葉、L90cmで小ぶり。地上枝子を微細重合む。
      - 10mmV蔓第2芽付から含む。地上枝子を微細重合む。

### 3a 暗脚色シルト(7.5YR3-3)

- 粘性や小粒、L1-L2の小粒。

① 1mm<sup>2</sup>面積/7粒<sup>2</sup>以下を含む。地上粒子を微量含む。

3) 菌糸色シート(75YR3)

粘性や小粒、L1-L2の小粒。

② 1mm<sup>2</sup>面積/7粒<sup>2</sup>以下を含む。地上粒子を微量含む。

3) 菌糸色シート(10YR2/3)

粘性や小粒、L1-L2の小粒。

① 1mm<sup>2</sup>面積/7粒<sup>2</sup>以下を含む。地上粒子を微量含む。

3) 菌糸色シート(75YR3)

粘性や小粒、L1-L2の小粒。

① 1mm<sup>2</sup>面積/7粒<sup>2</sup>以下を含む。地上粒子を微量含む。

4) 黄色色シート(10YR2/3)

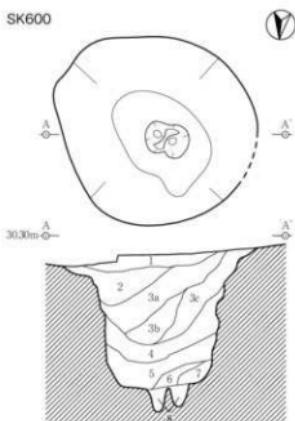
粘性や小粒、L1-L2の小粒。

② 1mm<sup>2</sup>面積/7粒<sup>2</sup>以下を含む。地上粒子を微量含む。

5) 開閉シート(75YR4/5)

粘性や小粒、L1-L2の小粒。地上粒子を微量含む。

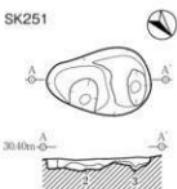
SK600



< SK(600) >

- 1 黒褐色色調UV-R2/2)  
粘性や $\downarrow$ 、 $\downarrow$ 。 $\downarrow$ から $\downarrow$ 、 $\downarrow$ 。燒上粒子を微量含む。
  - 2 黒褐色色調UV-R2/2)  
粘性や $\downarrow$ 、 $\downarrow$ 。 $\downarrow$ から $\downarrow$ 。 $\downarrow$ 。 $\downarrow$ — $\downarrow$ 。5mm<sup>2</sup>ラップを微量含む。燒上粒子を微量含む。
  - 3 黒褐色色調UV-R2/2)  
粘性や $\downarrow$ 、 $\downarrow$ 。 $\downarrow$ から $\downarrow$ 。 $\downarrow$ 。 $\downarrow$ — $\downarrow$ 。5mm<sup>2</sup>ラップを含む。燒上粒子を微量含む。
  - 4 黒褐色色調UV-R2/2)  
粘性や $\downarrow$ 、 $\downarrow$ 。 $\downarrow$ から $\downarrow$ 。 $\downarrow$ 。 $\downarrow$ — $\downarrow$ 。5mm<sup>2</sup>ラップを含む。燒上粒子を微量含む。
  - 5 黑褐色色調UV-R2/2)  
粘性や $\downarrow$ 、 $\downarrow$ 。 $\downarrow$ から $\downarrow$ 。 $\downarrow$ 。 $\downarrow$ — $\downarrow$ 。5mm<sup>2</sup>ラップを含む。燒上粒子を微量含む。
  - 6 黑褐色色調UV-R2/2)  
粘性や $\downarrow$ 、 $\downarrow$ 。 $\downarrow$ から $\downarrow$ 。 $\downarrow$ 。 $\downarrow$ — $\downarrow$ 。5mm<sup>2</sup>ラップを含む。燒上粒子を微量含む。
  - 7 黑褐色色調UV-R2/2)  
粘性や $\downarrow$ 、 $\downarrow$ 。 $\downarrow$ から $\downarrow$ 。 $\downarrow$ 。 $\downarrow$ — $\downarrow$ 。5mm<sup>2</sup>ラップを含む。燒上粒子を微量含む。
  - 8 黑褐色色調UV-R2/2)  
粘性や $\downarrow$ 、 $\downarrow$ 。 $\downarrow$ から $\downarrow$ 。 $\downarrow$ 。 $\downarrow$ — $\downarrow$ 。5mm<sup>2</sup>ラップを含む。燒上粒子を微量含む。

SK251



- 1 黒色ルート(75YR2/1)  
粘性弱い。土寄せや弱い。  
V型粒子を少し含む。焼土粒子を微量含む。
  - 2 黑褐色ルート(10YR2/3)  
粘性弱い。土寄せ普通。  
V型粒子を多く含む。焼土粒子を微量含む。
  - 3 暗褐色ルート(75YR3/4)  
粘性や強い。土寄せや強い。  
V型粒子を多く含む。焼土粒子を微量含む。

図版28

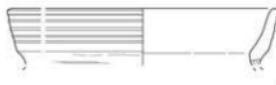
## 出土遺物I

SB1

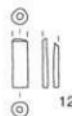
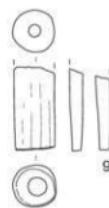
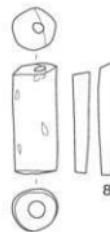
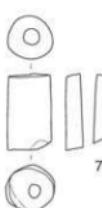
P52



P45



SZ3(SK96)



-○-

16

-○-

17

-○-

18

-○-

19

-○-

20

-○-

21

-○-

22

-○-

23

-○-

24

-○-

25

-○-

26

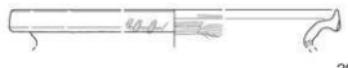
-○-

27

-○-

28

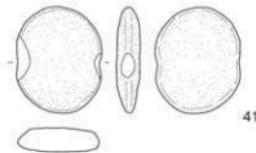
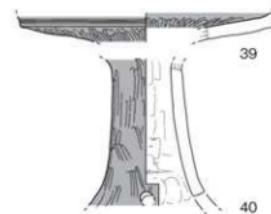
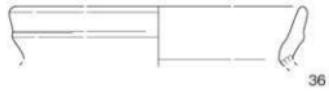
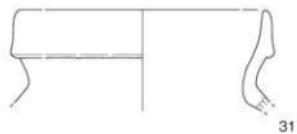
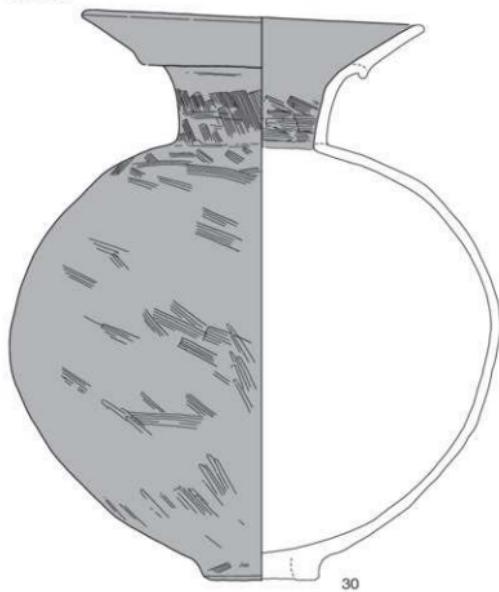
SK454



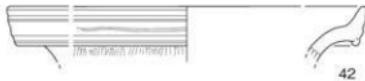
0 土面 (1:3) 15cm

0 壁面 (1:1) 5cm

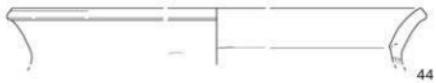
SD215



SD229



SD239



図版30  
SK329

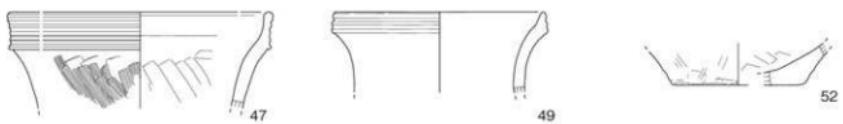
出土遺物3



45

46

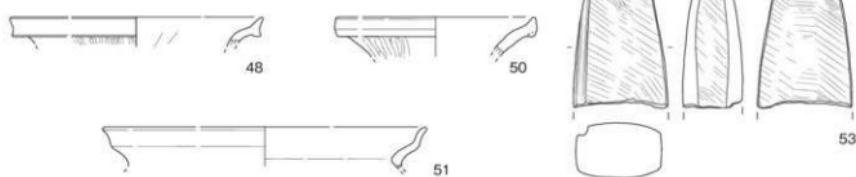
SD48



47

49

52



48

50

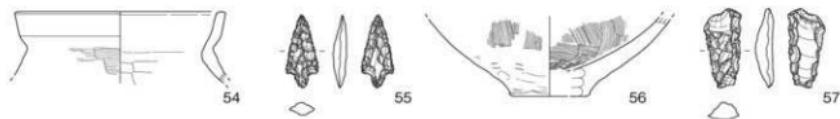
53

P37

P232

P691

P703



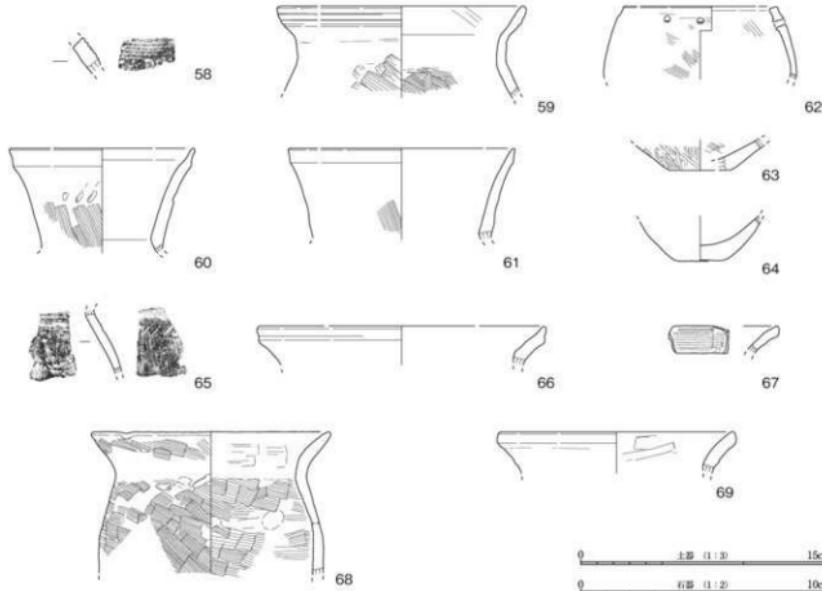
54

55

56

57

包含層



58

59

62

60

61

63

65

66

64

68

69

0 15cm  
土器 (1:3)

0 10cm  
石器 (1:2)

## 出土遺物4

図版31

包含層



70



71



72



73



74



77



75



76



78



79

縄文時代  
SK454

80



81



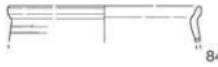
82

古代  
SD120

83



SD215



84



87



85



86

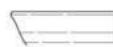
SD48



88



包含層



90



91



92



93

SD88



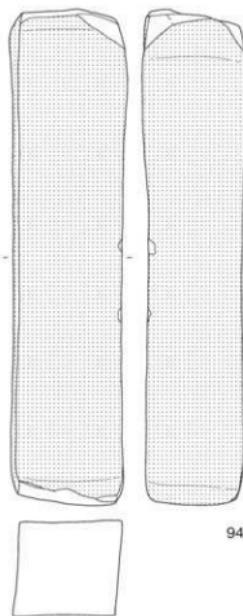
89



1 : 3 15cm

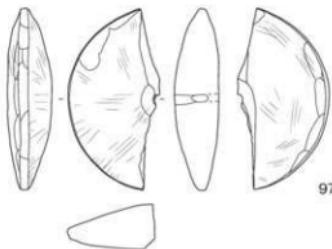
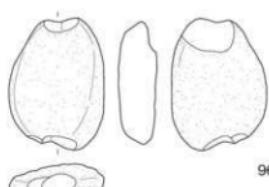
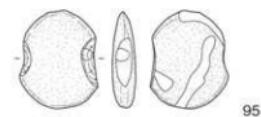
図版32

P296

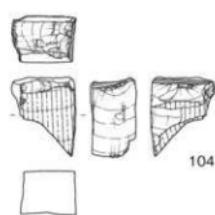
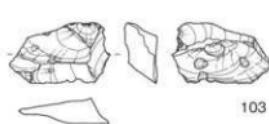
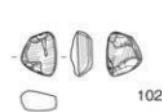
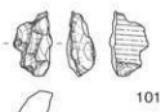
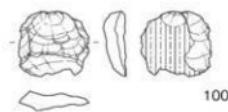
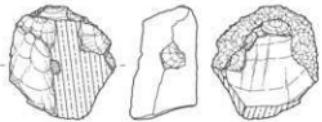
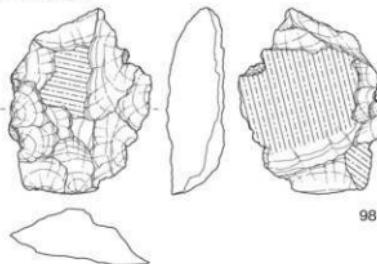


出土遺物5

包含層



SK214・包含層



0 94~97 (1:3) 15cm  
0 98~104 (1:2) 10cm



調査区遠景（東から日本海方向）



調査区遠景（西から）



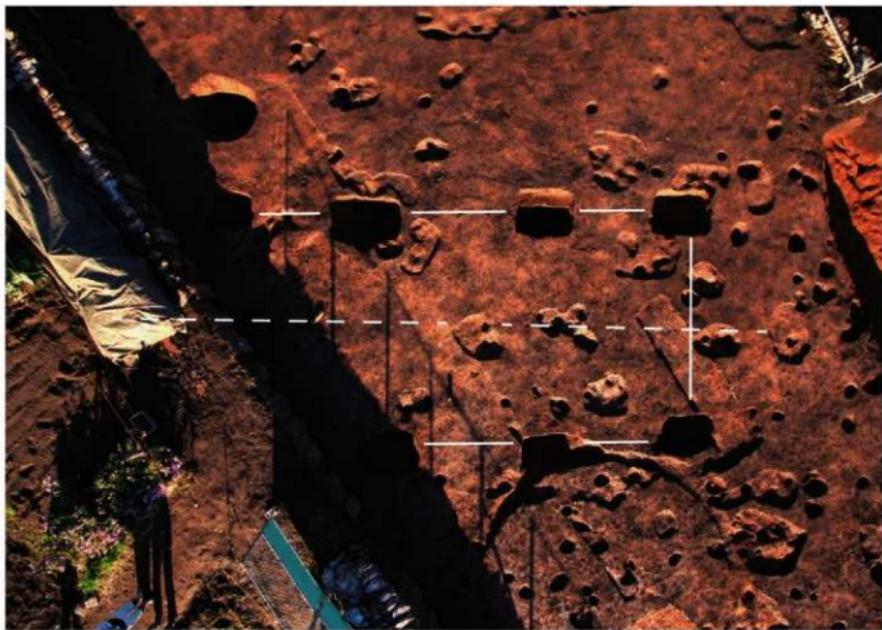
調査区全景（上空から 上が北）



調査区全景（上空から 上が北）



SB1 全景（上空から 上が北東）



SB1 完成全景（上空から 上が北東）



P45 土層断面（北東から）



P45 完掘（南西から）



P52 完掘（南西から）



P52 土層断面（北東から）



P53 土層断面（南西から）



P53 土層断面（南西から）



P54 土層断面（南西から）



P54 土層断面（南西から）



P57 土層断面（北東から）



P57 完掘（南西から）



P77 土層断面（南西から）



P77 完掘（北東から）



P210 土層断面（南西から）



P210 完掘（南西から）



P392 土層断面（南東から）



P391・P392 完掘（南東から）



SZ3 完掘（南西から）



SK96 土層断面（北西から）



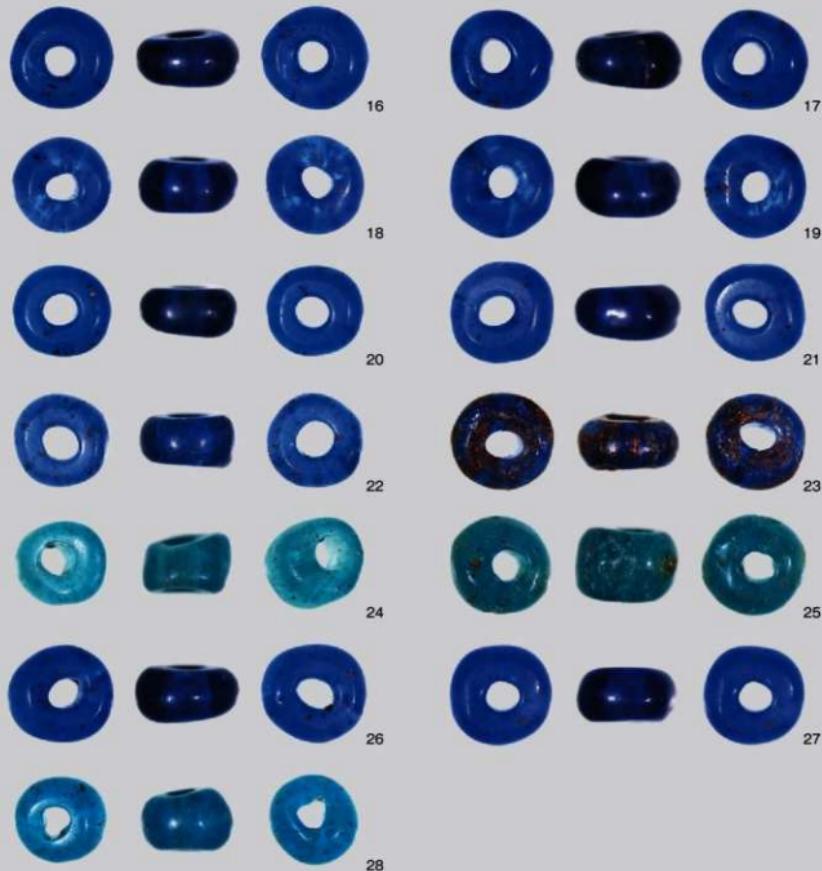
SK96 完掘（北東から）



SK96 玉類出土状況（北東から）



SK96 出土玉類





SZ1 完掘（上空から 上が南）



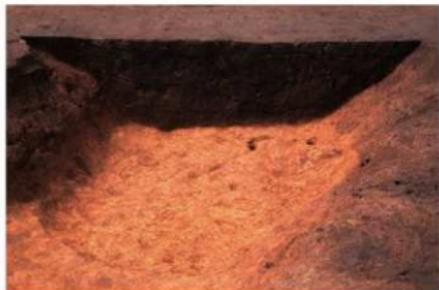
SZ1 完掘（上空から 上が南）



SD215 壺出土状況（南東から）



SD215 壺出土状況（南から）



SD215 土層断面（東から）



SD215 土橋部分土層断面（北東から）



SD215 出土地壺（30）

遺構 1

図版 43



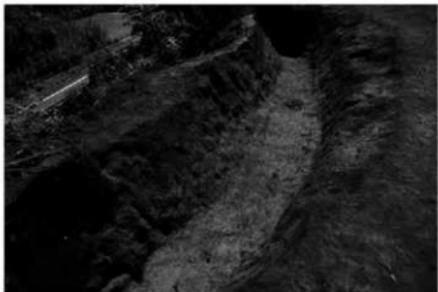
SD33 土層断面 (東から)



SD33 完掘 (北から)



SD48 完掘 (南から)



SD48 完掘 (北から)



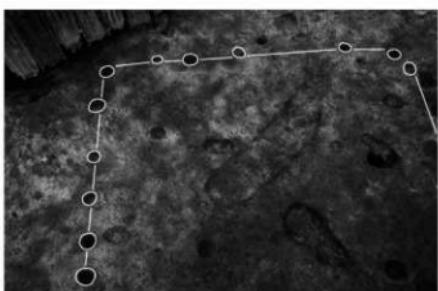
SD48 土層断面 (南から)



SB2 完掘 (上が東)



SB2 完掘 (北から)



SA1 完掘 (南東から)

図版 44

遺構 2



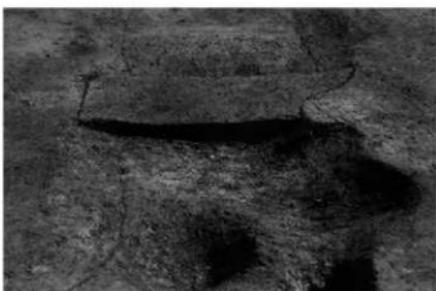
SK24 完掘（南から）



SD87 土層断面 A（西から）



SD87 土層断面 B（南から）



SD87 土層断面 C（西から）



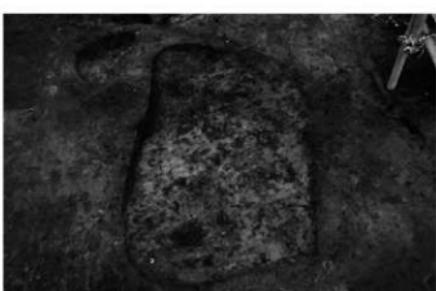
SK454 完掘（南から）



SK454 土層断面 A-B（北から）



SK454 土層断面 C（東から）



SK451 完掘（南から）

遺構 3

図版 45



SK451 土層断面 A-B (南西から)



SK451 土層断面 C (西から)



SK453 完整 (東から)



SK453 土層断面 A-B (西から)



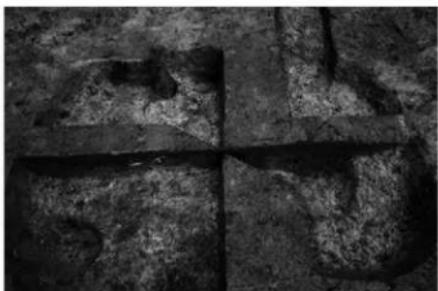
SK453 土層断面 C (南から)



SK458 完整 (北から)



SK458 土層断面 A (南から)



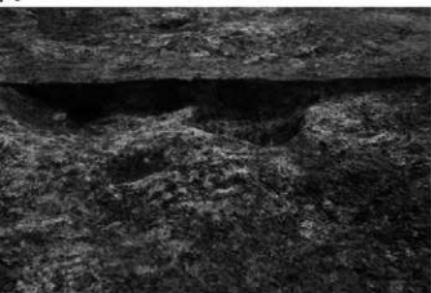
SK458 土層断面 B (西から)

図版 46

遺構 4



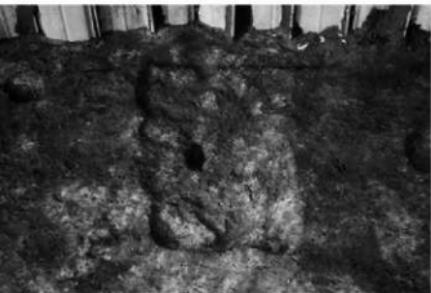
SK26 完掘（南から）



SD576・P591・P584 土層断面 A（西から）



SD576 土層断面 B（南から）



SK579 完掘（東から）



SK579 土層断面 A-B（東から）



SK579 土層断面 C（南から）



SK578 完掘（東から）



SK578 土層断面 A-B（東から）



SK578 土層断面 C (南から)



SZ7 完成 (南から)



SD166・SK563 土層断面 A (東から)



SD166・SK563 土層断面 B (南から)



砂による埋め戻し完了



養生完了



現地説明会の様子



現地説明会の様子

図版48

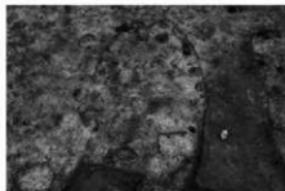
遺構6



SK744 土層断面 A・B (西から)



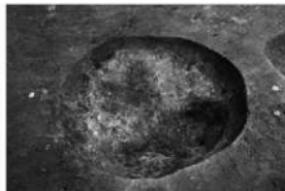
SK744 土層断面 C (北から)



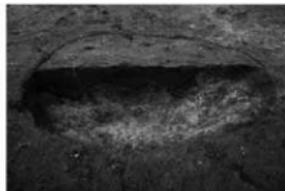
SK744 完掘断面 (西から)



SK22 土層断面 (南から)



SK22 完掘 (南から)



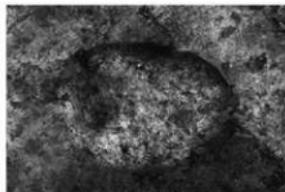
SK27 土層断面 (南から)



SK27 完掘 (南から)



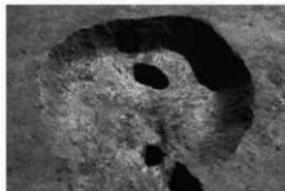
SK51 土層断面 (東から)



SK51 完掘 (北東から)



SK85・P84 土層断面 (東から)



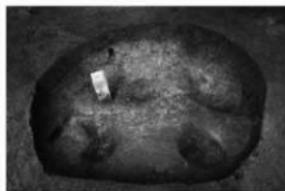
SK85・P84 完掘断面 (北から)



SK94・P95 土層断面 (東から)



SK100 土層断面 (東から)



SK100 完掘 (東から)



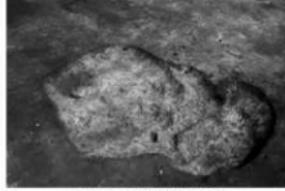
SK214・SD288 土層断面 (東から)



SK214 完掘 (東から)



SK220 土層断面 (南から)



SK220 完掘 (西から)

遺構 7

図版 49



SK240 土層断面 (北から)



SK240 完掘 (北から)



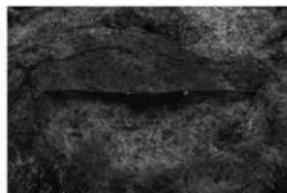
SK329 土層断面 A-B (東から)



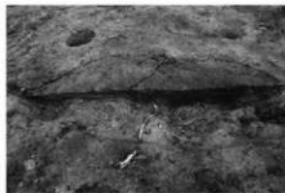
SK329 土層断面 C (南から)



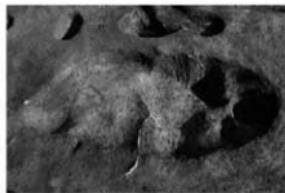
SK329 完掘 (東から)



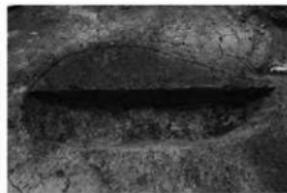
SK380 土層断面 (南東から)



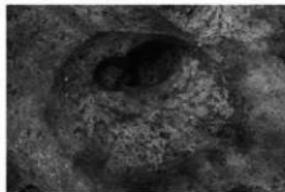
SK368・SK383 土層断面 (西から)



SK368・SK383 完掘 (西から)



SK382 土層断面 (東から)



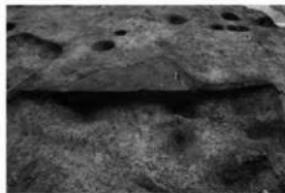
SK380 完掘 (東から)



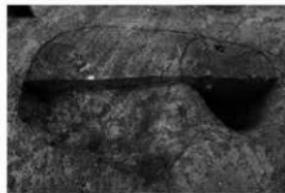
SK389・P388 土層断面 A (北西から)



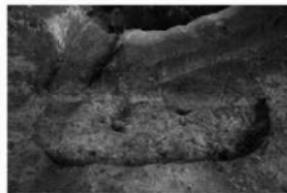
SK389 土層断面 B (南西から)



SK403・SK404 土層断面 (西から)



SK413・P414 土層断面 (東から)



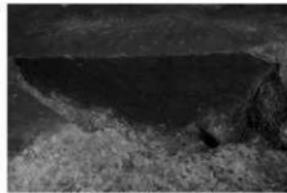
SK420 土層断面 (南から)



SK424 土層断面 (北東から)

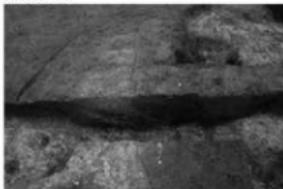


SK455 土層断面 (南から)



SK509 土層断面 (南西から)

図版 50



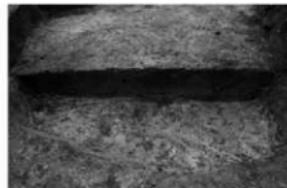
SK520 土層断面 A (南西から)



SK520 土層断面 B (南東から)



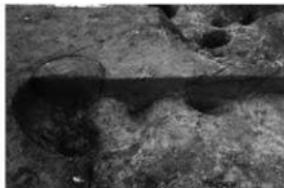
SK520 完掘 (西から)



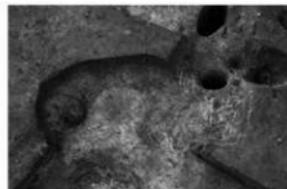
SK599 土層断面 (南から)



SK654・SK655 土層断面 (北東から)



P758・SK759・SK760 土層断面 (東から)



P758・SK759・SK760 完掘 (東から)



SK769・P770・SD753 土層断面 (西から)



SK769・P770・SD753 完掘 (西から)



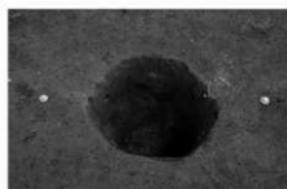
P4 土層断面 (南から)



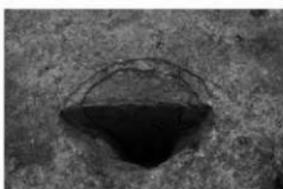
P4 完掘 (南から)



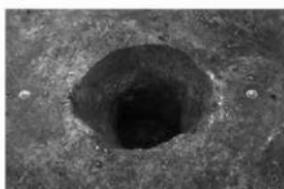
P5・P219 土層断面 (南から)



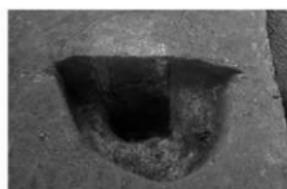
P5・P219 完掘 (南から)



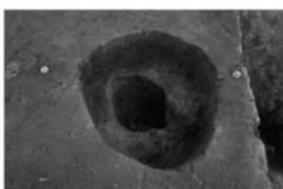
P10 土層断面 (南から)



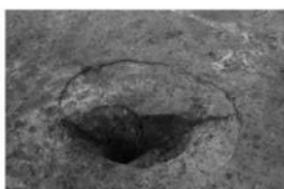
P10 完掘 (南から)



P13 土層断面 (南から)



P13 完掘 (南から)

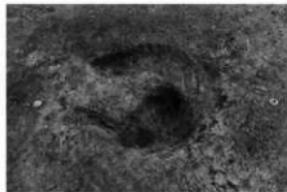


P15 土層断面 (南から)

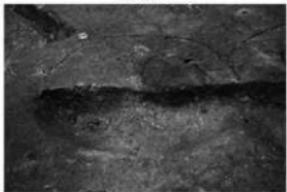
遺構 8

遺構 9

図版 51



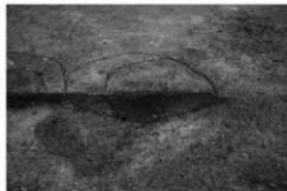
P15 完掘（南から）



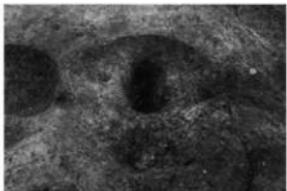
P18 土層断面（南から）



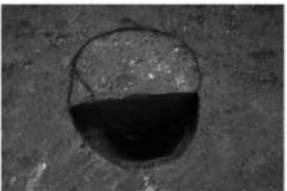
P18 完掘（南から）



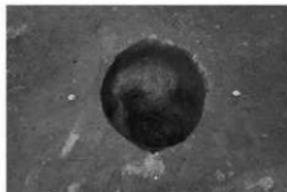
P19 土層断面（南から）



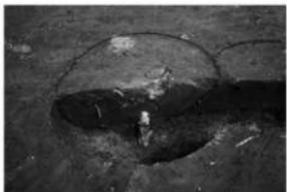
P19 完掘（南から）



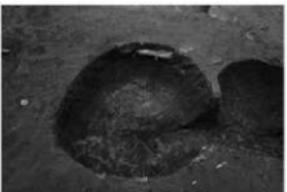
P21 土層断面（東から）



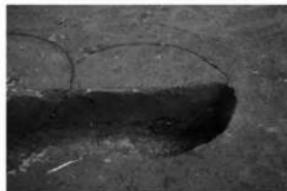
P21 完掘（東から）



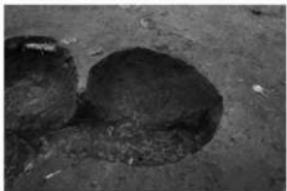
P25 土層断面（南西から）



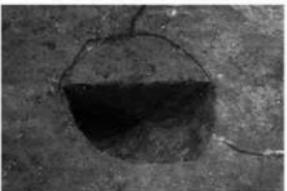
P25 完掘（南西から）



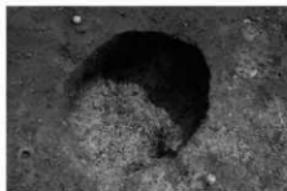
P26 土層断面（南西から）



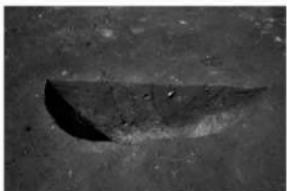
P26 完掘（南西から）



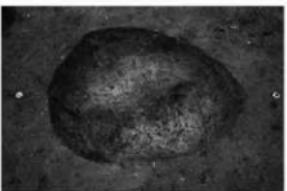
P27 土層断面（北から）



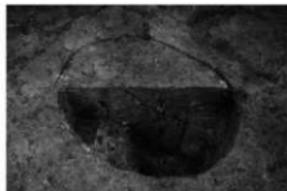
P27 完掘（北から）



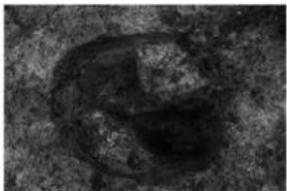
P64 土層断面（西から）



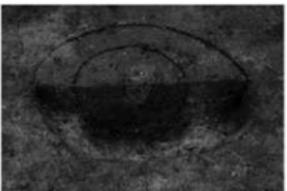
P64 完掘（西から）



P80 土層断面（西から）



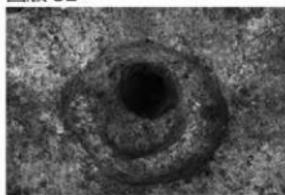
P80 完掘（西から）



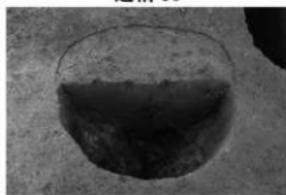
P82 土層断面（西から）

図版 52

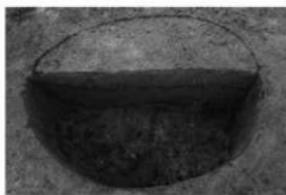
遺構 10



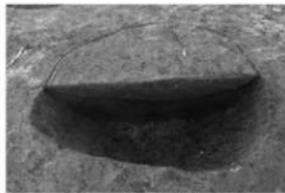
P82 完掘 (西から)



P124 土層断面 (東から)



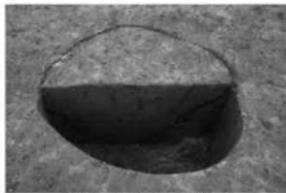
P130 土層断面 (南東から)



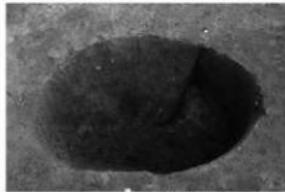
P131 土層断面 (東から)



P132 土層断面 (南から)



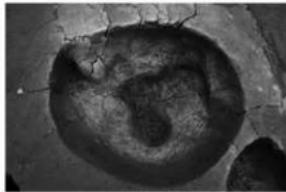
P145 土層断面 (西から)



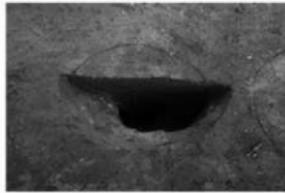
P145 完掘 (北西から)



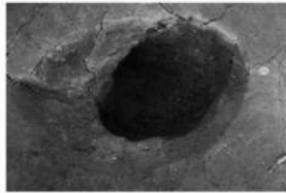
P177 土層断面 (東から)



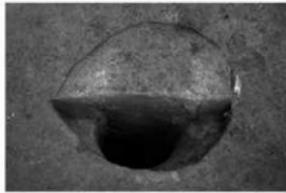
P177 完掘 (西から)



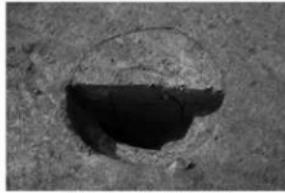
P186 土層断面 (南から)



P186 完掘 (南から)



P231 土層断面 (南から)



P232 土層断面 (南東から)



P232 完掘 (東から)



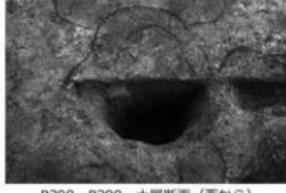
P237 土層断面 (南西から)



P296 砥石出土状況 (西から)



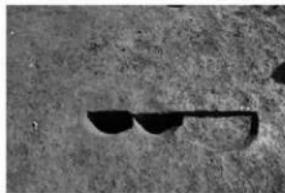
P296 土層断面 (北から)



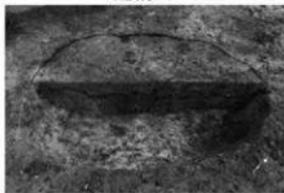
P298・P299 土層断面 (西から)

遺構 11

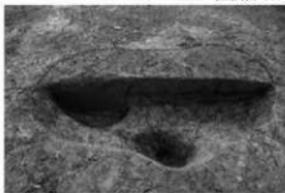
図版 53



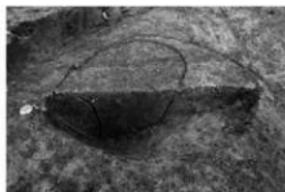
P314・P315・P313 土層断面（西から）



P402 土層断面（南西から）



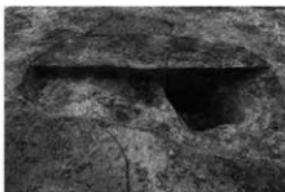
P422 土層断面（北東から）



P423 土層断面（南東から）



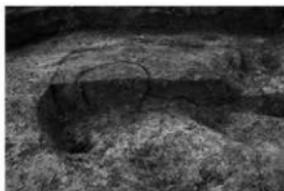
P429・P641・P678 土層断面（北東から）



P434 土層断面（北東から）



P436 土層断面（北から）



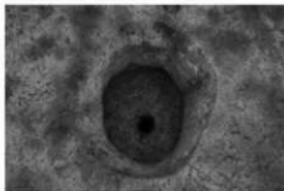
P634 土層断面（北西から）



P718・P735 土層断面（南西から）



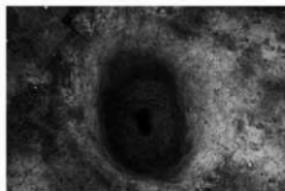
SK431 土層断面（北東から）



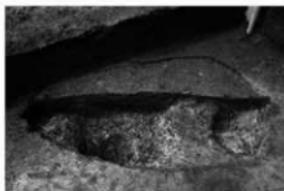
SK431 完掘（南東から）



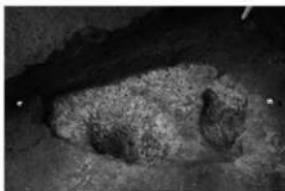
SK600 土層断面（北から）



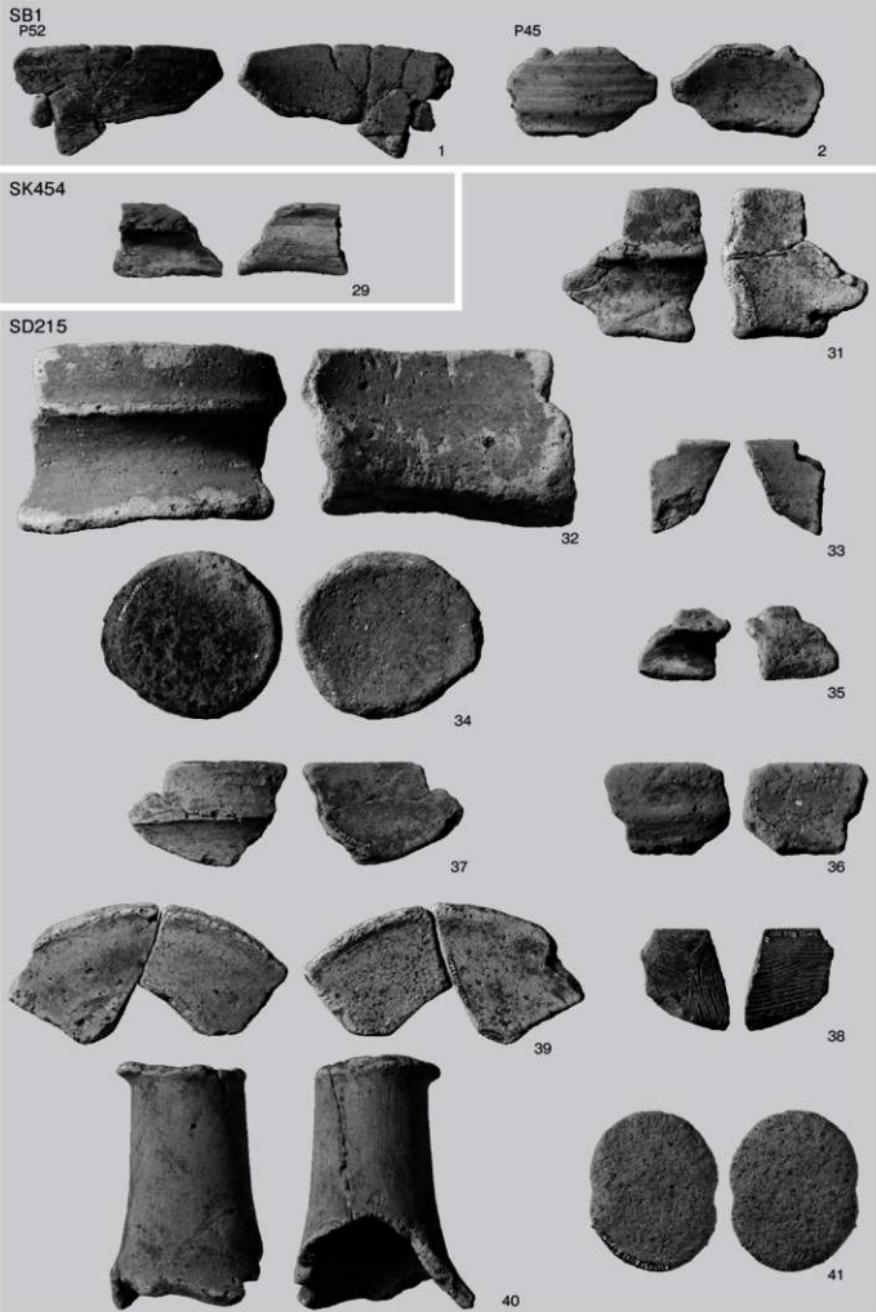
SK600 完掘（南東から）



SK251 土層断面（北東から）



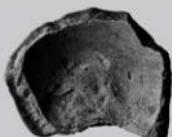
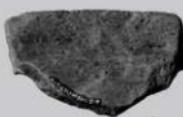
SK251 完掘（北から）



## 出土遺物2

図版55

SD229



42

43

SD239

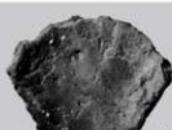
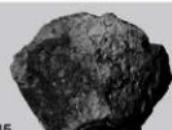


44

SK329

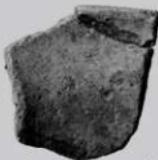


45



46

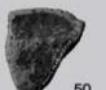
SD48



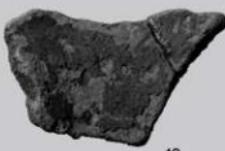
47



48



50



49



51

P37

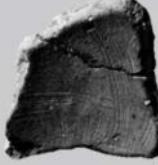


54



52

P691



56



53

P232



55

P703

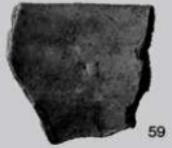


57

包含層

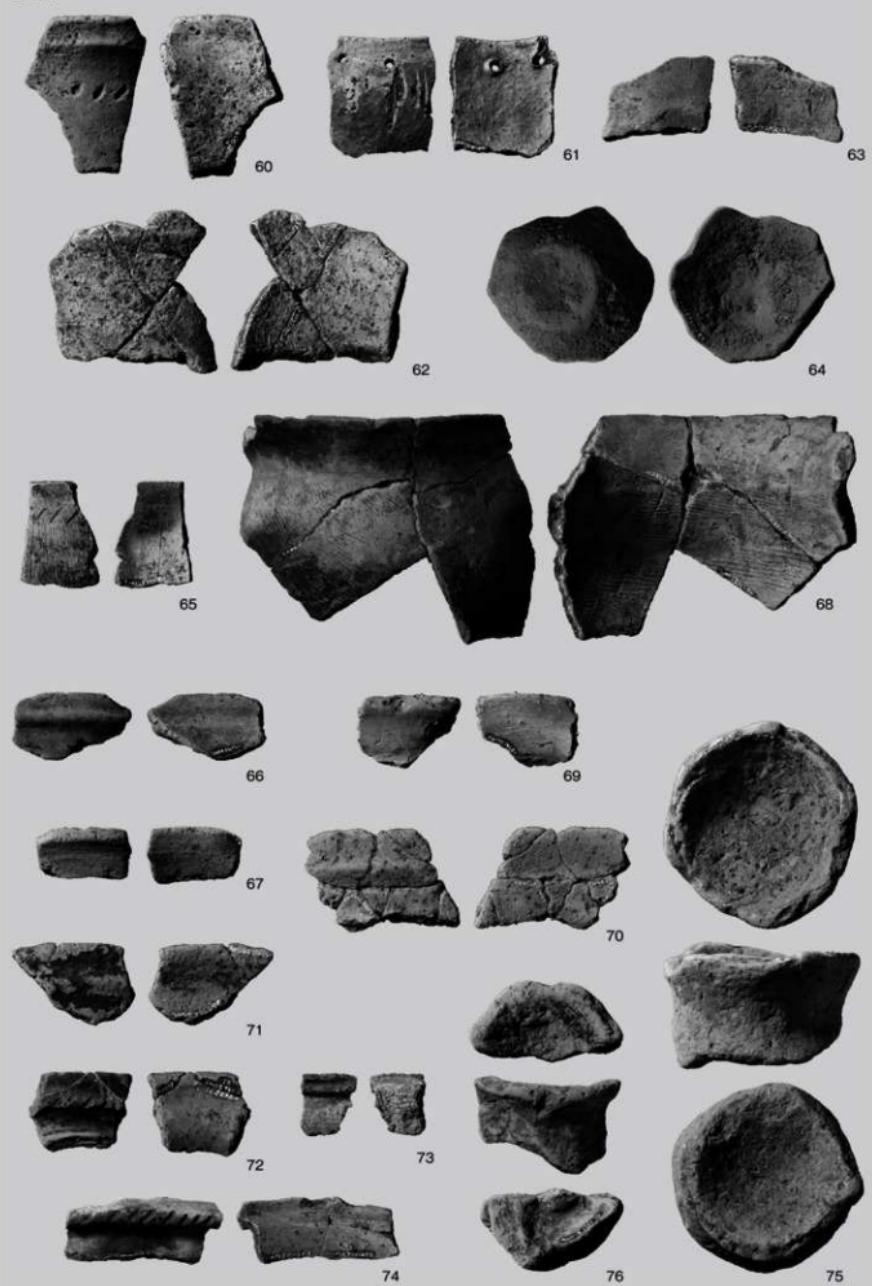


58



59

包含層



## 包含層



77



78



80



79



81

縄文時代  
SK454

82

古代  
SD120

83



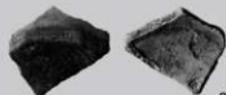
## SD215



84



85



86



87

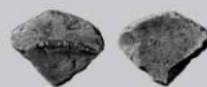
## SD48



88



## SD88



89

## 包含層



90



92



91

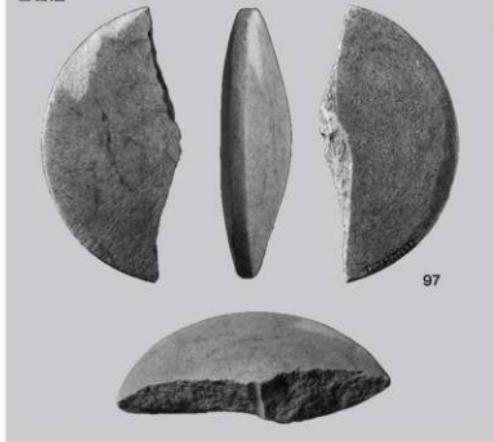


93

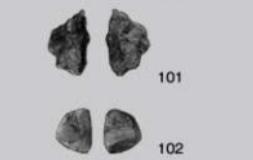
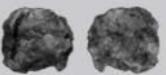
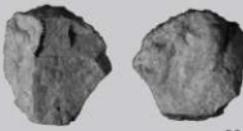
P296



包含層



SK214・包含層



## 報告書抄録

ふりがな	にしいわの 2							
書名	西岩野 2							
副書名	新潟県柏崎市 西岩野遺跡（第5次）発掘調査報告書							
卷次								
シリーズ名	柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第95集							
編著者名	中島義人（柏崎市教育委員会）/ 丹 俊詞・春日雅美（藤村ヒューム管株式会社） (株) 加速器分析研究所 / 田村朋美（独立行政法人奈良文化財研究所）							
編集機関	柏崎市教育委員会（担当：博物館）							
発行者	柏崎市教育委員会							
所在地	〒945-8511 新潟県柏崎市中央町5番50号 TEL 0257-23-5111							
発行年月日	西暦 2019年（平成31年）3月15日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間 西暦年月日	調査積 m <sup>3</sup>	調査原因
西岩野遺跡	新潟県 柏崎市 大字山本地内	市町村	遺跡番号	37度 23分 46秒	138度 35分 42秒	20170711 ～ 20171022	1,800	記録保存調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物		特記事項
西岩野遺跡	墓域	弥生時代（後期） 古墳時代（前期）	環濠・掘立柱建物・方形周溝墓 ・円形周溝墓・土壤墓・樋列・ 円形周溝状遺構・土坑・ピット			勾玉・管玉・ガラス小玉 弥生土器・土師器・砥石 有孔円盤状石器・石鏡		弥生時代の 大型掘立柱 建物が出土
要約	柏崎平野の北西部で鰐石川と別山川の合流地点から北に約600mに位置し、荒浜砂丘から派生し、東側の沖積地に細長く舌状に突き出た中位段丘上に立地している。県道黒部柏崎線道路改良工事により消滅する区域について発掘調査を実施した。これまで4次にわたり発掘調査を実施し、堅穴建物、大溝（環濠）、土坑などを検出している。今回の第5次発掘調査により、弥生時代後期の環濠と考えられる溝が確認できたことや、大型掘立柱建物、方形周溝墓、円形周溝墓、土壤墓、環濠などや古墳時代前期の円形周溝状遺構を確認した。 大型掘立柱建物は弥生時代のものとして新潟県内で初めて確認されたもので、日本海側で最北に位置する。							

※ 緯度・経度は世界測地系に基づく。

柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第95集

西 岩 野 2

— 新潟県柏崎市 西岩野遺跡遺跡（第5次）発掘調査報告書 —

平成31年（2019年）3月1日 印刷

平成31年（2019年）3月15日 発行

発行 柏崎市教育委員会  
〒945-8511 新潟県柏崎市中央町5番50号

印刷 株式会社 小田  
〒945-1352 新潟県柏崎市安田4153-1

